

# 全学共通科目

授業科目名	HG100C 北陸学院セミナー			開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
<b>授業の概要</b>				<b>授業の到達目標</b>			
<p>1. 大学礼拝 礼拝：毎週平均2.5回以上の出席。水曜：献金礼拝。宗教行事や世界の子ども支援に用いる。花の日：6月 花を諸施設に届ける。特別伝道礼拝：牧師を招き1年生を対象に、1年生は必ず出席。創立記念礼拝：9月 学院の歴史、建学の精神に触れる。大学祭開会礼拝：10月栄光祭時。収穫感謝：11月 果物を諸施設に届ける。クリスマス礼拝：2020年度は12月22日。学外説教者を招き、特別な礼拝を行なう。学科ごと祝会も行う。1年生は必ず出席。</p> <p>2. フレッシュマン・セミナー 本学独自の行事。全学科1年生が出席。聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。学科ごとに準備、事前・事後学習も行う。2020年度：5月22日(金)～23日(土) Royal Hotel 能登 講師・楠本史郎学院長・学長</p>				<p>1) 聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聞き取る方法を体得する</p> <p>2) 讃美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する</p> <p>3) 祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる</p> <p>4) 生の意味について考え、自分の存在の意味を考える</p> <p>5) 世界と歴史の意味に触れる</p> <p>6) 自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する</p> <p>7) 教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む</p>			
教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーへの参加						
履修条件	宗教オリエンテーションおよびキリスト教概論 で礼拝への参加方法を読み、フレッシュマン・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝出席回数と姿勢	50	・聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。チャペルでは私語を慎み、心を静めて礼拝に集中している。レポートに記入し、押印カードを提出している。			課題・レポート	10	・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。
フレッシュマンセミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聞いて理解し、グループでの話し合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。					
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<p>1) 日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。</p> <p>2) 地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。</p> <p>3) セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕</p> <p>4) セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕</p>				<p>セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。</p>			
受講生に望むこと	<p>1) 毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞆にしまふ。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。</p> <p>2) セミナーに主体的に参加することを望む。</p>			教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	HG110C 初教概論		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	橋本 史郎					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ばず入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聴き取るためのガイダンスで本講義を終る。</p>			<p>北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって</p> <p>聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。</p> <p>世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に付ける。</p> <p>他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。</p>			
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせる					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	自分を見つめる。担当者の紹介と授業予定、礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。信じることで生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じることの意味を知る。					
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の連続性と違いを知る。新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。					
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の違いについて基本知識を持つ。イエスの生涯 マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。					
4	イエスの生涯 マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る。イエスの生涯 マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る。					
5	イエスの生涯 マルコ10:1-12から、聖書の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ。聖書の結婚観を知り、自己の結婚観・家族観を養う。					
6	イエスの生涯 存在の意味 マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。イエスの生涯 マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。					
7	小テスト およびイエスの生涯 マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と救済史的な意味を理解する。イエスの生涯 マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。					
8	小テスト および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。授業内容を理解しているそれを自分の言葉で掴み、表現している疑問や質問など、問題意識を持っている		新約聖書の目次を覚え小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う		レポート	30	教会の主日(日曜)礼拝への参加態度そこで説教内容のまとめそれに対する自己の意見
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。〔60分〕</p> <p>フレッシュマンセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕</p> <p>日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>				<p>毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。</p>		
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること聖書を必ず持参すること遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること			教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する。『讃美歌21』	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行う。1回欠席すると2コマの欠席となるので、出席に努める。毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。レポートは必ず指定された期限内に提出すること。	
実務経験を活かした授業の概要						
<p>牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスパーバー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。</p>						

授業科目名	HG120C 初教概論		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修	
担当教員名	橋本 史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。</p> <p>キリスト教概論で学んだ新約聖書の歴史と背景、その内容を前提として、おもに旧約聖書について学ぶ。旧約の教義となったイスラエル史は、他民族による侵略と支配を受け、民が自身の罪の現業と向かい合いながら、なお神の守りと救いを信じ、共同体を形成・維持し続けた苦難の歴史でもある。これを学ぶことにより、自己と社会を形作る基盤は何かを問う。具体的には旧約聖書の歴史と背景、および内容を学び、人間と世界の存在の意味、それに対する人間の責任と現実、契約と共同体倫理としての法の概念、歴史観と希望の概念等を課題とする。それに対する各自の主体的応答を、発表、レポート等の形で表現し、論議を深める。</p>			<p>北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人格教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって、聖書について、キリスト教について、旧約の内容とイスラエル史について、概略を理解することができる。</p> <p>聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。</p> <p>世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に付ける。</p> <p>他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。</p>				
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせる						
履修条件	キリスト教概論 をすでに受講していることが望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	<p>イエスの生涯 マルコ15:6-41により、イエスの十字架の死について学び、後期授業について概略を知る。イエスの十字架の意味を理解する。</p> <p>イエスの生涯 マルコ16:1-8により、イエスの復活について知り、その意味を学ぶ。イエスの復活の意味を理解する。</p>						
2	<p>旧約を概念的に見て、その区分を学び、旧約全体の意味を学ぶ。旧約39書とその区分、本質を知る。</p> <p>イスラエル史の概略を知り、その過程で生まれた旧約の全体を知る。旧約各書とイスラエル史との関連を理解する。</p>						
3	<p>天地創造物語を読む。聖書の人間理解 創世記1章の祭司資料Pから人間を「神のかたち」と捉える人間観を学ぶ。</p> <p>聖書の人間理解 創世記2章のヤウエ資料から、人間を土の塵と理解し、その命の根源に迫る。J資料の歴史的背景から聖書の生命観を理解する。</p>						
4	<p>墮罪物語 創世記3章から、神の前での罪と救いを学ぶ。聖書の罪理解と救いを知る。</p> <p>族長史 創世記12章以下、アブラハム以下の物語を学び、その意味を知る。唯一神信仰の背景を理解する。</p>						
5	<p>十戒 神の恵みと人間の責任 出エジプト記20章より、神の恵みへの応答として、十戒の前半5つの戒めを学ぶ。旧約における法の意味を知る。</p> <p>十戒 法と社会 十戒の後半5つの戒めを学び、イスラエルの共同体形成を学ぶ。共同体形成原理を知る。</p>						
6	<p>イスラエル王国史を学び、ダビデ王の生涯とその功罪を知る。ダビデ王朝史を知り、聖書の歴史観を学ぶ。ダビデを通して旧約の指導者像を学ぶ。聖書における指導者の姿を理解する。</p>						
7	<p>旧約預言者の分類について、また代表的な使信を学ぶ。旧約預言者の区分とその使信の相違を理解する。</p> <p>キリスト教の職業観を歴史的に振り返り、それぞれの人生形成を考える。および小テスト</p>						
8	<p>小テスト および、旧約の中心的使信について説明し、それを聞き取るためのガイダンスを行う。旧約の中心的メッセージを理解する。</p>						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度・理解度	20	<p>毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。</p> <p>授業内容を理解している</p> <p>それを自分の言葉で掘り込んで表現している</p> <p>疑問や質問など、問題意識を持っている</p>		旧約聖書の目次を覚える小テスト	20	旧約39書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す	
旧約等後期授業の内容について小テスト	30	旧約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う		レポート	30	教会の主日(日曜)礼拝への参加態度 そこでの説教内容のまとめ それに対する自己の意見	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める〔60分〕</p> <p>バイブルセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕</p> <p>日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>				<p>毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	<p>受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること</p> <p>聖書を必ず持参すること</p> <p>遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること</p>			教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する。『讃美歌21』		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。努めて授業に出席する。</p> <p>毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。</p> <p>小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。</p> <p>レポートは必ず指定された期限内に提出すること。</p>		
実務経験を活かした授業の概要							
<p>牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスパーバー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。</p>							

授業科目名	GE100C 総合教養A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江 厚啓・中野 聡・齊藤 英俊・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1-3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きていくことを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものか考えることができる。(福江)</p> <p>4-6回：子どものメンタルヘルスの課題について理解し、心理的な支援について自らの考えや意見をもちつていくことができるようになる。(齊藤)</p> <p>7-9回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にある「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心がもてるようになる。(向出)</p> <p>10-12回：乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても保育・子育てに関する社会的問題に興味・関心を持ち、考えられるようになる。(高村)</p> <p>13-15回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を過渡的、共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものかを経験を通して考えることができる。(中野)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう。					福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江
4	子どものメンタルヘルスにおける今日的課題：「いじめ」の問題を通して、子どものメンタルヘルスについて考える。					齊藤
5	子どものメンタルヘルスにおける今日的課題：「不登校」の問題を通して、子どものメンタルヘルスについて考える。					齊藤
6	子どものメンタルヘルスへの心理的支援：教育現場における子どもへの心理的支援のあり方について考える。					齊藤
7	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(1)実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。					向出
8	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(2)遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。					向出
9	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。					向出
10	赤ちゃんの不思議！少子化と言われる今だから考えたい：動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
11	乳幼児と絵本：絵本の読み聞かせが持つ乳幼児への効果について理解する。					高村
12	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉について考える。					高村
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること					中野
14	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」					中野
15	意味あるやり取り：Small Talkについて					中野
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]			各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては遊ばせ終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。</p> <p>中野：小学校での指導経験を生かして具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にするべきことを指導している。</p> <p>福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子ども姿、幼稚園や小学校における実際の子ども姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。</p> <p>高村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の不思議な力や、身近な大人との関わりについて、実践例を提示しながら、乳幼児の理解につなげている。</p>						

授業科目名	GE110C 総合教養A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江 厚啓・中野 聡・虫明 淑子・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1-3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものか考えることができる。(福江)</p> <p>4-6回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつこと、幼児期の教育を充実させることが重要であることを理解する。(虫明)</p> <p>7-9回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にあるような「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心をもてるようになる。(向出)</p> <p>10-12回：乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても保育・子育てに関する社会的問題に興味・関心を持ち、考えられるようになる。(高村)</p> <p>13-15回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を、通時的、共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものか体験を通して考えることができる。(中野)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう。					福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江
4	子どもを取り巻く環境はどう変わったのか					虫明
5	幼児期における「遊び」と子どもの発達					虫明
6	今後の幼児教育における可能性					虫明
7	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(1) 実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。					向出
8	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(2) 遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。					向出
9	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。					向出
10	赤ちゃんの不思議！少子化と言われる今だから考えたい：動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
11	乳幼児と絵本：絵本の読み聞かせが持つ乳幼児への効果について理解する。					高村
12	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉について考える。					高村
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること					中野
14	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」					中野
15	意味あるやり取り：Small Talkについて					中野
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からこれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]			各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては進歩する遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。</p> <p>中野：小学校での指導経験を生かして具体的な事例を紹介しながら小学校外国語、英語科の大切さを指導している。</p> <p>虫明：保育現場において多くの子どもや保護者と長期にわたって関わってきた経験をもとに、遊びを中心とした幼児期の教育がなぜ小学校以降の学習の基礎で、人格形成の基礎を培うとされるか等に関する幼児期における教育の重要性について具体的に説明する。</p> <p>高村：幼稚園、小学校の経験をもとに、絵本の甲の子ども達の、幼稚園や小学校における実際の子ども達の姿を紹介し、「無償論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話提供している。</p> <p>福江：保育士としての経験をもとに、乳幼児の発達能力や、身近な人との関わりについて、事例を豊富にしながら、乳幼児の理解につなげている。</p>						

授業科目名	GE120C 総合教養B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・加藤 仁 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林)</li> <li>・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤)</li> </ul>			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤
12	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	GE130C 総合教養B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・加藤 仁 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林)</li> <li>・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤)</li> </ul>			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤
12	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。	
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]			個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	GE140C 総合教養C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。          栄養素と健康の関連を理解する。          正しい食生活のあり方を理解する。          食と心理の関係を理解する。          食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を見つける。					田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井
4	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井
5	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井
6	食品の三次機能について学ぶ -機能成分-					坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田
9	献立作成の基本を学ぶ。(食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む)					田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。					田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田
13	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					上農
14	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					上農
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]			毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない		教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	GE150C 総合教養C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・西 正人・俵 万里子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。          栄養素と健康の関連を理解する。          正しい食生活のあり方を理解する。          食と心理の関係を理解する。          食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	4名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵
3	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵
4	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西
9	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。					西
10	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					上農
11	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					上農
12	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。					新澤
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える。					新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する。					新澤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[ 毎回30分程度 ]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
受講生に望むこと	各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	GE160C 総合教養D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義では先ずはじめにキリスト教的視点から学ぶ。次にホスピタリティ産業から、サービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながる、日々の生活にも欠かせない、現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。			ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。 サービスとホスピタリティの違いを説明できる。 ホスピタリティマインドを理解する。 基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。			
教授方法	講義とグループワークを組み合わせ実施(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。					富岡・葦名
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡
3	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡
4	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡
5	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡
6	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡
7	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡
8	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。					葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する。					葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。					葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。					葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート	35	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。		自己紹介プレゼン	20	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名担当分〕
授業への参加態度	25	演習への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名担当分〕 グループワークの参加度や積極的な発言の有無など〔富岡担当分〕		レポート	20	授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡担当分〕
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
【葦名】日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔30分〕 【富岡】シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕				【葦名】課題提出物などについては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。 【富岡】レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。 ・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む。 ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE170C 総合教養D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義では先ずはじめにキリスト教的視点から学ぶ。次にホスピタリティ産業から、サービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながる、日々の生活にも欠かせない、現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。			ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。 サービスとホスピタリティの違いを説明できる。 ホスピタリティマインドを理解する。 基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。			
教授方法	講義とグループワークを組み合わせ実施(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。					富岡・葦名
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡
3	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡
4	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡
5	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡
6	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡
7	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡
8	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。					葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する。					葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。					葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。					葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート	35	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。		自己紹介プレゼン	20	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名担当分〕
授業への参加態度	25	演習への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名担当分〕 グループワークの参加度や積極的な発言の有無など〔富岡担当分〕		レポート	20	授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡担当分〕
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
【葦名】日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔30分〕 【富岡】シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕				【葦名】課題提出物などについては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。 【富岡】レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。 ・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む。 ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LJ090C 日本語基礎		開講学科	短期大学部	必修・選択	自由	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活に必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			辞書に親しみ、使いこなすことができる 決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる 表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす 口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	表現力を豊かにする語彙（対義語） 辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	文章表現の基礎（「構成」を考える） 表現力を豊かにする語彙（同義語） 辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） 表現力を豊かにする語彙（四字熟語） 辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	文章表現の実践（「エッセイ」を書く） 表現力を豊かにする語彙（三字熟語） 辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	口頭表現の実践（「詩」の朗読） 表現力を豊かにする語彙（故事成語） 辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） 表現力を豊かにするために（仮名遣い） 辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） 到達確認テスト						
9	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	文章表現の実践（小論文）を書く） 表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	文章表現の実践（「小論文」を書く） 表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期テスト (16 回目)	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか	到達確認テ スト(8 回 目)	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか		
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか	授業参加態 度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと [40分]			<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。</li> <li>・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</li> <li>・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。</li> </ul>				
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。		教科書・ テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。			
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	LJ110C 日本語表現法		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、短期大学部における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) 敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 問題演習などを通して大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業概要説明 自己紹介について考える。					全員
2	自己紹介、敬語(1) スキルアップ敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員
3	文章の種類、敬語(2) 注意すべき敬語について理解する。					全員
4	事実と意見の区別 発声・発音 配慮を示す言葉について理解する。					全員
5	適切な語の選び方 朗読 品詞・活用の種類について理解する。					全員
6	読み手が理解しやすい文 ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員
7	読点の打ち方 文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員
8	読み手の期待にそって展開する文章 接続語・指示語と文章について理解する。					全員
9	文体の統一 類義語・対義語について理解する。					全員
10	文献の引用 動詞の自他・視点について理解する。					全員
11	レポート・論文の書き方 文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員
12	レポート・論文の書き方 コロケーションについて理解する。					全員
13	小論文の実践 部首・音訓・熟語について理解する。					全員
14	小論文の実践 仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員
15	総合問題に挑戦する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	必要な準備をして参加している。 毎回の学習事項について予習復習をしている。 積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 日本語検定3級以上の実力が付いている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書(欄参照))に取り組む。[40分] 前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日~14日間程度]			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 学期中に指定図書の問題集から苦手とする領域の問題集1冊以上を解くこと。		教科書・テキスト	『基礎からわかる話す技術』森口稔・中山詢子 ころしお出版 2017年 ISBN: 978-4-87424-727-3 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書/参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802911		その他・特記事項	基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 日本語表現法 においてもテキストを継続して使用する。		
実務経験を活かした授業の概要						
小学校教諭としての経験をもとに、スピーチや音読活動等、実際の小学校の国語科の授業で行ったやり方をふまえ、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。						

授業科目名	LJ120C 日本語表現法		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法 で学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに実践的な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、ディスカッション、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			言葉を伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。定型文章作成に必要な知識を理解して、適切に表現することができる。人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。グループで協力してディベートを行うことができる。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。					
履修条件	「日本語表現法」の単位修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「日本語表現法」で学ぶ文章表現、口頭表現について概要説明する。					全員
2	スピーチ（スピーチ原稿の作成） 重要語句の確認					全員
3	スピーチ（スピーチの実践） 重要語句の確認					全員
4	電話・アポイントについて学ぶ。 重要語句の確認					全員
5	手紙の書き方 重要語句の確認					全員
6	ビジネス文書の書き方 重要語句の確認					全員
7	資料の作り方 重要語句の確認					全員
8	話し方の技術。 重要語句の確認					全員
9	事実の報告・内容の構成 重要語句の確認					全員
10	プレゼンテーション・内容の構成 重要語句の理解					全員
11	ディベートの技術 ディベートの論題についてディスカッションする。 重要語句の理解					全員
12	ディベートの実践（前半のグループ） ディベートの実践 重要語句の理解					全員
13	ディベートの実践（後半のグループ） ディベートの実践 重要語句の理解					全員
14	レポート発表会を行う。（前半のグループ）					全員
15	レポート発表会を行う。（後半のグループ） 授業全体のまとめを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	基本的な姿勢ができています。（聞き方、話し方、読み方、書き方） 毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	50	形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。
口頭表現発表態度	20	学習内容を理解して発表を行っている。 ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。		レポート発表会	10	周知な準備ができています。 定められた時間内にまとめた内容を発表している。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日本語表現法 で課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏季休業中に10日～14日間] ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。 [120分] レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「日本語表現法」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。		教科書・テキスト		『基礎からわかる話す技術』森口稔・中山詢子(くろしお出版) 2017年 ISBN: 978-4-87424-727-3 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4	
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項		「日本語表現法」の単位を修得していること。日本語表現法 で使用したテキストを継続して用いる。	
実務経験を活かした授業の概要						
小学校教諭としての経験をもとに、レポート発表会の際に、小学校の国語科の授業で行ったやり方を参考に、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。						



授業科目名	LE090C 英語基礎		開講学科	短期大学部	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着することを目標に、「予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。</li> <li>・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。</li> <li>・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。</li> </ul>			
教授方法	演習（予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習）の形式で行う。					
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方について学ぶ。英語での自己紹介をする。					
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ。					
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。					
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。					
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。					
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習					
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。					
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。					
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。					
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場면을題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。					
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。					
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う					
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。					
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。					
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	予習：指定された範囲の課題(ノートづくり)ができている。質問して分かったことがノートにメモされている。復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。	
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかに自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習型で進められる。単語や文の意味(発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。[40分]不明な点等があれば授業で質問すること。 授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。[20分] 目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>			随時行う			
受講生に望むこと	1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に辞書を持参すること。		教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F」を履修できない。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE155C 英語A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・言語学習経験等アカデミックな話題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。</p> <p>・Making money等ビジネスの話題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。</p> <p>・準動詞や副詞などを適切に運用できる。</p> <p>・CEFRのC1レベルに近い言語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。(復習) 受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。 比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。 複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。 未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。 条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認と単元テスト					
14	外部テスト（特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE160C 英語A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・ The Natural world等現代社会の広範な話題について英語を柔軟かつ効果的に用いて、理解、発信ができる。          ・ 談話標識などを効果的に運用できる。          ・ CEFRのC1レベルの言語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等）					
履修条件	「英語A」を履修した者。（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。 as..as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認とテスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。 継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 話題化（文の先頭に移動）する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。 談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。 推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（ 特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。〔50分〕				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。 外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE145C 英語B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・Making a living等留学場面で求められる話題について適切な英語を用いて、理解、発信ができる。</li> <li>・Taking risks等仕事で求められる話題について適切な英語を用いて、理解、発信ができる。</li> <li>・付加疑問文や助動詞などを有効に使用できる。</li> <li>・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1 Making connections; Lesson 1付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。(復習) any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。 未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。 a/an/the/ (なし)を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。 義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。 能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認と単元テスト					
14	外部テスト（特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE150C 英語B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aiming for success等留学や仕事で求められる抽象な話題や専門的な議論に用いられる語彙・表現を習得し、理解、発信ができる。</li> <li>・間接話法や条件節を適切に使用できる。</li> <li>・CEFRのB2レベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語B」を履修した者。（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 まとめと理解確認、Units 6-7 単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE135C 英語C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・Relationships等学校等身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。</li> <li>・相手によって表現や語彙を適切に使い分けながらの言語使用ができる。</li> <li>・単純過去と過去進行形の使い分けや可算名詞・不可算名詞の使い分け等が適切にできる。</li> <li>・CEFRのB1+～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用いて一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit1 Lessons 1-2 助動詞を用いて一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。(復習) 単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 受動態を用いて賛成・反対意見を述べるができるようになる。 関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Home sweet home; Lessons 1-2 現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。 比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。 義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Spare time; Lessons 1-2 現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。 動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認、単元テスト					
14	外部テスト（特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	<p>(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト</p>		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	<p>課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。</p>		単元テスト・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[30分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	<p>『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell &amp; Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945</p>	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>当該レベルの英語の単元が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。</p>	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE140C 英語C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・ Lifelong learning等学校等身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。          ・ 使役表現や句動詞等が適切にできる。          ・ CEFRのB1+～B2レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語C」を履修した者。（単位未修得可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Lifelong learning; Lesson 1 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Making changes; Lessons 1-2 仮定法過去を用いて原因と結果を述べるようになる。副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。 本課のまとめ					
9	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。 本課のまとめ					
11	Unit 10 Memories of you; Lessons 1-2 I wish/if onlyの表現を用いて願いごとを言うことができるようになる。 過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[30分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE125C 英語D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。          ・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。          ・CEFRのA2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等)。その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、 Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
12	Unit 7 (1) カップドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
13	Unit 7 (2) カップドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	LE130C 英語D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。          ・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。          ・CEFRのA2+~B1レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語D」を履修した者。（単位未修得可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
2	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					
3	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					
4	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表す					
5	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
6	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する Unit 8 ~ Unit 10の振り返り					
7	Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
8	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
9	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
10	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
11	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
12	Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
13	Unit 11 ~ Unit 13の振り返り Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う 振り返り、リフレクション最終提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	<p>(小テスト・発表・タスク等)          毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。          教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。          学習内容確認の小テスト</p>		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	<p>課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。          指示通りの形式になっている。          リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。</p>		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明点は授業中に質問すること。          授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。          [20分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。          課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。          授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。          授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	<p>笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社          ISBN: 9784384334784</p>	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。</p>	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE115C 英語E		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	山下 のぞみ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。          ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。          ・CEFRのA2に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等)					
2	Unit 1 (1)異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーディングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する					
4	Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 2 (2) 和食について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
6	Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
7	Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する					
8	Unit 1~Unit 4の復習、振り返り Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
9	Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
10	Unit 6 (2) 生き物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
11	Unit 7 (2) 芸術について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 8 (1) 核廃棄物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
12	Unit 8 (2) 核廃棄物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 5 ~ Unit 8の復習、振り返り					
13	Unit 1~Unit 8で学んだことから各自 1つのテーマを選び、プレゼンテーションの準備をする					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					各担当教員
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE120C 英語E		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	山下 のぞみ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。  ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。  ・CEFRのA2レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語E」を履修した者。（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等					
2	Unit 9 (1) ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 9 (2) ニンジャについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 10 (1) 児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
4	Unit 10 (2) 児童就労について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 11 (1) 長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 11 (2) 長寿について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 9 ~ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
6	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 12 (1) 騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
7	Unit 12 (2) 騒音公害について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 13 (1) 食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
8	Unit 13 (2) 食物廃棄について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 12 ~ Unit 13の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
9	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 14 (1) ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
10	Unit 14 (2) ダンスクラブと法規制についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする					
11	Unit 14 (3) ダンスクラブと法規制について意見を発表する Unit 15 (1) ドローン为例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
12	Unit 15 (2) ドローン为例に科学技術の進歩についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする					
13	Unit 15 (3) ドローン为例に科学技術の進歩について意見を発表する Unit 12 ~ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びプレゼンテーションの準備をする					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。  授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。  [20分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE105C 英語F		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できる。          ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。          ・CEFRのA1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等)					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う Unit 1 ~ Unit 3の振り返り					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動についての表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する					
11	Unit 5 (2) 自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する					
12	Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する					
13	Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ~ Unit 7の振り返り					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマのうち各自が選んだテーマについてショートスピーチを行う、振り返り リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクションへの記入:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE110C 英語F		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。          ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。          ・CEFRのA1レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)					
履修条件	「英語F」を履修した者。(単位未修得可)					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ					
2	Unit 8 (2) 今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文する発表を行う					
3	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる					
4	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う					
5	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ					
6	Unit 10 (2) これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う					
7	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる					
8	Unit 11 (2) 自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う Unit 8~Unit 11の振り返り					
9	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現を学び、自分の2人の友人についての作文をする					
10	Unit 12 (2) 自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等について説明する表現を学び、作文をする					
11	Unit 13 (2) 自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14 (1) 分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする					
12	Unit 14 (2) 絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15 (1) 関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする					
13	Unit 15 (2) 自分の大学についての発表を行う Unit 12 ~ Unit 15の振り返り					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。          授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守る。守らない場合、単位認定に影響することがある。          課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。          授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。          授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単元が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE165C アクティブ・イングリッシュA		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べる事ができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>自分の言いたいことを効果的に述べる事ができるようになる。英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修(福島県)に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills (以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
6	BH(3)Dance : 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。( 受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる )					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding : イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。					
10	BH(7) Travel in UK : 英国を中心に主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。					
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。					
12	BH(9)Culture and Manners : 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化についての知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。必要な英語表現を身に付ける。英語運用力測定。	BH研修参加態度	50	British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。	
英文日誌	10	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。英語運用力測定。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] 授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのが、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]			随時行う			
受講生に望むこと	英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。		教科書・テキスト	Akira Morita他. 『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年. 成美堂. ISBN: 9784791934249		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合は未開講となる。団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。新白河駅集合・解散。団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。事前・事後学習の学内として英語力測定を行う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE170C アクティブ・イングリッシュB		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・葦名 理恵 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>2020年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州スーセントマリー市アルゴマ大学 (Algoma University) での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。</p> <p>事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会では英語でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。</p> <p>英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介できるようになる。</p> <p>ホームステイを通してホスピタリティを体験し、理解する。</p> <p>語学研修・ボランティア活動を通して、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告できるようになる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1): クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					伊藤・葦名
2	事前学習(2): 英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。教科書の自己紹介スクリプトを参考にプレゼンの準備をし、プレゼン用ソフトを用いて英語で自己紹介を行う。					伊藤・葦名
3	事前学習(3): 各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。日本文化についてのトピックを一つ設定し、外国人に説明するためのプレゼンを行い、事後学習(発表会)の練習をする。					伊藤・葦名
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
15	事後学習: 学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					伊藤・葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、聞き手に分かりやすく発表する。 事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	カナダ研修参加態度	40	カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。	
英文日誌と事後レポート	20	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] 集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			随時行う			
受講生に望むこと	渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。		教科書・テキスト	『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentations』 Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN: 978-4791934249		
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える! 留学&ホームステイのための英会話』 細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)		その他・特記事項	履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。		
実務経験を活かした授業の概要						
3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活(約2週間)を実現するための一助としている。						

授業科目名	LE175C アクティブ・イングリッシュC		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>			<p>・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。  ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。  ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。  ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。					
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。					
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。					
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在					
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)					
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する。英語運用力測定		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する。
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する。		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する。英語運用力測定
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では自力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。</li> <li>英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。</li> <li>事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける</li> <li>留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。</li> </ul>	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	LE175C アクティブ・イングリッシュC (コミ1年)			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>				<p>・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。  ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。  ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。  ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。						
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。						
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。						
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在						
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)						
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する 英語運用力測定		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する	
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する 英語運用力測定	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う			
受講生に望むこと	現地では自力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。</li> <li>英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。</li> <li>事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける</li> <li>留学時期によって報公会が年度内に不可能な場合は別途指示する。</li> </ul>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LE175C アクティブ・イングリッシュC (コミ2年)			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>				<p>・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。  ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。  ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。  ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。						
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。						
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。						
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在						
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在						
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)						
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する 英語運用力測定		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する	
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する 英語運用力測定	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う			
受講生に望むこと	現地では自力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。</li> <li>英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。</li> <li>事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける</li> <li>留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。</li> </ul>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LC100C 中国語		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
グローバル社会といわれる現代、中国の経済発展に伴い中国との交流も重要視される中で中国語を話すことのできる人材が求められている。そこで本授業では中国語の基礎をまず身につける。授業でははじめに中国語の発音を学び、その後平易な会話を通じて基本的な文法と語彙を学ぶ。同時に授業で習得した中国語を用いて学生同士で表現練習をおこない、中国語でコミュニケーションが取れるようになることを目的とする。			発音の基礎を習得し、中国語を正確に発音できるようになる。 中国語を用いて挨拶をしたり、コミュニケーションが取れるようになる。 中国語で自己紹介ができるようになる。 中国語の文法や文の構造を理解する。 中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。			
教授方法	講義とペアワークやグループワーク、ロールプレイ等の能動的な練習を主におこなう。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法等について)後、単母音の発音と声調(音の高低)を習得する。					
2	複母音、子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせる発音できるようになる。					
3	鼻音、軽声、声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。					
4	発音を総復習してから自分の名前を中国語で言う練習をし、挨拶等の簡単な日常会話ができるようになる。					
5	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)					
6	第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得し、さらにそれらの質問に答えられるようになる。)					
7	第3課「食いたいものを探る」(食いたいもの、飲みたいものを言えるようになる。さらに質問相手に質問を返す表現を身につける。)					
8	第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)					
9	第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして友人の紹介ができるようになる。					
10	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、何時に何をするかという表現を身につける。)					
11	第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方を学び、行きたい場所がどこにあるのかを尋ねられるようになる。)					
12	第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)					
13	第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)					
14	第5課から第8課の復習後、前期に習得した文法を用いて自己紹介文を完成させる。流暢に発音できるよう練習する。					
15	口頭発表の質疑応答練習をして、自分の書いた内容に関する質問に答えられるようになる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	予習復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢を評価する。		小テスト	30	授業内容を理解できているか。(2つの課が終了することに、学習の到達確認のための小テストをおこなう。)
自己紹介文の作成	10	文法がどれだけ身についているか、文章は正確か。		期末試験(口頭発表)	40	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか、質問に答えられるか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[60分] 期末試験前は自己紹介文発表に備えて、原稿の発音練習をすること。[30分]				小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自己紹介文は口頭試験前に添削をし、随時返却する。 採点や評価等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	語学は毎日の積み重ねが大事です。授業に出席し、多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりとこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。			教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興賢著 白水社 2019年 ISBN :978-4-560-06935-6	
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LC110C 中国語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業では中国語の会話や文章を読みながら、文法と語彙を学ぶ。その上で授業で習得した表現方法を用いて学生同士でロールプレイを取り入れた練習をし、中国語を用いたコミュニケーションの方法を習得する。前期で学習した文法や表現方法も復習しつつ、さらに中国語の構造に関する知識を身につけ、より複雑な文を作ることができるよう練習をおこなう。最終的には自分の考えを中国語で表現できるようになることを目標とする。</p>				<p>中国語を正確に発音できるようになる。 中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 中国語の基本的な文の構造を理解する。 中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 習得した文法や語彙を用いて、相手に自分の考え等を伝えられるようになる。</p>			
教授方法	講義とペアワークやグループワーク、ロールプレイ等の能動的な練習を主におこなう。						
履修条件	『中国語』の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	前期の復習と、第5課から第8課の復習の文章を参考に日記を書いたり、相手を勧誘する言い方を習得する。						
2	第9課「出来事を尋ねる」(完了形の言い方を習得し、さらに「～しに行く、しに来る」という連動文の言い方を身につける。)						
3	第10課「出来事を尋ねる」(動作の様子や状態を表す様態補語を習得し、「～するのが…だ」という表現ができるようになる。)						
4	第11課「希望を尋ねる」(相手の希望を尋ねられるようになり、さらに「どこで～する」の表現を身につける。)						
5	第12課「行き方を尋ねる」(目的地までどうやって行くのかを尋ねたり、選択疑問文を習得する。)						
6	第13課「経験を尋ねる」(「～したことがある」という経験の有無の言い方を習得する。)						
7	第9課から第13課を復習し、本文を参考に自分の夏休みの過ごし方や感想を言えるようになる。						
8	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合を尋ねたり、中国語の可能表現を身につける。)						
9	第15課「比較する」(中国語の比較表現を習得する。)						
10	第16課「条件・情報を尋ねる」(自分の希望を実現するための条件や情報を尋ねられるようになる。)						
11	第17課「進行状況を尋ねる」(進行形の言い方や動作の結果を言い方を習得する。)						
12	第18課「別れを告げる」(変化を表す言い方や、「～しなければならない」等の助動詞の用い方を身につける。)						
13	第14課から第18課の復習をし、本文を参考に自分の希望や予定を言ったり、状況の説明ができるようになる。						
14	1年間で習得した文法を総復習する。期末試験の自由テーマ文を完成させ、流暢に発音できるように練習する。						
15	口頭発表の質疑応答練習をして、自分の書いた内容に関する質問に答えられるようになる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	20	予習復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢を評価する。		小テスト	30	授業内容を理解できているか。(2つの課が終了することに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。)	
自由テーマ文の作成	10	文法がどれだけ身につけているか、文章は正確か。		期末試験(口頭発表)	40	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか、質問に答えられるか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[30分] 期末試験の自由テーマ文発表に備えて事前にテーマを決め、中国語で文章を作成した後、発表に向けて発音の練習をすること。[50分]</p>				<p>小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自由テーマ文は提出後添削し、随時返却する。 採点や評価等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。</p>			
受講生に望むこと	<p>期末試験では自由なテーマで文章を発表してもらいます。そのために事前にテーマを決めて文章を作成し、第14回の授業終了時までに提出してください。発表する原稿は必ず添削されたものを用いてください。</p>			教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著 白水社 2019年 ISBN :978-4-560-06935-6		
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LF100C フランス語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。				フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous						
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.						
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin						
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler						
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?						
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?						
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler						
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.						
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté						
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?						
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.						
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?						
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.						
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif						
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。			受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LF110C フランス語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>				<p>フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語』の単位を修得済みの者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。			受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(ゴルフ)			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>				<p>ゴルフの競技特性を理解する。          ゴルフの基本的技術を習得する。          習得した技能を生かしゲームを楽しむ。          ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。          ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。						永山
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。						永山
3	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。						永山
4	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。						永山
5	ショットの基本：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。						永山
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。						永山
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。						永山
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。						永山
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。						永山
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。						永山
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。						永山
12	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。						永山
13	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。						永山
14	ターゲットバードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。						永山
15	ショートゲームテストとまとめ。						永山
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし/なし		
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1～7 MICO ケンメディア/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。  テニスの基本的技術を習得する。  習得した技能を生かしゲームを楽しむ。  ～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。  ～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。（準備体操を含め 60分程度）ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし/なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	PE100C 生涯スポーツ(A(バドミントン))		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・宮本 勝裕 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「バドミントン」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>バドミントンの競技特性を理解する。 バドミントンの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明					宮本
2	バドミントンの楽しみ方1：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。					宮本
3	バドミントンの楽しみ方2：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。					宮本
4	バドミントンの基礎(基本ストローク)1：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
5	バドミントンの基礎(基本ストローク)2：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
6	バドミントンの基礎(基本ストローク)3：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
7	バドミントンの基礎(基本ストローク)4：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
8	バドミントンの基礎(基本ストローク)5：横からの基本ストローク(ドライブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
9	バドミントンの基礎(基本ストローク)6：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
10	中間レベル確認 1：これまでに学習した基本ストローク技術(1~3)の習得度合いを確認する。					宮本
11	中間レベル確認 2：これまでに学習した基本ストローク技術(4~6)の習得度合いを確認する。					宮本
12	ゲーム 1：ダブルス・シングルのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。					宮本
13	ゲーム 2：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。					宮本
14	ゲーム 3：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。					宮本
15	ゲーム 4：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ					宮本
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	20	生涯スポーツとしてのバドミントン競技の意義をどの程度理解しているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。(準備体操を含め60分程度)ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(ゴルフ)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ゴルフの競技特性を理解する。          ゴルフの基本的技術を習得する。          習得した技能を生かしゲームを楽しむ。          ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。          ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール・・・スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。					
12	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。					
14	ターゲットバードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					
15	ショートゲームテストとまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ~ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。  テニスの基本的技術を習得する。  習得した技能を生かしゲームを楽しむ。  ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。  ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。（準備体操を含め60分程度）ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。</p>			<p>小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。</p>			
受講生に望むこと	<p>実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。</p>		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	<p>運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）</p>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を基軸科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいと考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）</p>			<p>各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					永山
2	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					永山
3	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					永山
4	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					永山
5	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
6	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
7	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					永山
8	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
9	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）					永山
10	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
11	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）					永山
12	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
13	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。タグラグビーの基礎的技術を習得する。					永山
14	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					永山
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					永山
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。（準備体操を含め60分程度）ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB(集中講義:ゴルフセミナー)		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間にわたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰でも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のライフスタイルの変化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートプレーもさることながら、職場や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いためではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることでゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものとする。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グラウンド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午前】 開講式/レッスン : スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング ~ スリークォータースイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1 日目 午前】 レッスン : スリークォータースイング ~ ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1 日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1 日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2 日目 午前】 レッスン : 9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2 日目 午前】 レッスン : 「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2 日目 午後】 レッスン : ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2 日目 午後】 レッスン : パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前】 レッスン : VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3 日目 午前】 レッスン : ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3 日目 午後】 レッスン : グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3 日目 午後】 レッスン : グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4 日目 午前】 レッスン : 民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4 日目 午後】 ラウンド実習 : 本コース 9 ホールのハーフラウンド体験を行う。/ 閉講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。(1回60分程度)ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE110C 生涯ｽﾎｰﾙB (集中講義:ｽｷｰセミナー)		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県桐池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルへの養成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー(本質)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。          スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。          スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。          ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。          ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。          合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。          合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後】 開講式 / クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義：スキー技術の変遷 / スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前】 VTR 撮影 / クラス別レッスン					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック / クラス別ミーティング / スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前】 VTR 撮影 / クラス再編成 / クラス別レッスン					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック / クラス別ミーティング / スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン / 開講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。(最低1日)ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC100C キャリアデザイン		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 康司					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業の目指すところは、自分自身を振り返り、働くことの意義や職業世界の仕組みについて学ぶことを通して、自己理解を深め、職業世界や産業への関心を高め、理解を深めることである。それにより、自らの人生をどのように構築していったらよいのかについて学ぶこととなる。</p>			<p>人の一生と働くことの関わり、そして働くことの多面的な意味について理解する。 自己分析を通して、自分の長所・短所・強み・弱み等を認識し、「自分が何をしたいのか」「自分がどのような仕事に向いているのか」等について理解する。 働き方として、企業、NPOそして公務員の特徴と役割について理解する。 多面的な業界研究を通して業界・企業理解を深める。 日本国憲法上の規定や労働基準法等労働関係法規が働く人の権利を守っていることを理解する。</p>			
教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方とその目的について理解する。 ライフ・キャリア(人の一生)とライフ・ロール(人生の役割)について考える：『ライフ・キャリアの虹』を手掛かりに、ライフ・キャリアと人生の8つの役割について理解する。 「どのような人生を送りたいのか」について考える。					
2	ライフ・ロール(人生の役割)について考える：ライフ・ロールを時間軸と他者との関わり等の視点から、ワーキングを通して理解する。					
3	働くことの意味について考える：職業の持つ多面的な意味について、『マズローの欲求の5段階説』等を通して理解する。					
4	自分を知る 『エゴグラム』『ジョハリの窓』(ワーキング)を通して、これまで気付かなかった自分を見つける。 これは自己再認識につながる。					
5	自分を知る 『キャリア・アンカ』(ワーキング)を通して、自分が価値をおいていることを見つける。					
6	自分を知る 仕事に必要な対人能力、対自己能力、対課題能力等について理解する。					
7	自分を知る 自らの仕事に必要な対人能力、対自己能力、対課題能力等の基礎力について、ワーキングを通して理解する。					
8	社会人基礎力を育成するための学生生活の進め方について学ぶ。インターンシップの活用についても学ぶ。					
9	社会での仕事のことを知る 「企業」の特徴と役割について理解する。					
10	社会での仕事のことを知る 「NPO」「公務員」の特徴と役割について理解する。『ホルランドの6角形モデル』を通して自分の個性・長所を活かす職業を見つける。					
11	社会での仕事のことを知る 『業種』の視点から仕事を考える：「製造業」「流通業」「金融業」の特徴と課題について理解する。					
12	社会での仕事のことを知る 『職種』の視点から仕事を考える：「総務部」「広報部」「営業部」等の部門に焦点を当て、それらの機能と課題について理解する。					
13	社会での仕事のことを知る 『職種』の視点から仕事を考える：「人事部」「法務部」「知的財産部」「経理部」等の部門に焦点を当て、それらの機能と課題について理解する。					
14	社会での仕事のことを知る 栄養士・管理栄養士の仕事について理解する。 北陸三県の産業に焦点を当て、それらの特徴と課題について理解する。					
15	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ：日本国憲法第27・28条を中心に、憲法上の労働権と労働基本権等について理解する。 講義全体のまとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。		事後の課題・レポート	70	レポートについては、課題の意図を的確に理解し、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。[30分] 授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分]			授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。			
受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。		教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	・指定図書：なし ・参考書 ・働くひとのためのキャリア・デザイン 金井壽宏著 PHP新書187 (PHP研究所) 2002年10月 『キャリアデザイン入門』 大久保幸夫著 日本経済新聞出版社 ISBN 978-4-532-11096-3 『学生のためのキャリアデザイン入門<第2版>』 渡辺敏・伊藤健一編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3 他に、講義時に紹介する。		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC100C キャリアデザイン		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	野林 晴彦					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業のねらいは、本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようにすることにある。同時に、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計への実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。</p>			<p>自分自身を知り、社会を知って、自らの夢や目標を明確化する。その夢や目標の実現に向け、大学生活をどう過ごすかを考え、実践に繋げていく。卒業後どのような生き方、働き方をしたいかを自ら主体的に考える姿勢を持つ。</p>			
教授方法	講義と個人ワーク、ペアワーク、グループワーク					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション - キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、および授業の進め方について理解する -					
2	学生生活とキャリア - 社会で働くために必要な力と 態度について考え、現在の自分の基礎力測定とその向上プランを作成する -					
3	インターンシップのすすめ - 夏季インターンシップ参加の意義とその方法について理解する -					外部講師
4	自分を知る(1)(キャリアアンカー) - 自分のこだわりを知り、そのこだわりを育てる方法を理解する -					
5	自分を知る(2)(自分史) - これまでの自分の人生を知り、自分史を作成する -					
6	自分を知る(3)(一皮むけた経験) - 自分が成長した経験を振り返り、どんな経験が自分を成長させるのかを知る。今後の学生生活へのヒントを学ぶ -					
7	就職活動を知る - 今後の就職活動の流れと、その準備について理解する -					外部講師
8	働くということ - 働くこととは何かを学び、将来のために、今、何をすべきかの ヒントを手に入れる -					
9	業界・企業研究 - 業界研究・企業研究の方法を学び、今から準備すべきことを考える -					
10	会社と仕事 - 会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ -					
11	社会人としてのマナー(1)傾聴 - 傾聴とは何か、学生生活・社会生活で傾聴スキルを身につける意味を理解する -					
12	社会人としてのマナー(2)アサーション - アサーションとは何か、学生生活・社会生活でアサーションスキルを身につける意味を理解する -					
13	キャリアと雇用形態 - 雇用形態と諸問題を理解した上で将来をプランし、学生生活ですべきことを学ぶ -					
14	学生生活を面白くする(セレンディビティ:計画された偶発性) - どんな行動が幸運につながるのかを知り、日常生活でその行動を心掛ける -					
15	まとめ - 全体の振り返り -					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業課題	40	毎回の振り返りシート、キャリアインタビューなどの提出課題を評価する。		最終課題	50	授業の到達目標への達成度を評価する。
授業への参加態度	10	授業への取り組み状況の評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。[30分] 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]				振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する。 提出課題にはコメントをつけ返却する。		
受講生に望むこと	Reize Your Mission - 自分のミッションを見つけ出し、またその準備のための充実した学生生活を送るために、真剣に授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布します)	
指定図書/参考書等	なし/「キャリアデザイン入門(基礎力編)」第2版 大久保幸夫 日経文庫 2016年 ISBN978-4-532-11352-0 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
自分自身やあるいは友人・知人のキャリア経験等を紹介している。						



授業科目名	HC110C キャリアデザイン		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 弘美・田中 康司・瀬戸 裕子 (代表教員 田中 弘美)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業の目指すところは、キャリアデザインの講義内容に基づき、働くことの意義と職業世界の仕組みについての学びを更に深め、働くことと職業世界や産業への関心を一層高め、理解を一層深めることである。それにより、自らのキャリアをデザインしていくことの重要性をますます認識することとなる。</p>			<p>働くことについて学ぶことにより、働くという現実のさまざまな問題を理解する。 現在の労働環境について考えることにより、大きく動き出している労働環境について理解する。 マナ - 講座を通して、働くときのマナ - ヤル - ルを理解する。 働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶことにより、労働基準法等によって、働く人たちがどのように守られているのかについて理解する。</p>			
教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション : 授業の進め方とその目的について理解する。 働くことについて学ぶ 日本社会の雇用システムについて理解する。「働き方の多様化」について理解する。					田中康司
2	働くことについて学ぶ 「非正規雇用」について学ぶ。新しい働き方の一つとしての非正規労働についてその現状と問題点を理解する。					田中康司
3	働くことについて学ぶ 若者の社会問題としての「フリ - タ - 」 「早期離職」について学ぶ。それらの現状と対策について理解する。					田中康司
4	現在の労働環境について考える 大きく変化してきている労働環境について理解する。 新しい働き方について、長時間労働の是正の視点から学ぶ。					田中康司
5	現在の労働環境について考える 新しい働き方について、柔軟な働き方の取得の視点から学ぶ。					田中康司
6	現在の労働環境について考える 新しい働き方について、有給休暇制度の取得の視点から学ぶ。					田中康司
7	現在の労働環境について考える 新しい働き方について、同一労働同一賃金の視点から学ぶ。					田中康司
8	働くことの先輩であるゲストの体験・思いを聴く					田中康司
9	履歴書・エントリーシートの役割とその内容について学ぶ。 「自己PR」「志望動機」を中心に、履歴書等を作成する。					田中康司
10	マナー講座					瀬戸
11	マナー講座					瀬戸
12	マナー講座					瀬戸
13	マナー講座					瀬戸
14	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ 民法や労働基準法等労働関係法を通して、働く人たちがどのように守られているのかについて理解する。					田中康司
15	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ 働くときのルール等について理解する。 就職活動の進め方について理解する。 講義全体のまとめ					田中康司
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準	
授業への参加態度	30	授業への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。	事後の課題・レポート	70	レポートについては、課題の意図を的確に理解し、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。 [30分] 授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。 [60分]</p>			<p>授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席確認を行う。</li> <li>・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。</li> </ul>		教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。		
指定図書 / 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考書 : 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 金井壽宏著 PHP新書 187 (PHP研究所) 2002年10月</li> <li>『キャリアデザイン入門 [ ]』 大久保幸夫著 日本経済新聞出版 ISBN 978-4-532-11096-3</li> <li>『学生のためのキャリアデザイン入門 &lt;第2版&gt;』 渡辺峻・伊藤健市編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3他、講義時に紹介する。</li> </ul>		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC110C キャリアデザイン		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	野林 晴彦					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
卒業後の新たなスタートの準備のために、社会人生活に必要な基礎知識を修得するとともに、今後の人生についてあらためて考える。 1) 労働と法律、税金や保険などに社会人として必要な基礎知識を修得する。 2) 実際のキャリアについての事例を知ることにより、今後の生き方について考える(動画、記事など)。			社会人生活に必要な基礎知識を修得する。 多くの人生を知り、自分の今後の生き方について深く考え、あらためてキャリアデザインを行う。			
教授方法	講義と個人ワーク、グループディスカッション。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の目的と全体像を理解する)					
2	社会人生活に必要な知識 ワークルールについて理解する。					
3	社会人生活に必要な知識 税金・保険・年金について学ぶ。					
4	特別講演:ライフプランキャリアセミナー - キャリア形成の上で、ライフイベントを意識し、仕事も家庭生活も充実した人生を送ることを理解する -					外部講師
5	特別講演:労働法制について - 仕事をするうえでの法律について学ぶ -					外部講師
6	社会人生活に必要な知識 社会人の先輩から、社会人として必要な知識について学ぶ。					
7	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
8	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
9	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
10	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
11	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について 改めて考える -					
12	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
13	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
14	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
15	まとめとふりかえり					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
最終レポート	60	授業を参考に、今後の生き方についての考えをまとめる。	振り返りシート	30	毎回記入する振り返りシートを評価する。	
授業の参加態度	10	授業への取り組み状況。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。[30分] 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]			振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する。			
受講生に望むこと	卒業までの大切な時期に、自分のミッションについてあらためて考え、有意義な人生を送る準備をしてほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/「キャリアデザイン入門(基礎力編)」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
自分自身やあるいは友人・知人のキャリア経験等を紹介している。						

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	上農 肇					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。電子メールの送受信ができるようになる。情報倫理に関する基本的な知識を身につける。Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得し、必要に応じたレポートやプレゼンテーションの作成ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信および情報倫理に関する正しい知識を身につける。					
2	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
3	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、表の挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
4	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしを作成し、提出する。課題提出					
5	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
7	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
8	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。（基本操作、関数についての小テストを実施する）					
9	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
10	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
11	Excel課題練習：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
12	Word・Excel総合課題：レポートを完成させ、提出する。課題提出					
13	PowerPoint基本操作：スライドデザインの設定、オブジェクトの追加と操作等の基本操作を習得する。					
14	PowerPoint基本操作：ストーリーシートをもとに配布用資料を作成する。					
15	PowerPoint総合課題：配布用資料を完成させ、提出する。課題提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
総合課題	50	序論・本論・結論で構成されているか、わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		Excel小テスト	20	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(15%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
授業参加態度	20	提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。		電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分] Word、Excel、PowerPointのそれぞれについて課題の提出を求める。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用して課題作成にあたること。[60分]</p>				<p>各回の終了時に内容の確認と振り返りを行なう。次回の授業時にフィードバックを行なう。 8回目に小テスト（EXCEL）を行なう。理解の程度によっては学習内容定着のため補講への出席を指示することがある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』第2版 noa出版 2017年出版 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』noa出版 2020年出版	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 電子メールの送受信ができるようになる。 情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windowsの基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題：レポートを完成させ、提出する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト / 課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか、わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分] 14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取組むこと。[60分以上]</p>				<p>小テスト（電子メール・情報倫理）は、採点し次回の授業の冒頭で返却する。 小テスト（EXCEL）は、点数を次回の授業の冒頭で連絡する。 EXCEL課題は、コメントを付けて次回の授業の冒頭で返却する。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2020年出版	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC170C 情報機器演習B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	上農 肇					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションソフトの基本的操作を習得する。さらに、栄養士に必要な統計処理ソフトの基本的操作を習得し、データの分析・結果の解釈ができるようになることを目的とする。</p>			<p>PowerPointの基本操作を習得する。          プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そうした資料を作成して発表することができる。          統計処理ソフトSPSSの基本操作を習得する。          SPSSを使ってデータの分析・結果の解釈ができる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	PowerPoint基本操作 : 情報機器演習Aでの基本操作の確認、ブラッシュアップのためのテクニックを習得する。					
2	PowerPoint基本操作 : グラフや図形の挿入、アニメーションの使用方法を習得する。					
3	PowerPointプレゼンテーションの内容と流れ: 目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
4	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。					
5	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。					
6	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。					
7	PowerPointリハーサル: グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認するとともに、わかりやすい発表のための工夫を考える。					
8	PowerPointプレゼンの実施と相互評価: 他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者の作品を評価するとともに自分作品の改善点を整理してレポートにまとめ提出する。					
9	統計処理 : 統計処理ソフトSPSSの基本操作を習得し、代表値の計算・結果の解釈について理解し、習得する。					
10	統計処理 : t検定(繰り返しあり・なし)による分析と結果の解釈について理解し、習得する。					
11	統計処理 : 2要因の分散分析(繰り返しあり)と単純主効果の検定と多重比較について理解し、習得する。					
12	統計処理 : 2要因の分散分析(繰り返しなし)と単純主効果の検定と多重比較について理解し、習得する。					
13	統計処理 : 名義尺度データの分析と結果の解釈について理解し、習得する。					
14	統計処理 : 順序尺度データの分析と結果の解釈について理解し、習得する。					
15	課題演習: 課題データの分析を行い、結果の解釈、考察をレポートにまとめ提出する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で分かりやすいこと。スライドが分かりやすい表現で効果的であること。発表態度(はっきりと大きな声、聴き手を見る)がよいこと。		統計処理	40	目的に沿った分析方法を用いて、適切にデータの分析ができていること。また、結果の解釈が正しく行えていること。
授業参加態度	20	提出物・発表の態度(聞く態度も含む)などにより授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分]				課題を提出した次の週にコメントをつけて返却する。また、課題提出時の授業の中で行うこともある。		
受講生に望むこと	この授業での内容はプレゼンテーションと統計処理という栄養士、栄養教諭にとって基本的かつ大切なスキルである。授業時間外での復習をしっかり行ない、情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第1版 noa出版 2017年出版	
指定図書/参考書等	参考図書: 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2013 実教出版 2014年出版 SPSSのススメ 北大路書房 2007年出版			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC170C 情報機器演習B			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。</p>				<p>Excelで複合グラフが作成できる。 PowerPointの基本操作を習得する。 プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、PowerPointで資料を作成して発表できるようになる。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 プレゼンターがいる場合と無人の自動スライドショーの違いを理解し、展示場所に相応しい自動スライドの作成ができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	「情報機器演A」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返りを行う。						
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。						
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
11	PowerPoint図形機能：図形機能を使ってオリジナルのイラストを作成する方法を習得する。						
12	PowerPoint動画ファイル：動画ファイルの埋め込みとリンク方法を習得する。						
13	PowerPoint自動スライド：プレゼンターがいる場合と無人の自動スライドショーの違いを理解し、自動スライドを作成する。						
14	PowerPoint自動スライド：展示場所を設定し、オリジナルの自動スライドを作成する。						
15	自動スライドの相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。			プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
自動スライド	25	展示場所に相応しい内容であるか、無人で放映して相手に伝わるか。自分の改善点を発見できたか。			授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。[45分] 7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。[45分] 8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。[30分] 9-10回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。[60分以上]</p>				<p>プレゼンテーションについて、改善点を中心としたコメントを次回の冒頭で配布する。</p>			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

# 食物营养学科

授業科目名	FB110C 学びの基礎		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔・上農 肇・茶谷 信一・西 正人 (代表教員 坂井 良輔)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
短期大学部食物栄養学科へ入学直後の初年次教育に位置づく科目である。したがって、科目選択と資格取得との関係、大学での授業の聴き方と心構え、ノートのとり方やレポートの書き方、卒業後のライフプランを踏まえた2年間の大学生活プラン設計等について、演習を通して学ぶ。			大学での授業に臨む準備やノートテイクの要領等を理解し、入学当初から講義や大学生活に円滑に移行できるようにする。レポート作成の基本的な手法を理解するとともに、学んだことを生かして作法に則ったレポートが実際に書けるようになる。計画的な学生生活を送り、卒業後の社会生活へ円滑に移行できるよう、在学中と将来の各自のライフプランを作成し、目標に向けて努力することを意識できる。			
教授方法	講義、演習、グループワークほか					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションと仲間づくり 初年次教育としての授業のねらいや進め方の説明、人間関係づくりのグループ活動を学ぶ。					
2	大学で学ぶということ アクティブ・ラーニングに必要なスタディ・スキルの概要を知り、大学での学び方を理解する					
3	学生生活と食物栄養学科での学び 入学した現時点での、将来のなりたい自分のカレッジライフ・プランを見える化する。					
4	大学でのノートのとり方 講義中のノート・テイキングは、どうすればよいか、複数のミニ模擬講義をおおして理解する。					
5	グループ協議の進め方 グループ協議のねらいや役割分担を学び、実際の進め方を複数のテーマで演習して理解する。					
6	文献類の読み方 大学で書籍や資料を読みこなす上で必要となる、リーディングの基本スキルを理解する。					
7	文献類の読み方 内容をより深く読み取るために必要な、要約スキルとその要領について、演習を通して理解する。					
8	レポート作成の基本 レポートと作文の違い、レポートの基本的な構成及び作成手順等について理解する。					
9	わかりやすいレポートの作成 読み手にわかりやすいレポートを書くために、必要な文章構成や作成上の作法を理解する。					
10	食物栄養学科で求められるレポート 学習内容毎に種類が異なる複数のレポート形式に関して、基本的な書き方を理解する。					
11	レポート作成のまとめ 既習事項を総合化するための確認演習を通して、レポート作成能力の定着を図る。					
12	大学図書館の活用 大学図書館での情報収集や利用に求められる、基本事項やルールを理解する。					
13	大学図書館の活用 レポート作成の必須事項である情報の効率的な収集、文献リストの作成等を理解する。					
14	レポート作成のまとめ 現役管理栄養士から仕事上の夢ややりがいを学び、質疑応答を経て受講レポートをまとめる。					
15	"ライフプランの作成" ライフプランをテーマにグループ協議の進め方を進化させるとともに、他者のプランを参考にして、自分のプランを深化・発展させ、レポートにまとめる。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
プリント作成と提出状況	40	授業中に演習する各種プリントの期限までの提出と量的・質的な内容		レポートの提出とその成果	40	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び演習への参加状況	20	演習への能動的な参加(発言・応答)+グループ活動等における積極的な役割分担				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
原則として、次時の学習に関連する該当ページを指示するから、テキストの該当箇所を予め目を通して出席すること。その際、意味が不明な用語や内容をリストアップしておき、授業中に質問できるよう準備しておくことが望ましい。全15回の授業期間中に、テキスト全体の通読を終えることが望ましい。また、食料、食材、栄養等に関する新聞やテレビの報道には、特別な関心をもち、意識して目を通すようにすること。						
受講生に望むこと	プリントを中心とする演習を通して学ぶことが多いため、提出を求められたプリント類は必ず期限までに提出すること。同時に、授業やグループ協議では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。			教科書・テキスト	○ 知へのステップ(第5版) ~大学生からのスタディ・スキルズ~ 学習技術研究会 くろしお出版 2015 ISBN 978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	なし/参考書 ・レポート・論文作成法 井下千以子編 慶大出版会 2013 ISBN 978-4-7664-2013-5 ・大学生学びのハンドブック 世界思想社編集部編 世界思想社 2012 ISBN 978-4-7907-1540-5			その他・特記事項	普段からジャンルを問わず、様々な分野の書籍に親しむよう心掛けることが望ましい。特に新聞や食物関係の雑誌を読むことを薦める。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	FB120C キャリア実践演習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>主たるテーマとして『女性の社会進出』を取り上げる。「育児休業制度」や「クオーター制」といった促進要因を取り上げ、現状と問題点を理解すると共に、必要とされる施策としての「ワーク・ライフ・バランス」や実現が求められる「男女共同参画社会」についても理解する。</p> <p>「貧困」というテーマから雇用の実態を理解すると共に、労働基準法等労働関係法が働く者を守っているという現状についても理解する。</p> <p>国内外の政治・経済・社会等の各分野にわたって、しっかりと取り組んでいかなければならない問題に焦点を当て、新聞記事等を教材として活用しながら、背景説明を受け、ディスカッションを行う。これらを通して、諸問題への関心を高め、自らの考えや意見を見出す。</p>				<p>本講座の目指すところは、自らのキャリアを築いていく過程で取り組んでいかなければならない男女共同参画社会実現に向けたさまざまな課題について、共に考察することを通して、自らの考えや意見を持つことである。同時に、社会人として、さまざまな状況下で求められる的確な「判断」の基礎となる幅広い教養を身に付けることである。</p>			
教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	私たちが生きる現代社会について考える 「家族制度の変化」「少子高齢社会の到来」のテーマ説明を通して、わが国固有の社会状況について理解する。						
2	私たちが生きる現代社会について考える 「情報化の進展」「情報を読む力」「グローバル化する世界」のテーマ説明を通して、わが国を含む国際社会の状況について理解する。						
3	日本国憲法について学ぶ 人権思想の発達と民主政治。「今なぜ民主政治が問われているのか」「ポピュリズムとは」のテーマ説明を通して、民主政治が大きな挑戦を受けている状況を理解する。						
4	日本国憲法について学ぶ 日本国憲法の「国民主権」「基本的人権の尊重」そして「平和主義」の特徴について理解し、喫緊の課題としての日本の平和主義と安全保障について理解する。						
5	日本国憲法について学ぶ 基本的人権の内、参政権と法の下での平等についての説明を通して、若者の政治参加と社会政策について理解する。						
6	日本国憲法について学ぶ 「立法権」「行政権」そして「司法権」の機能について理解し、更に行政機能の民主化について理解する。						
7	日本国憲法について学ぶ 地方自治と住民の政治参加。住民投票、地方分権、社会福祉行政等のテーマ説明を通して、最も身近な行政としての地方自治のあり方について理解する。						
8	女性の社会進出を考える 女性の社会進出の現状と問題点についての説明を通して、日本社会が抱える労働人口の減少等に伴う多くの経済社会問題が密接に関わっていることを理解する。						
9	女性の社会進出を考える 女性の社会進出促進要因の一つとしての「育児休業制度」を始めとして、さまざまな実施状況を北欧諸国やフランス等の先進国の状況と比較しながら学ぶ。						
10	女性の社会進出を考える 「男女共同参画社会の実現」と「ワーク・ライフ・バランス」の説明を通して、それらの意義と重要性について理解する。						
11	女性の社会進出を考える 女性の社会進出促進のもう一つの要因として「クオーター制」とその負の面としての「逆差別」についての説明を通して、それを採用する際の、その高い有効性と逆に深刻な問題性について吟味することの重要性を理解する。						
12	女性の社会進出を考える まとめ 「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の説明を通して、女性の社会進出に係る男性の役割について理解する。						
13	雇用の実態について学ぶ 「相対的貧困 子供の貧困」「ワーキングプア」「一人親世帯への支援」のテーマ説明を通して、厳しい労働の実態について理解する。						
14	雇用の実態について学ぶ 「グロ・パル・ジェンダ・ギャップ指数」と「性別賃金格差」等のデータを用いて、男女平等参画社会の実現に向けた歩みについて理解する。						
15	雇用の実態について学ぶ 労働基準法、男女雇用機会均等法そして労働者派遣法の働き方の説明を通して、現在の労働問題とそれらへの取組み状況について理解する。 講義全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。		小テスト、事後の課題・レポート	80	・小テストについては、前回の授業内容を的確に把握しているかという点から評価する。 ・レポートについては課題の意図を的確に理解し、授業内容を理解した上で、論理的に表現しているかという点から評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。[30分]</p> <p>授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分]</p> <p>新聞を読む習慣を身に付けることは社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から、新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。「日経新聞」等の全国紙を読む習慣を身に付けること。[30分]</p>				<p>・小テストについては、採点し、次回講義の冒頭に返却し、内容説明する。</p> <p>・授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席確認を行う。</li> <li>・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。</li> </ul>			教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	<p>なし / 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187 金井壽宏著 PHP研究所 2002年10月</p> <p>『学生のためのキャリアデザイン入門&lt;第2版&gt;』渡辺峻・伊藤健市編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3</p> <p>『女性のいない民主主義』岩波新書1794 前田健太郎著 朝倉書店2019年9月 ISBN 978-4-00-431794-4</p> <p>他に、講義時に紹介する。</p>			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	FB200C 人間の探究		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>キリスト教概論 および 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは、学生が礼拝の作法を身に付け、礼拝者として整えられること、学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。</p>			<p>北陸学院の「建学の精神」を理解し本院の学生としてのアイデンティティが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に唱唱できるようにする。 聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようにする。</p>				
教授方法	レジュメに基づく講義、映画の鑑賞、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イントロダクション；担当教員紹介、本コースの概要説明</li> <li>・「運命ではなく摂理」（創世記45:1-8）：運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「建学の精神」と北陸学院の歩み：学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。</li> <li>・「本当の友」とは（ヨハネ15:11-17）：主イエスが私たちの本当の友となってくださることを発見する。</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主の祈り」（ルカ11:1-13）：「主の祈り」を理解し、祈り始める。</li> <li>・讃美歌物語：讃美歌にはその背後に信仰のストーリーがあることを発見し、心から賛美できるようになる。</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて実践できるようになる。</li> <li>・「生と死」（コリントー15:50-58）：命を神からの授かりものとして受け止めなおすことができるようになる。</li> </ul>						
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「十戒」：神が授けられた十戒を自由の道しるべとして理解できるようになる。</li> <li>・「環境と飢餓」（申命記24:19-22）：世界の飢餓問題について聖書から語りかけられるメッセージに聴く。</li> </ul>						
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人格的交わりとしての性」（エフェソ5:21-23）：尊敬をもって互いに接することができるようになる。恋愛や結婚についても聖書の御言葉の光の下で理解を深める。</li> </ul>						
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教会と教会暦（コリントー12:12-26）：「教会」とその「暦」について理解できるようになる。</li> <li>・「聖書」という書物（テモテニ3:4-17）：聖書の成り立ちやジャンルを学ぶ。</li> </ul>						
8	学期末総合課題						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
意欲・態度	10	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（「主の祈り」「十戒」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。		
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末総合課題	50	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティを確かにするため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]</p>			<p>「振り返りシート」については適宜コメントする。「教会訪問レポート」、「学期末試験」についてはメソフィア等で全体講評を告知。</p>				
受講生に望むこと	<p>積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。 本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。 聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。</p>		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	<p>指定図書なし/参考図書 アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）『神学よるよる じめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。 大島力『聖書は何を語るか』（日本キリスト教団出版局、1998年）。その他、授業で紹介していく。</p>		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回聖書を持参すること。</li> <li>・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置しないので注意。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。</li> </ul>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB210C 人間の探究			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>キリスト教概論 および 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは、学生が礼拝の作法を身に付け、礼拝者として整えられること、学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。</p>				<p>北陸学院の「建学の精神」を理解し本院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三業文を身に付けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。</p> <p>聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることが理解できるようになる。</p>			
教授方法	レジュメに基づく講義、映画の鑑賞、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	・イントロダクション：本コースの概要説明 ・「自分史」を描いてみよう！映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
2	「信頼」：自分の人生を神が導く冒険として受け止め、神の導きに信頼して歩み出すきっかけを持つ。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
3	「使命」：自分の人生を神から与えられたミッション（使命）に生きる旅として受け止められるようになる。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
4	「勇気」：人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
5	「祈りとへりくだり」：神の正義と平和を求めて祈り働く者としての構えと出会う。 映画「祈りのちから」						
6	「感謝」：罪赦された者の感謝に生きる姿を理解でき、自らもそのように生きるきっかけを発見する。 映画「祈りのちから」						
7	クリスマス礼拝賛美練習 映画「祈りのちから」						
8	「愛」：神に愛されているがゆえに、自分も隣人を愛するように招かれていることを発見する。 映画「祈りのちから」						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
意欲・態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（「使徒信条」「キリスト教史」）行う小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末レポート	40	聖書箇所、聖書の人物またはキリスト教史の人物、映画の登場人物、それらに学びつつ自分は何のよう に人生を歩みたいかをまとめたレポートにより評価。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、大学チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]</p>				<p>「振り返りシート」については適宜コメントする。「教会訪問レポート」、「期末レポート」については、メソフィア等で全体講評を告知する。</p>			
受講生に望むこと	<p>積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。 本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。 聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。</p>			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	<p>アウグスティヌス（山田晶訳）『告白』（中公文庫、2014年）。 アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）『神学のよるこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。その他、適宜授業内で紹介する。</p>			その他・特記事項	<p>・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置しないので注意。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。</p>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB130C 栄養士への道A			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>栄養士としての学びをはじめるにあたり、まず、基本的な学びへの姿勢、学びの方法を修得する。また、環境、運動、食文化、食育など様々な視点から、特に、体験学習などとおして現代の食環境での課題を探究し、それに対処できる能力を修得しながら栄養士という職業への理解を深める。</p>				<p>栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。          栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。          栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。</p>			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：栄養士の学びを始めるにあたり、この学科目の意義を理解する。						全員
2	特別オリエンテーション：先輩の体験談より、学びの意義を理解する。						全員
3	栄養士を取り巻く諸問題：廃棄物の問題を考える。						全員
4	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える - 1 -						全員
5	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える - 2 -						全員
6	栄養士を取り巻く諸問題：食の安心・安全を考える						全員
7	栄養士を取り巻く諸問題：食における地域の課題を考える						全員
8	食育のためのグループ演習 1						全員
9	食育のためのグループ演習 2						全員
10	体験学習（食育 1）						全員
11	体験学習（食育 2）						全員
12	体験学習（食文化）：箸の使い方から、日本の食文化を理解する。						全員
13	体験学習（流通）：卸売市場の見学により、流通の仕組みを理解する。						全員
14	体験学習（運動）：運動施設における運動体験により運動の必要性を科学的に理解する。						全員
15	体験学習（環境）：環境に関する研究施設と廃棄物処理施設の見学により環境問題への理解を深める。						全員
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度	50	授業へ積極的に関わる。 授業に向けて十分に準備する。		提出課題	50	質的量的に適切である。 指定期日迄の提出	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各取組毎に内容をまとめる。[30分] 必要なことはその都度指示をする				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。 与えられた課題には、積極的に取組み、問題点を見いだすよう努力する。			教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB140C 栄養士への道B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会において栄養士に求められている役割を理解するため、地域社会との連携もふまえて、体験的に学びを深める。また、地域で働くための必要なスキルも修得する。特に栄養士として社会での活動のための基本的な知識を会得する。さらに、今の食の課題を取り上げながら、1年次の基礎と専門の学びを確かなものとしたい。			栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。 栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。 栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。 栄養士として働くために、社会人としての基本的役割を理解できる。				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：社会における栄養士の役割と働き方を考え、これからの学びの方法と意義を理解する。					全員	
2	マナー講座オリエンテーション マナーの重要性					外部講師	
3	好感のもたれる身だしなみ、姿勢					外部講師	
4	正しいお辞儀の方法 1					外部講師	
5	正しいお辞儀の方法 2					外部講師	
6	面接の受け方 1：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
7	面接の受け方 2：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
8	面接の受け方 3：集団面接					外部講師	
9	マナー講座のまとめ：美しく、正しい姿勢態度					外部講師	
10	体験学習：地域との連携による食育活動					全員	
11	各職域における栄養士の仕事（就職特別セミナー）1					全員	
12	各職域における栄養士の仕事（就職特別セミナー）2					全員	
13	校外実習報告会					全員	
14	1年次のまとめ1：総合テスト					全員	
15	1年次のまとめ2：総合テストの解説					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業への参加態度	50	授業へ積極的に関わる。 授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	質的量的に適切である。 指定期日迄の提出		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
各取組内容をまとめる。[30分] 必要なことはその都度指示をする			レポートは返却しないこともある。				
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。		教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB220C 栄養士への道C		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次の学びを受けて、栄養士としての専門科目を学ぶための基礎となる知識を確認し、専門的なスキルを習得するために必要な技能を理解する。また、より専門的な体験学習をとおして現代の食生活での問題を見つけ、それに対処できる能力を修得する。			栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。栄養士の社会的な役割を理解できる。				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	特別オリエンテーション：栄養士の役割を理解する					全員	
2	栄養士業務実践のための知識 1：1年次の学びの内容を深める					全員	
3	栄養士業務実践のための知識 2：2年次の学びに向けて栄養士業務への理解を深める					全員	
4	栄養士に必要な基本的態度の学び 1：栄養士の活動分野への理解を深める					田中	
5	栄養士に必要な基本的態度の学び 2：栄養士に求められる接遇について理解する					田中	
6	栄養士に必要な基本的態度の学び 3：栄養士に求められる文章作成を習得する					田中	
7	栄養士に必要な基本的態度の学び 4：栄養士に求められる表現力を深める					田中	
8	栄養士業務実践のための演習により実践力をつける					全員	
9	栄養士業務実践のための演習により実践力をつける					全員	
10	栄養に関する課題への取組 1：個々の栄養問題を理解する					全員	
11	栄養に関する課題への取組 2：家庭の栄養問題を理解する					全員	
12	栄養に関する課題への取組 3：地域の栄養問題を理解する					全員	
13	栄養に関する課題への取組 4：世界の栄養問題を理解する					全員	
14	食育の実践 1：小児の食育を体験し、その理解を深める					全員	
15	食育の実践 2：高齢者の食育を体験し、その理解を深める					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度	50	授業に積極的に関わる 授業に向けて十分準備する		課題提出	50	量的・質的に適切である 提出期日までの提出	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
自身的生活習慣・食習慣を意識する。				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと			教科書・テキスト	担当者が配布する資料			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB230C 栄養士への道D			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・茶谷 信一・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
卒業に向けて、これまでに学んだ栄養士としての専門知識を確認し、より専門的な技能と様々な課題に対処できる能力を修得する。				栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 栄養士の社会的な役割を理解できる。 栄養士業務に必要な知識を総合的に理解している。			
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養士の専門知識 1, 2 : 食品学総論、公衆衛生学について理解を深める						坂井、俵
2	栄養士の専門知識 3, 4 : 基礎栄養学、公衆栄養学について理解を深める						新澤、三田
3	栄養士の専門知識 5, 6 : 栄養指導論、調理学について理解を深める						三田、新澤
4	栄養士の専門知識 7, 8 : 応用栄養学、生化学について理解を深める						俵、坂井
5	栄養士の専門知識 9, 10 : 給食管理、解剖生理学について理解を深める						田中、西
6	栄養士の専門知識 11, 12 : 食品衛生学、食品学各論について理解を深める						西、坂井
7	栄養士の専門知識 13, 14 : 人体構造学について理解を深め、栄養士の専門知識をまとめる						坂井、田中
8	栄養士の専門知識を総合的に理解する						全員
9	栄養士の専門知識を総合的に理解する						全員
10	栄養士のための社会常識への理解を深める						全員
11	栄養士業務の実際 1 : 先輩栄養士に学ぶ (医療分野を理解する)						全員
12	栄養士業務の実際 2 : 先輩栄養士に学ぶ (在宅栄養分野を理解する)						全員
13	栄養士業務の実際 3 : 先輩栄養士に学ぶ (地域活動分野を理解する)						全員
14	食に関わる企業を理解する						全員
15	栄養士の道のまとめ (社会での役割を考える)						全員
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準			評価項目	割合 (%)	評価基準
授業への参加態度	50	授業に積極的に関わる 授業に向けて十分準備する			課題提出	50	量的・質的に適切である 提出期日までの提出
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。			教科書・テキスト	担当者が配布する資料		
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FB090C 科学の基礎			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由
担当教員名	坂井 良輔・西 正人 (代表教員 坂井 良輔)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
高等学校において理科系科目の理解度の差を鑑み、栄養士養成課程専門科目群履修に必要と思われる基礎的知識(化学)の再確認を行う。				1年生が専門科目を受講するにあたり、高等学校で履修した理科、特に生物や化学の必要不可欠な知識を完全習得する。			
教授方法	テキストに基づき、高等学校に学んだことの確認、そして確認された事項が専門科目の何処に繋がるのか、説明を行いたい。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	有機化学を学ぶにあたって：高等学校で学んだ化学の知識の確認と有機化学の基本的な考え方を学ぶ						坂井
2	有機化合物の分類と化学結合と立体化学を理解する。						坂井
3	有機化合物の構造による特徴と酸化還元、置換、付加、脱離、その他の反応を理解する。						坂井
4	炭水化物：単糖、オリゴ糖、多糖についてその構造、結合、働きと糖の誘導体についてその構造、結合、働きについて学ぶ。						坂井
5	アミノ酸とタンパク質：アミノ酸について、その種類、分類、構造とタンパク質について、その種類、分類、構造について学ぶ。						坂井
6	脂質：単純脂質について、その種類、分類、構造と複合脂質について、その種類、分類、構造について学ぶ。						坂井
7	ビタミンと無機質：ビタミン、無機質について、その種類、分類、構造について学ぶ。						坂井
8	生命活動と代謝1：生物を構成する物質について細胞の構成成分や細胞の働きと関連付けて理解する。						西
9	生命活動と代謝2：細胞における代謝について学習する。細胞において必要なエネルギーはどのように獲得されているのか、そのエネルギーの元は何かなどについて理解する。						西
10	酵素1：細胞内における酵素の役割とその化学的性質について理解する。						西
11	生物と遺伝子1：遺伝子の働きを理解する。DNAの構造、構成する物質について理解する。						西
12	生物と遺伝子2：DNAとタンパク質合成について理解する。生成されたタンパク質の生体内における働きについて理解する。						西
13	体液と循環1：生体内における化学反応は全て体液中で起こっている。細胞内や細胞を取り囲んでいる体液にふくまれている物質やそれらの働きを理解する。						西
14	体液と循環2：体液はどんなものを運搬しているのかを理解する。体液の循環を司る器官系とその働きの調節について理解する。						西
15	免疫：主な免疫細胞とその特徴を理解し、免疫系システム(自然免疫と獲得免疫)の全体像について理解する。						西
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	講義を行った事項が理解と習得されているかを確認する。			取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
高校時に履修した理科系科目の教科書を再度通読し、問題意識をもって講義に臨んでもらいたい。この科目を学びながら、学んだあとにも他科目でも、用語、項目、概念は再出するのでそのつど、復習してもらいたい。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	なるべく平易、簡便な方法での講義を目指すので、苦手意識を克服してもらいたい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 『基礎有機化学』高橋 吉孝 辻 英明 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-06155357-6 『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能(2) 生化学』第13版第5刷 三輪 智 医学書院 2018年 ISBN978-4-260-03556-9 栄養生化学で使用使用するテキストを使用します。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	FB095C 栄養士のための計算入門		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
栄養士業務に必要な計算の基礎を身につける。四則計算から、溶液づくりのための知識くらいまでを履修する。			計算についての基本的な考え方を理解し、四則計算や割合に関する問題が解けるようになる。専門科目に出てくる数学的な考え方に対応できる力をつける。			
教授方法	演習プリントへの取り組みと解説、個別指導。					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスルールとオリエンテーション 科目の概要や到達目標、学習方法や評価について理解する。					
2	整数の計算の考え方を理解しできるようになる。					
3	分数の計算と考え方を理解しできるようになる。					
4	少数の計算と考え方を理解しできるようになる。					
5	割合と比の考え方を理解し計算ができるようになる。					
6	連立一次方程式の考え方を理解し計算ができるようになる。					
7	前半5回の復習をする。					
8	整数の計算の上級問題ができるようになる。					
9	分数の計算の上級問題ができるようになる。					
10	少数の上級問題ができるようになる。					
11	割合と比の上級問題ができるようになる。					
12	溶液についての基本的な考え方を理解し計算ができるようになる。					
13	後半5回の復習をする。					
14	グラフと表についての基本的な考え方を理解する。					
15	まとめとふりかえりをする。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
達成度確認試験	40	履修項目全体の理解度を見る。	課題への取り組み状況	40	到達度には個人差があるが、どれだけ向上したか、意欲的に取り組んだかを見る。	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
自学自習・復習を自主的に行うこと。[30分]			提出された課題等は、原則としてコメントを付したり添削をしたりした上で評価を行い、次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	各回での基本的な考え方の理解につとめ、計算問題にしっかり取り組むこと。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FH100C 公衆衛生学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	木村 敏行					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりを見せており、栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的としている。</p>			<p>本科目では、社会、環境、健康との関係を理解するとともに、現代の医療、保健、福祉及び社会保障などについて知識を習得する。また、地域社会における疾病予防や国民の健康維持向上の現状並びに今後の対策について理解する。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会と健康 授業概要の説明：公衆衛生及び健康の概念、公衆衛生の歴史から現代の公衆衛生を知る					
2	保健統計 人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計について学ぶ					
3	疫学 疫学の概念、疫学の指標、疫学の方法について学ぶ					
4	生活習慣の現状と対策 健康に関連する行動と社会について学ぶ					
5	主要疾患の疫学・その1 生活習慣病と成人保健、主要部位の悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患について学ぶ					
6	主要疾患の疫学・その2 骨・関節疾患、口腔疾患、精神疾患、自殺、感染症について学ぶ					
7	保健行政・その1 地域保健について学ぶ					
8	保健行政・その2 母子保健、学校保健について学ぶ					
9	保健行政・その3 産業保健、高齢者保健について学ぶ					
10	環境保健・その1 人間生活と環境、環境汚染と健康について学ぶ					
11	環境保健・その2 環境衛生について学ぶ					
12	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その1 社会保障の概念、医療制度について学ぶ					
13	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その2 社会保険、介護保険制度と社会福祉制度を学ぶ					
14	衛生、栄養関係法規 法規の定義とその種類、衛生法規について学ぶ					
15	国際保健 国際協力のしくみ及び国際保健について学ぶ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	試験範囲、評価基準は後日示す。記述式		授業参加状況	20	受講態度、提出課題を参考にする。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する課題提出により復習を行うとともに、次回講義冒頭で知識の定着をはかる。[10分]			講義の冒頭にコメント。			
受講生に望むこと	講義中の飲食は禁止。特別な理由がある場合は要相談。栄養士に相応しい態度。私語、居眠りなどせず抗議に集中してほしい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学 第3版 講談社サイエンティフィック ISBN: 978-4-06-155365-1 衛生環境系ノートブック	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	この授業は、栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職が学んでいます。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FH200C 社会福祉概論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	前川 直樹					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、制度や実施体制等の現状について、広く学びます。高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改革の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざします。			社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 社会福祉の援助と視点を理解する。 社会福祉分野における栄養士の役割を理解できるようになる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。					
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。					
3	社会保障制度の概要：社会保障制度の全体像を学ぶ。					
4	社会保障制度の概要：社会保険制度について学ぶ。					
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原則・原則、生活保護の実際について学ぶ。					
6	高齢者の福祉：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。					
7	高齢者の福祉：介護保険制度の概要について学ぶ。					
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。					
9	障害者の福祉：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。					
10	障害者の福祉：障害者総合支援法の概要について学ぶ。					
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。					
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。					
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。					
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。					
15	社会福祉分野における栄養士：社会福祉分野で働く栄養士の立場と役割を考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価します。	授業参加状況	20	意見や質問を行い積極的に授業に参加しているか等、受講態度を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めてください。[60分]			課題ではありませんが、講義後に提出された意見や質問には、次回の冒頭に口頭でコメントを行います。			
受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでください。		教科書・テキスト	「六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 岩松珠美・三谷嘉明 編 株式会社 みらい ISBN 9784860155056		
指定図書/参考書等	なし/授業中に適宜紹介します。		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。						

授業科目名	FP100C 人体構造学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>栄養学の目的は、食生活を通じて人の健康を維持・増進していくことである。生活習慣病を始めとして、食生活と深く関係のある病気は多い。健康や病気のことを理解するには、まず人体のしくみを理解する必要がある。この授業では、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的構造を学び、健康および病的状態における人体機能の理解を助けることを目的とする。</p>				<p>人体を構成する細胞の構造と機能を説明することができる。          人体を構成する組織の構造と機能を説明することができる。          人体を構成する器官と器官系の構造と機能を説明することができる。</p>			
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	細胞の構造： 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、核の構造と機能を説明できる。						
2	組織と器官の構造： 上皮、支持、筋、神経の4大組織および10大器官系の構造と機能を説明できる。						
3	骨格系の構造： 骨組織の構造と機能、骨形成のしくみ、全身の骨格系の構造と機能を説明できる。						
4	筋系の構造： 筋組織の構造と機能、筋収縮のしくみ、全身の筋系の構造と機能を説明できる。						
5	循環系（1）心臓と血管の構造： 心臓および全身の血管系の構造と機能を説明できる。						
6	循環系（2）リンパ系と血液の構造： 血液、リンパ系、造血系の構造と機能を説明できる。						
7	消化器系（1）消化管の構造： 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能を説明できる。						
8	消化器系（2）消化腺の構造： 肝臓、胆道系、膵臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。						
9	呼吸器系の構造： 鼻腔、喉頭、気管と気管支、肺の構造と機能を説明できる。						
10	泌尿器系の構造： 腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造と機能を説明できる。						
11	生殖器系（男性生殖器和女性生殖器）の構造： 精巣、精路、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。						
12	内分泌系の構造： 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造と機能を説明できる。						
13	神経系（1）中枢神経の構造： 神経組織の構造と機能、脊髄と脳の構造と機能を説明できる。						
14	神経系（2）末梢神経の構造： 脊髄神経系、脳神経系、自律神経系の構造と機能を説明できる。						
15	感覚器系（皮膚、眼、耳）の構造： 皮膚、眼、耳の構造と機能を説明できる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題について主体性をもって学習し、正確に記述する。			定期試験	70	講義内容についてどれだけ理解しているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業前に教科書を読んで予習すること〔各回90分〕。          その日に習った授業範囲のプリントを家で読んで復習し、わからないところは教科書や参考書で調べること〔各回90分〕。          試験前にはプリントの内容を繰り返し繰り返し音読すること。</p>				<p>レポートはコメントをつけて返却する。レポートと試験を合わせた成績不良者には再試験として別のレポートを課する。</p>			
受講生に望むこと	授業中は講義に目と耳で集中し、プリントは復習に用いること。私語を慎むこと。			教科書・テキスト	『管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト』第4版 岩堀修明著 文光堂 ISBN978-4-8306-0040-1 C3047		
指定図書/参考書等	なし/図書館にある解剖生理学関係の参考書			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FP200C 生理学 (含運動生理学)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>健康な生活を生涯にわたって続けるには、生活に適切な運動を取り入れ、栄養状態の改善を図るなどの生活習慣の確立が重要である。また、スポーツ栄養、健康維持増進、高齢者や病人の介抱や日常生活を助ける専門家は運動を含めた栄養生理を学ぶ必要があることから、本科目では運動生理や栄養生理について学習する。</p>			<p>運動、トレーニングと生理的適応に関するメカニズムを理解する。また、食事と継続的な食生活が人体に及ぼす影響についてそのメカニズムを理解する。これらの理解をとおして様々な個人に対する適切な運動や食生活を処方するための考え方を習得する。</p>				
教授方法	テキスト、パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸収機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する。						
2	物質代謝1 吸収された栄養素がどのようにしてエネルギーを生み出しているかを物質代謝、エネルギー代謝の面から理解する。						
3	物質代謝2 基礎代謝と基礎代謝に影響を与える因子について理解する。日常の生命活動や運動時におけるエネルギー代謝を理解する。						
4	呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する。						
5	運動時の呼吸・循環機能と運動時の酸素摂取の問題について理解することにより、エネルギー代謝における問題、健康の保持増進のための運動処方の方針について学ぶ。						
6	泌尿器系と排泄 泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する。						
7	内分泌系1 ホルモンの受容体と作用機序について理解する。ヒトにおける内分泌器官や組織の働きと調節機構について理解する。						
8	内分泌系2 外部環境の変化や運動などにおける内分泌系の生体調節作用について理解する。						
9	神経系 自律神経系の働きや運動器系と神経の関係を分子レベルで理解する。						
10	運動(身体的トレーニング)による身体各組織・器官の生理的効果について理解する。						
11	健康や体力の維持・増進において栄養や運動が及ぼす影響や関連性とそのしくみについて学ぶ。						
12	運動と各栄養素との関連や働きなどを理解する。						
13	筋肉の収縮機構とエネルギー代謝について分子レベルで理解する。						
14	運動処方:基礎調査、スクリーニング検査、運動負荷検査、体力検査、運動処方内容の決定までを学習する。						
15	遺伝情報:遺伝子の複製とその仕組みについて理解する。遺伝子によるタンパク質合成のメカニズムを理解する。遺伝情報の発現について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	80	授業内容の理解と学んだことを活用できるかを評価する。		授業外課題	20	課題の意図を理解し、的確な論理に基づいて回答が導かれているかを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
授業後にはテキストや配布されたプリントを使って授業内容を振り返り、疑問や理解できないことは質問または、専門書で調べておく。[40分]			課題レポート提出後に解答、考え方について解説する。				
受講生に望むこと	人体構造学や栄養生化学で学んだことも必要に応じて復習しながら取り組むこと。		教科書・テキスト	「人体構造学」と「栄養生化学」で使用したテキストを使います。			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FP110C 栄養生化学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
ヒトのからだを作っている基本単位である細胞について学習する。その上で、食物やヒトのからだを作っている糖質・脂質・たんぱく質・核酸などの分子がどのような形をして、どのような性質や働きがあるかについて学ぶ。次に、食物に含まれる成分がどのようにして体に入り、利用されるかについての概要について学ぶ。さらに、ヒトのからだをつくっている分子が常に壊されたり、また作られていること(物質の代謝)を分子レベルでの変化として詳細に学習する。また、生体を維持するために必要なエネルギーを栄養素からどのようにして獲得しているかの仕組み(エネルギー代謝)について学ぶ。これらの代謝がどのように調節されているのかや代謝の異常と疾病の関連についても学習する。			細胞の構造と機能について理解する。 食物または生体関連物質の構造と機能・性質について理解する。 糖質・脂質・たんぱく質・核酸の代謝について理解する。 代謝の相互関係と調節の仕組みを理解する。 代謝の異常と疾病との関連について理解する。栄養素の生体内における利用と適正な食物摂取について生化学的に理解する。また、栄養素の生理作用、様々な疾患の発症原因を考える上で必要な知識や考え方を習得する。				
教授方法	パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	生化学を学ぶ基礎知識：生体を構成する元素や分子とそれらの化学的な性質について理解する。人体の成り立ちを理解する。細胞の構造、細胞膜の構造や細胞膜による物質輸送の仕組みについて理解する。						
2	細胞の構造と機能：細胞内に存在する小器官の構造や特徴、それらの働きについて理解する。細胞の構造と機能について問題演習によって学んだことを確認する。						
3	糖質 1：糖質の種類、単糖類の基本構造、糖質の構造に関連付けてそれらの化学的な性質や特徴などを理解する。。						
4	糖質 2：オリゴ糖や多糖類などの構造とそれらの性質を関連付けて理解する。人体にはどんな糖質が存在し、どんな働きがあるかを理解する。						
5	糖質 3、脂質 1：糖質について問題演習により、学習した内容を確認する。脂質の種類と働きを理解する。脂肪酸の構造と化学的性質について関連付けて理解する。						
6	脂質 2：複合脂質の構造と化学的性質や機能について関連付けて理解する。リポタンパク質の種類と特徴を理解する。						
7	脂質 3：リポタンパク質の構造と由来について理解する。リポタンパク質の生体内における輸送と働きについて理解する。						
8	脂質 4、タンパク質とアミノ酸 1：脂質について問題演習を行い、学習した内容を確認する。人体におけるタンパク質の働きを理解する。アミノ酸の構造とその特徴や化学的性質について関連付けて理解する。						
9	タンパク質とアミノ酸 2：アミノ酸の種類、分類、基本構造と化学的性質を関連付けて理解する。タンパク質の構造形成する化学結合について理解する。。						
10	タンパク質とアミノ酸 3：タンパク質の分類と人体に存在するタンパク質働きと化学的性質を関連付けて理解する。						
11	タンパク質とアミノ酸 4、核酸 1：タンパク質とアミノ酸について問題演習を行い、学習した内容を確認する。核酸、DNA、遺伝子、ゲノム、染色糸、染色体などは何を指しているのかを理解する。核酸を構成している物質にはどんなものがあるか、人体ではどんな働きをしているかなどを理解する。						
12	核酸 2：DNAとRNAの構造と働きについて理解する。RNAの種類とそれらの働きについて理解する。						
13	核酸 3、酵素 1：核酸について問題演習を行い、学習した内容を確認する。酵素の触媒としての働きを理解する。酵素の特性や反応に必要な補因子(補酵素や金属イオンなど)とそれらの働きを理解する。						
14	酵素 2：酵素活性の調節のメカニズムや律速酵素について理解する。酵素反応の特性と酵素の反応速度についてミカエリス・メンテンの式を中心に展開し、酵素反応の特性やミカエリス定数などについて理解する。						
15	酵素 3：酵素の阻害の仕組みや特性について理解する。酵素のアロステリック制御についても理解する。また酵素について問題演習を行い、学習した内容を確認する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	80	学期末に行う試験の成績		授業外学習課題	20	レポート提出 授業の理解や応用力などを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
講義の前、そして講義の後などに教科書を読み、分からないこと・理解できないことを見つけ、自らの課題をみつけて授業にのぞむ。[40分] 学習課題は、テキストや他の科目でも関連があると思われるものも参考にして取り組む。[50分]			課題提出締め切りの次回講義に解説を行う。				
受講生に望むこと	些細な疑問でも放置せずに調べるか質問し解決しておく。質問は他の学生の理解を深めることにつながるので積極的な質問をのぞむ。		教科書・テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2]生化学 第13版』三輪一智 医学書院 2018年 ISBN: 978-4-260-03556-9			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	FP210C 病気のしくみ			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>病気の原因（病因）、病気による生体の形態的・機能的変化（病態）について理解し、さらに病気の症状、診断、予防や治療について学ぶ。広範な医学知識、専門用語を要領よく的確に身につけることが必要である。特に食事や生活習慣と病気の関連に注目し、栄養指導を通じて社会における疾病予防、健康増進に貢献するための基本的知識を習得する。</p>				<p>主な病気について病因、病態、症状、診断、予防や治療を理解する。食事や生活習慣と病気の関係を理解する。病気の予防・治療に必要な栄養指導の基本を理解する。</p>			
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義。最終日にはグループディスカッションを行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	病気とは何か：病因と病態、症状、診断、予防と治療について学ぶ。						
2	栄養・代謝系疾患：糖尿病、脂質異常症を中心に学ぶ。						
3	栄養・代謝系疾患：肥満、メタボリックシンドロームを中心に学ぶ。						
4	内分泌系疾患：内分泌系疾患について学ぶ。						
5	消化管疾患：口腔から肛門までの消化管の疾患について学ぶ。						
6	肝・胆・膵疾患：消化器の付属腺である肝臓、胆道系、膵臓の疾患について学ぶ。						
7	循環器系疾患：心臓病、動脈硬化、高血圧について学ぶ。						
8	腎・尿路系疾患：腎臓および尿路の疾患について学ぶ。						
9	神経・精神系疾患：神経・精神系疾患について学ぶ。						
10	呼吸器系疾患：呼吸器系疾患について学ぶ。						
11	血液・造血器系疾患：血液・造血系の疾患について学ぶ。						
12	生殖器系疾患：男性生殖器系、女性生殖器系および乳腺の疾患について学ぶ。						
13	運動器系疾患、皮膚系疾患：運動器（骨格系と筋系）および皮膚系の疾患について学ぶ。						
14	免疫アレルギー系疾患、感染症：免疫アレルギー系疾患および感染症について学ぶ。						
15	まとめ：課題についてグループディスカッションを行い、各自がレポートを提出する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	課題に対して主体性をもって取り組み、自分の考えでまとめる。			定期試験	60	講義内容についてどれだけ理解しているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>予習においてはテキストをしっかりと読んでくる〔各回90分〕。講義の後は、テキストに加え、講義プリントをよく読み、理解する〔各回90分〕。</p>				<p>レポートはコメントをつけて返却する。レポートと試験を合わせた成績不良者には再試験として別のレポートを課す。</p>			
受講生に望むこと	<p>病気のしくみは学習範囲が広く、授業ではカバーできない部分が多い。よって、テキストや配付資料に基づいた講義の予習復習はもとより、日頃より、健康問題に関心を持って、新聞等のマスメディアの記事にも積極的に目を通すことを望みます。</p>			教科書・テキスト	<p>「臨床医学 疾病の成り立ち」改訂第2版 田中 明、宮坂京子、藤岡 由夫(編集) 羊土社 ISBN-978-4-7581-0881-2 C3047</p>		
指定図書/参考書等	<p>なし/「人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療」第2版 竹中優(編著) 医歯薬出版 「人体の構造と機能および疾病の成り立ちII 疾病の成り立ち」田中清(編集) 中山書店</p>			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FP220C 生理学実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>食物栄養科学を学ぶものにとって、食物という供給物質について学ぶことはもとより、供給される側の人体の基本的な構造と機能を理解することも大切である。ヒトが食物を摂取することは、消化、吸収、排泄の一連の過程と関連しており、栄養となることは、すべての器官、組織、細胞の構造や機能の健全な成長及び維持に役立っている。すでに学んだこれらの構造と機能について、実習を通して理解を深めることをねらいとしている。実習では、骨標本、人体模型、組織標本などを観察しながら構造や機能的特徴などを学修する。</p>				<p>人体の構造を巨視的（系統的）及び微視的（顕微鏡的）に説明できる。人体の臓器や組織、細胞における特徴的な構造とその機能を関連づけて理解する。人体の構造と機能について体系的に理解する。</p>			
教授方法	講義と実習、視聴覚教材を用いる場合もあります。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、人体の成り立ちと構造と機能を関連付け、体系的に学んでいくことを理解する。。						
2	骨格標本の観察（上肢骨、下肢骨）：人体の骨格を構成する骨の形状や大きさ、特徴を理解する。						
3	骨格標本の観察（頭蓋骨、体幹骨）：骨の構造と特徴、機能を理解する。						
4	人体模型の観察（胸部部の観察）：胸部内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連づけて理解する。						
5	人体模型の観察（腹部の観察）：腹部内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連付けて理解する。						
6	組織学研究法：顕微鏡の原理と使い方を理解する。組織標本の作製・観察法を理解する。スケッチの作法を理解する。						
7	組織標本の観察（食道）：食道組織の顕微鏡観察とスケッチを行い、消化管の基本構造と食道組織の特徴と働きを理解する。						
8	組織標本の観察（胃）：胃の構造と働きを理解する。胃の組織標本の観察とスケッチを行い、組織的な構造と働き、胃底腺の存在する細胞の特徴と働きを理解する。						
9	組織標本の観察（小腸）：小腸の構造と働きを理解する。小腸の組織標本の観察とスケッチを行い、組織の構造や特徴と働きを理解する。						
10	組織標本の観察（腎臓）：腎臓の構造と働きを理解する。腎臓の組織標本の観察とスケッチを行い、腎小体の組織的な特徴と働きを理解する。また、尿生成の仕組みや尿生成以外の腎臓の働きを理解する。						
11	消化器系の臓器とその働きと相互作用、臓器の機能がどのように調節されているか内分泌系や自律神経などの働きとの関連などを視聴覚教材を用いて理解し、説明できるようになる。						
12	内分泌系の器官、組織、細胞の構造や働きについて理解する。また、内分泌の調節機構、自律神経との関連性などについて理解し、説明できるようになる。						
13							
14							
15							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	50	実習内容の理解度を評価する。		実習レポート	50	実習課題に対する理解度と到達度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
実習内容と関連性のある「人体構造学」や「生理学」の項目についてあらかじめ読んでおく。[30分]				実習課題について作成中に解説を行う。課題については解説後再提出を求める場合もある。			
受講生に望むこと	実習課題に取り組む過程で生じた疑問などは実習中に調べる、質問などし、解決しておく。			教科書・テキスト	「人体構造学」（1年後期）で使用したテキストを使います。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	色鉛筆（赤・青）を使用します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	FP230C 栄養生化学実験			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・無機質などの栄養素を実験試料としてそれぞれの定性・半定量実験について学ぶ。栄養素を分解する消化酵素を使った実験も行う。それらの実験を通して各栄養素の構造や性質、体内での働きへの理解を一層深める。実験に慣れるために身近なもの、現象を対象にした平易なものからスタートし、未知試料を同定させるなどのクイズ形式のまとめ実験などを組み込み、学生が興味・関心を失わないように工夫する。</p>				<p>実験器具の名称を覚える。 実験機器の使用法を覚える。 各栄養素の化学変化に興味を持つ。 実習書の書かれてあることを具体的な操作へと具現化できる様にする。 段取り、手順をたてられる様にする。 安全に実験を行うことを身につける。</p>			
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実験に際しての注意 実験を行う際の最低限の基礎知識を身につける。						
2	pH による野菜色素の呈色変化 自然界にある様々な化学物質が色素として使えることを知る。						
3	タンパク質の性質 - 等電点 , 加熱変性 - タンパク質の基本性質を知る。						
4	タンパク質の性質 -凝固・沈殿- タンパク質の基本性質を知る。						
5	タンパク質 , アミノ酸の呈色反応 タンパク質、アミノ酸の基本性質を知る。						
6	糖の定性 糖の基本性質を知る。						
7	まとめ —タンパク質 , 糖の未知試料の同定実験— 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
8	脂質、脂溶性ビタミンの定性 脂質、脂溶性ビタミンの基本性質を知る。						
9	まとめ -脂質、脂溶性ビタミンの同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
10	水溶性ビタミン、無機質の定性 水溶性ビタミン、無機質の基本性質を知る。						
11	まとめ -水溶性ビタミン、無機質の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。						
12	酵素・アミラーゼによるデンプン分解反応 代表的な消化酵素の働きを知る。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。		取り組む姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化し加点する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1年次に履修した栄養生化学、栄養学の知識を再確認することを実習と平行して行うこと。【30分】 実習書をよく読んで、文章で書かれたことを、操作に変換する訓練をする。【30分】 また期末試験のためにレポート整理、データ整理などを怠りなく行う習慣をつける。【30分】				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。			
受講生に望むこと	はじめて化学実験を行う人は、化学実験の楽しさを知って欲しい。栄養素の化学的性質を知ること、栄養学の理解を深めてもらいたい。			教科書・テキスト	『栄養生化学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FP120C 食品学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>高等学校で学んだ化学・生物・理科の基礎知識の上にたち、それらの様々な事柄が日々の生命活動、食生活をはじめとする社会生活の中でどのように関わっているかを確かめてみる。食品の栄養素や化学成分が人体にどのように働き、関わっているかを知る。それを通して食品学を身近な学問、役に立つ知識と認識してほしい。また担当教員が係わり、成果として特許共同出願に至った産学官共同研究を紹介し、実験や研究の面白さなどを伝えたい。</p>			<p>食品・栄養・健康を食品学の知識を通して理解を深める。また食品の摂り方は生活習慣病などの疾病にも深く関係しており、生涯にわたって自分の健康についても、注意し続ける姿勢を身につける。また、数年後に取り組みと思われる就職活動のために、食品産業・業界に關係する企業等の活動や業務内容について提供された情報を活用できるようになる。</p>			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品とは あらためて、フードマイレージ、食糧受給率、地産地消、等の観点から食品について考える。					
2	食品の分類・食品成分表 同じ食品が様々な観点、視点から分類されていることを知ることを目標とする、また食品成分表記載の成分測定法を詳しく説明する。					
3	水 生命活動の基本である水が食品とどのような関わりをもつか学ぶ。					
4	タンパク質 様々なタンパク質の構造と分類と働きについて理解する。					
5	炭水化物 様々な炭水化物の構造と分類と働きについて理解する。					
6	脂質 様々な脂質の構造と分類と働きについて理解する。					
7	ビタミン 様々なビタミンの構造と分類と働きについて理解する。					
8	無機質 様々な無機質の構造と分類と働きについて理解する。					
9	色素成分 様々な色素成分の構造と分類と働きについて理解する。					
10	呈味成分 様々な呈味成分の構造と分類と働きについて理解する。					
11	香気成分 様々な香気成分の構造と分類と働きについて理解する。					
12	食品の物性と官能評価 食品の物性の測り方、装置、それから何がわかるのか、また官能検査とはどんな検査なのかを学ぶ。					
13	食品成分間反応 食品中の各成分同士が酵素、加工、等により化学反応を起こし、新たな成分が合成される不思議さを学ぶ。					
14	食品の機能性 栄養成分 嗜好成分以外の第三の成分の構造と働きについて学ぶことを目標とする。食品物性と官能検査 物性の測定法に、官能検査の原理について理解する。					
15	バイオテクノロジーと食の安全・安心 石川県で生まれたクローン牛を中心に、バイオテクノロジー技術と問題点を探る。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身につけているか確認する。		取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。〔30分〕			特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。		教科書・テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 NEXT食品学総論 第3版』 講談社サイエンティフィック 辻 英明/海老原 清/渡邊浩幸/竹内弘幸・編 ISBN978-4-06-155386-6		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FP240C 食品学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
各食品名と実物を一致させることから始める。各食品の分類、成分、由来、歴史、それらを使用した代表的料理、加工品等を紹介しながら理解を深める。各項目において金沢、石川県、北陸の御当地食材、特産物、等を詳しく説明を行いたい。				多くの食物、食品を知り、豊かなで健康な食生活をおくる基礎知識を身につけてもらいたい。また、地産地消、フードマイレージ、食糧自給率などにも目を向け、様々な角度から食をを考える力を身につける。			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義のオリエンテーション 食品とは 講義の進め方を理解する。食品についてもう一度再認識する。						
2	食品の分類 食品の需要 食品学 で学んだ復習と食品輸入国日本の食品需要について学ぶ。						
3	穀類 様々な穀類の分類と成分と特徴について理解する。						
4	いも類・甘味類 様々ないも類、甘味類の分類と成分と特徴について理解する。						
5	豆類・種実類 様々な豆類、種実類の分類と成分と特徴について理解する。						
6	野菜類 様々な野菜類の分類と成分と特徴について理解する。						
7	果実類 様々な果実類の分類と成分と特徴について理解する。						
8	きのこ類・藻類 様々なきのこ類、藻類の分類と成分と特徴について理解する。						
9	魚介類、様々ないも類 甘味類の分類と成分と特徴について理解する。						
10	肉類・卵類 様々な肉類・卵類の分類と成分と特徴について理解する。						
11	乳類 様々な乳類の分類と成分と特徴について理解する。						
12	食用油脂 様々な食用油脂の分類と成分と特徴について理解する。						
13	菓子類 様々な菓子類の分類と成分と特徴について理解する。						
14	嗜好飲料 様々な嗜好飲料の分類と成分と特徴について理解する。						
15	調味料および香辛料類・調理加工食品類 様々な調味料および香辛料類、調理加工食品の分類と成分と特徴について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身につけているか確認する。			取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常の食事と関連づけて、口に入る食材すべてに興味を持つ。その都度、教科書を開け、知識を確認することが望ましい。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	日常の調理、料理、食材、食品を再度見直す機会としてもらいたい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ『食べ物と健康、食品と衛生 食品学各論 第3版』小西洋太郎 辻 英明 渡邊 浩幸 細谷 圭助 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-155385-9 栄養科学シリーズ『食べ物と健康、食品と衛生 食品加工・保蔵学』海老原 清 渡邊 浩幸 竹内 弘幸 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-155395-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FP250C 食品衛生学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
食品の生産から加工、流通、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性確保について学ぶ。食品安全関連法規を学び、食品衛生行政について理解する。			日常の食生活で起こっている食中毒、または行われている食品添加物使用、表示方法などを理解し、生活を送るにあたって役にたつ学問、知識であることを再認識する。			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。					
履修条件	特になし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品の安全性：食品衛生と微生物：食品の安全性の確保 食品衛生の目的 微生物の種類を理解する					
2	食品の変質：食品成分の変化 腐敗、鮮度の判定 油脂の変敗を理解する					
3	変質の防止：変質の原理 変質の制御法を理解する					
4	食中毒：食中毒の分類と発生を理解する					
5	食中毒：細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する					
6	食中毒：ウィルス 寄生虫 自然毒による中毒を理解する					
7	食品と寄生虫疾患：寄生虫の種類、生態、感染経路、予防法を理解する					
8	食品と感染症：経口感染症と病原体、人獣共通感染症、プリオン感染症を理解する					
9	食品汚染物質・残存物質：カビ毒、農薬、PCB、ダイオキシンについて理解する					
10	食品添加物：食品添加物の種類、性質、役割、安全性の評価、使用基準を理解する					
11	食品の包装：機能、種類、性質、衛生性、安全性を理解する					
12	食品衛生管理：コーデックス、HACCPシステムを理解する					
13	食品の表示と規格：表示法の概略、規格基準、成分規格を理解する					
14	食品安全行政：食品安全行政の対象と範囲について理解する。					
15	食品安全関連法規：食品安全基本法、食品表示法、調理師法、製菓衛生師法などを理解する					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身につけているか確認する。		取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。[30分]			特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。		教科書・テキスト	『食べ物と健康 食品衛生学-食の安全と衛生管理』 岸本満 編集 中山書店 ISBN978-4-521-74290-8		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FP260C 食品学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
食品学 および食品学 で学んだ各食品に含まれる栄養素と食品成分とを定量する。そして食品成分表に載っている値もしくは食品に表示されている値と比較検討考察して、食品と栄養素への認識を新たにする。食品学と食品学 で学んだことを実際に確認してみる。			栄養生化学実験で学んだことを踏まえ、使用器具の名前と使い方を覚える。試薬の性質と扱い方を注意する。どんな栄養素がどのような食品に含有されるのかを知る。			
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	化学実験の基礎知識説明 中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定 今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算が出来るようになる。					
2	中和滴定による酸力価検定 食酢中の酢酸の定量 中和滴定により、さらに実験技法を高める。					
3	酢酸の定量 塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量出来ることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。					
4	水酸化ナトリウム再滴定 総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する、蒸留装置を組める。					
5	菓子類と栄養 パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、ヨウ素価による油脂の化学特数の測定 環流装置を組めるようになる。					
6	ソモギー変法による清涼飲料水 機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。					
7	牛乳、乳飲料 機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、微妙な色の変化を識別出来る様になる。					
8	ハウレン草中の鉄の定量 シュウ酸の定量 灰化操作、化学成分の抽出を習得する。					
9	ハウレン草中の鉄の定量 光度計の原理と使い方を習得する。					
10	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、その仕組みと防止する条件を探る。					
11	菓子類と栄養 菓子類に使われているイチゴ、柑橘類にビタミン C が本当に多いのか? 数種類をものを対象に測定し、比較する。					
12	ワインのアルコールの定量 ワインを対象として選び、記載濃度と測定結果を比較し、考察する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。		取り組む姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
この実験で扱う食品の多くは、日常の食生活や実習で使用するものである。日々、それらを食品学実験から得た知識の上にならって、扱い、活用する習慣をつける。[30分]				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。		
受講生に望むこと	目に見えない化学成分で栄養素の含有を実感してもらいたい。成分表が栄養素の化学成分測定・定量から成り立っていることを再認識してもらいたい。			教科書・テキスト	『食品学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FP270C 食品衛生学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>食品の安全性を担保することは食品を扱う者にとって人の命に関わる最も重視すべき事柄であるといえる。食の安全を保證する手段として、試験・検査を行い、適切な判断を下して正確な情報を提供することが栄養士の業務において要求されるといえる。実習では市販の食品を試料として実験を展開する。その内容は微生物やその代謝産物に関する項目、食品添加物、水質基準、食品の物理化学的性質と保存性との関連などをテーマとして扱い、食品衛生に関する基礎的な知識の獲得さらに、実験的手法を通して食品衛生の理解や実践能力を養う。</p>			<p>食品の試験や検査には「食品衛生検査指針」や「衛生試験法・注解」に収載されている公定法や最適法が用いられている。これらの基本的な原理や方法の概要の理解さらに、食品衛生に関する「試験・検査」および「判定」の目的と意義を理解する。</p> <p>実験では大きく分けて微生物学的実験と理化学の実験を行うが、両実験をとおしてサンプルの扱い方や器具、試薬、操作方法の基礎を習得する。</p> <p>実験後のレポート作成を通して、データ整理や統計処理など実験・研究において必要な報告書作成の基本を習得する。</p> <p>本実験を通して食品衛生学の基本的な知識の確認を行う。</p>			
教授方法	講義と実験					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	理化学実験における注意事項、実験器具と操作方法、有効数字や統計処理など実験データなどの数値の扱い方を学習する。					
2	食品の保存性や保存条件を考慮する評価項目として食品の水分活性がある。水分活性の測定における実験を通して、その測定原理やコンウェイ拡散ユニットの取扱、実験結果の評価方法を学ぶ。					
3	水道法に基づく水質基準項目について市販のミネラルウォーターや市水を用いて測定を行う。さらに試飲を行い、サンプルの理化学的特徴と官能的評価との関連を調べる。					
4	食品の腐敗や変質などの品質劣化の程度の指標となる一般生菌数について、生食野菜で測定する。一般生菌数の測定に必要な消毒や滅菌、無菌操作、培地の調整などの微生物試験の基礎を実践する。さらに、実験結果からデータの作成と評価方法についても実践する。					
5	光学顕微鏡（明視野顕微鏡）を用いて、食品サンプル中の細菌を観察する。観察では細菌の染色などの標本の作成方法や光学顕微鏡を使った細菌の観察方法などを習得する。また、実験を通して細菌の形態的知識の理解度を深める。					
6	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。					
7	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。					
8	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。（1）					
9	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。（2）					
10	漂白剤として用いられている亜硫酸塩を蒸留によって留出・精製する。実験では蒸留装置の組み方や蒸留の原理を習得する。また、二酸化硫黄の簡易定性試験方法として亜硫酸イオンの定量試験紙を用いた方法を習得する。					
11	市販の加工食品から、ソルビン酸又は、ソルビン酸 K を水蒸気蒸留によって留出・精製する。水蒸気蒸留の原理や水蒸気蒸留装置の組み方や実験操作を習得する。					
12	水蒸気蒸留によって精製したソルビン酸をチオバルビツール酸と反応させ比色定量する。ソルビン酸の理化学的性質や比色計を使った測定方法などを習得する。また、ソルビン酸と他の食品添加物や食品成分との反応生成物についても学習する。					
13						
14						
15						
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	50	実験の目的を理解し、データを適切に統計処理する。実験結果や既存の知見などから実験を全体をとおして推察できることが述べられているかを評価する。		期末試験	50	実験の原理、対象物の化学的性質、さらに実験で学習した食品衛生に関わる専門知識の理解を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
レポート作成時に食品衛生学で学んだことや食品衛生学のテキストなども参考にすることでより食品衛生に関する理解が深まる。[40分]				実験の説明時にレポート作成におけるポイントなども説明する。		
受講生に望むこと	実験は失敗しても構いませんので積極的に参加してください。実験操作や手順などを振り返り、なぜ失敗したかを検証することで失敗からより多くのことを学ぶことができる。			教科書・テキスト	『食品衛生学実験』 杉山章 岸本満 和泉彦彦 編 みらい 2018年 ISBN 978-4-86015-396-0	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
食品機械メーカーにおける勤務経験をもとに、様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリーンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点を説明している。						

授業科目名	FD100C 基礎栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト・社会福祉主事任用資格			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎となる栄養素について、その種類と機能、消化・吸収、代謝などを取り上げ、人体と栄養素の関わりについて理解を深める。</p>			<p>栄養とは何か、その意義を理解する。          栄養と遺伝素因との関連を理解する。          健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。          人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。          エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。					
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。					
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。					
4	糖質の栄養：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。					
5	糖質の栄養：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。					
6	脂質の栄養：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。					
7	脂質の栄養：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。					
8	たんぱく質の栄養：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。					
9	たんぱく質の栄養：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。					
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。					
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。					
12	無機質の栄養：無機質の意義、各無機質の特徴、過不足による健康障害の理解する。					
13	無機質の栄養：無機質の機能、代謝などを理解する。					
14	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する					
15	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率		課題レポート	20	課題の主旨を理解し、適切にまとめられているか
授業態度	10	授業への参加意欲				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、基礎栄養学の学びを把握する。          毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。          授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。          [毎回30分]</p>				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	他の科目とも関連させながら勉強して欲しい 健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと			教科書・テキスト	『イラスト 基礎栄養学』田村明他 東京教学社 ISBN：978-4-8082-6036-1	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FD200C 応用栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>応用栄養学では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。まず、栄養管理の基本的な手技の習得を目指す。次に、日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解し、ライフステージの変化に伴う生理的特徴や栄養状態に対応した栄養管理の考え方や方法を学習する。さらに、運動時及び特殊環境における栄養管理の習得を目指すこととする。</p>			<p>身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）の考え方を理解する。 日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解する。 各ライフステージにおける生理的な変化や栄養状態の特徴、それらに対する栄養管理のあり方を理解する。 運動時や特殊環境下での代謝変化やその際の栄養摂取方法を理解する。</p>				
教授方法	講義。教科書、パワーポイント、プリントを用いて行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養ケアマネジメント： 栄養ケアマネジメントの定義やプロセス 栄養スクリーニング 栄養ケア計画の実施・モニタリング・評価、について理解する。					依	
2	日本人の食事摂取基準（2020年版）：食事摂取基準の 目的と策定の基本方針、活用のための理論と方法 各指標の定義、について理解する。					依	
3	日本人の食事摂取基準（2020年版）：エネルギーおよび各栄養素の算定根拠について理解する。					依	
4	妊娠期：妊娠期の生理的特徴を理解する。					依	
5	妊娠期：妊娠中に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する					依	
6	授乳期：授乳期の生理的特徴を理解する。					依	
7	授乳期：授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。					依	
8	新生児・乳児期：新生児・乳児期の生理的特徴を知り、その未熟性を理解する。					依	
9	新生児・乳児期：新生児・乳児期の栄養ケアマネジメントと栄養補給方法を理解する。					依	
10	成長期：成長期の生理的特徴を理解する。					依	
11	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。					依	
12	成人期： 成人期の生理的特徴 成人期に特徴的な食生活と生活習慣病との関連 生活習慣病予防のための栄養ケアマネジメント、について理解する。					依	
13	高齢期： 高齢期の生理的特徴 高齢期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメント、について理解する。					依	
14	運動・スポーツと栄養： 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 運動と栄養ケアマネジメント、について理解する。					依	
15	環境と栄養：ストレスおよび特殊環境条件下における生理的特徴と栄養ケアマネジメントについて理解する。					依	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
単位認定試験	80	講義内容についてどれだけ理解しているか		授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前学習：教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] 事後学習：教科書・配布プリントを参照し、授業で扱った内容の理解を深める。[30分]			毎回、前回の授業内容について質問をし、理解できているか確認を行う。				
受講生に望むこと	応用栄養学は栄養士の実践活動の根幹をなすものです。将来、様々な状況に対応できる応用力のある栄養士となれるよう、栄養管理の基礎を意欲的に学んでください。			教科書・テキスト	『カレント 応用栄養学』 辻悦子編著、建帛社、2014年 ISBN 978-4-7679-0511-2		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	FD210C 臨床栄養学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。			傷病者の病態と栄養との関係を理解する。 適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 食品と医薬品の相互作用を知り実践に役立てることができる。 食物から人体が構成されていることの認識を深めることができ、家族や自己の健康のための栄養管理が実践できるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	病院での管理栄養士、栄養士の業務、また最近の新しい話題について紹介する。：臨床栄養とはどんなものなのかイメージできるようにする。 食事摂取基準について：栄養管理の基本となる食事摂取基準の意味、使用方法を習得する。						
2	人体の構成、代謝、消化と吸収について：主に人体の構成、ホメオスタシスについて理解する。						
3	食品の栄養素と機能について：食品の機能を理解し特定保健用食品と特別用途食品、食品と薬との相互作用を理解する。						
4	栄養補給法について：経口栄養法 経管、経静脈栄養法について理解する。						
5	医療施設、介護福祉施設の栄養ケアについて：栄養管理システム、栄養ケア、マネジメント、クリニカルパス、リスクマネジメントの意味を理解する。						
6	栄養アセスメントと栄養量の算出について：栄養スクリーニング、栄養パラメータ、検査値について理解する。						
7	チーム医療について：病院のチーム医療、緩和、褥瘡、摂食、嚥下リハビリテーション、地域連携について、またクリティカルケア、ICUの意味を理解する。						
8	栄養記録について：POS、POMR、SOAPの意味を理解する。						
9	栄養障害：低栄養（褥瘡を有する）、及びブレードスケールについて：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	代謝疾患（肥満症、メタボリックシンドローム）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	代謝疾患（糖尿病、妊娠糖尿病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	代謝疾患（脂質異常症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	代謝疾患（高尿酸血症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
14	消化器疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
15	消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍、胆石症・胆嚢炎）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。		毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用いてテーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。	
授業参加状況	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] レポートを記載する際には、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]				レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 評価やコメントに対しての質疑にはその都度対応する。			
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社） ISBN:978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準 2015年版』（第一出版） ISBN:978-4-8041-1408-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、各疾患の食事、嚥下等、食品・サンプル等を使用した体験学習を行っている。							

授業科目名	FD220C 臨床栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。				適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。病態別の食事内容について理解し使用可能食品や不可食品、特別用途食品、形態などを知りその使用を習得する。病院では特に多職種との連携が必要であり、また栄養指導においても優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	消化器疾患（肺炎、肝炎）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
2	消化器疾患（肝硬変、脂肪肝）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
3	循環器疾患（高血圧症、妊娠高血圧症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
4	循環器疾患（心疾患、動脈硬化症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
5	腎疾患（急性腎炎・急性腎不全・慢性腎臓病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
6	腎疾患（糖尿病性腎症、透析）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
7	腎疾患（ネフローゼ症候群、小児腎疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
8	内分泌疾患（甲状腺機能亢進症）、感覚器・神経疾患（脳梗塞）・クリティカルケア（外傷・熱傷）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
9	血液疾患（貧血）、筋骨格疾患（骨粗鬆症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	癌（胃癌）、術前・術後（短腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	嚥下機能障害（嚥下障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常症、食物アレルギー）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	外来患者（個人）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
14	外来患者（集団）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
15	QOLの向上について：ターミナルケアとホスピス、在宅医療、障害者への取り組みと栄養士の関わりを理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。		毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。	
授業参加状況	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] レポートを記載する際は、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]				レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。評価やコメントに対するの質疑にはその都度対応する。			
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社） ISBN：978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準 2020年版』（第一出版） ISBN:978-4-8041-1408-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、紙カップや飲料等、媒体を用いた栄養指導・相談のペアワークを行っている。							

授業科目名	FD230C 応用栄養学実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「応用栄養学」で学んだ知識を基に、各ライフステージの身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理について、講義、献立作成、調理実習を通して理解し、実践的な技術、知識を身につける。実習は特に配慮が必要な乳幼児期、高齢期を中心に行う。</p>				<p>各ライフステージにおける特性と問題点を理解する。各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。対象者の身体状況、食生活状況を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。</p>			
教授方法	講義、調理実習、献立演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義：栄養管理の基礎、献立作成について理解する。						依
2	実習：調乳・冷凍母乳・離乳食；生後5,6ヵ月頃（無菌操作法による調乳法を習得する。冷凍母乳の方法を理解する。離乳食を調理し、進め方の目安を理解する。）						依
3	実習：離乳食；生後7,8ヵ月頃（生後7,8ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）						依
4	実習：離乳食；生後9～11ヵ月頃（生後9～11ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）						依
5	講義：保育所給食（乳幼児の発育発達、誤嚥事故防止に配慮した保育所給食業務の留意点について学ぶ。）						依
6	実習：保育所給食3歳未満児（3歳未満児の昼食と間食を調理する。3歳以上児との給食形態の違いや調理法、分量などを理解する。）						依
7	実習：保育所給食3歳以上児（3歳以上児の昼食と間食を調理するとともに、その献立材料から各班自由に離乳食を展開してみる。）						依
8	実習：幼児の間食（幼児期の間食の必要性与与え方を学び、子どもの心と体を育む間食を考える。）						依
9	実習：幼児の弁当（弁当の特徴や調理上の留意点を学ぶ。調理法、詰め方は各班で工夫する。）						依
10	実習：行事食；クリスマス会（行事のもつ意味を考えながら楽しい雰囲気を出す。各班ごとに工夫する。）						依
11	演習：幼児食の献立作成（グループごとに幼児食の献立を作成する）						依
12	実習：高齢者の食事（高齢者の身体面、精神面の変化を理解し、健康な高齢者を対象としたメニューを実習する。）						依
13	実習：高齢者の食事（高齢者の食生活に変化と潤いを与える行事食について理解する。）						依
14	実習：食物アレルギー対応食（幼児期の食物アレルギー対応食の特徴や調理上の留意点などを調理実習を通して理解する。）						依
15	実習：作成献立の実習・評価（班ごとに作成献立の調理を行い、試食と評価を行う。）						依
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
実習のレポート	60	指定の用紙を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。ポイント、反省、盛り付け図などを記載する。			幼児の献立演習	30	幼児の特性に応じた献立を立てる。
授業参加状況	10	受講態度、調理実習中の取り組み。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>応用栄養学で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] 作成献立による実習は事前に試作を行う。[90分] レポートをまとめ、1週間以内に提出する。[60分]</p>				<p>レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。</p>			
受講生に望むこと	実習の目的と内容を十分理解して授業に臨んで下さい。提出物は期限までに必ず提出すること。返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	プリント配布		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準 2020年版（第一出版）			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FD240C 臨床栄養学実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	上田 広美					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
臨床栄養学は医学・栄養学の進歩に伴う食事療法の在り方を常に考慮していかなければならない。臨床栄養学の講義で学んだ基礎知識を踏まえ、疾病の改善に欠くことのできない栄養ケアの実践について学ぶ。調理実習や献立演習を通して、個々の患者のニーズに合わせたとともに、病態や栄養状態に基づいて適正な栄養管理ができるよう学びを深める。疾患別の栄養ケアの先に、栄養ケアの概念及び基礎（栄養補給法や基礎実習）を学ぶ。			栄養ケアの概要を理解する。 栄養補給法について、種類や適応を理解する。 疾患別の栄養ケアについて、各疾患の概要を理解する。 「糖尿病治療のための食品交換表」を理解し、患者に指導ができるようになる。 調理実習では、まず基礎実習をしっかりとし身に付ける。さらに各疾患の特徴を十分に理解したうえで、そのニーズに合わせた実習を行い、試食により味や舌触りを体験する。 グループワークにより、摂食・嚥下障害の実態を理解する。			
教授方法	講義、調理実習（プリントを配布する）、献立演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	講義：栄養ケアの概要・栄養ケアの基礎（栄養ケアの概要を理解する。栄養補給法の種類を学び、その長所・短所、適応と禁忌、合併症などを理解する。）、調理実習に入る前の病院における衛生管理について。					
2	実習：栄養ケアの基礎実習 - 流動食 -（流動食の種類、適応を理解する。具体的に流動食を実習し試食することにより、流動食しか食べることのできない状況を理解する。）					
3	実習：栄養ケアの基礎実習 - 五分粥食 -（軟食の種類を理解し、五分粥食を実習する。五分粥に合わせた副菜を考える。）					
4	実習：栄養ケアの基礎実習 - 全粥食 -（流動食、三分粥食、五分粥食、七分粥食、全粥食と段階を経て常食になることを理解する。）					
5	講義：疾患別の栄養ケア - 高齢者の栄養管理、口腔障害、摂食・嚥下障害 -（口腔障害、摂食・嚥下障害の概要及び機能評価と栄養ケアに関連付けて理解する。食事摂取量の低下の原因と改善の必要性を理解する。）グループワーク					
6	実習：疾患別の栄養ケア - 介護食（段階別） -（ステップ1から3の段階別に調理実習を行うことにより、摂食・嚥下機能に合った傾向からの食事の形態を体験し、調理する技能を身に付ける。）					
7	講義：疾患別の栄養ケア - 内分泌・代謝疾患 -（肥満症、糖尿病、高尿酸血症、甲状腺機能低下症・亢進症、先天性代謝異常症について各疾患の概要を理解する。）症例検討（グループワーク）					
8	演習：献立演習 - 糖尿病食 -（フードモデルを使って「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方を理解し、1日分の献立を立てる。）					
9	実習：疾患別の栄養ケア - 低エネルギー食 -（肥満症や糖尿病などエネルギーのコントロールが必要な疾患において、エネルギーを低くおさえる工夫を考える。）					
10	講義：疾患別の栄養ケア - 肝・胆・膵臓疾患、骨・関節疾患 -（肝炎、肝硬変・肝不全、脂肪肝、胆石症、膵炎について各疾患の概要を理解する。骨粗鬆症、くる病、骨軟化症について各疾患の概要を理解する。）					
11	実習：疾患別の栄養ケア - 骨粗鬆症の予防 -（カルシウムを多く含む食材を用いて調理実習を行い、普段の食事の中にどのように取り入れるかを考える。カルシウムの摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
12	講義：疾患別の栄養ケア - 腎臓・尿路疾患、循環器疾患 -（急性腎臓病、慢性腎臓病、腎不全、透析療法などについて各疾患の概要を理解する。「腎臓病食品交換表」の基本を理解する。脂質異常症、高血圧症、虚血性心疾患、心不全について各疾患の概要を理解する。）					
13	実習：疾患別の栄養ケア - 腎臓病食 -（腎臓病疾患において、特に問題となるたんぱく質、エネルギー、食塩、水分について栄養ケアの実践を考える。腎臓病治療の為に治療用特殊食品を調理実習で使用し、試食することにより体験する。）					
14	講義：疾患別の栄養ケア - 胃・腸疾患、鉄欠乏性貧血 -（胃炎、消化性潰瘍、下痢・便秘、潰瘍性大腸炎・クローン病について各疾患の概要を理解する。鉄欠乏性貧血の概要・診断基準を理解する。）					
15	実習：疾患別の栄養ケア - 鉄欠乏性貧血食 -（鉄含有量の多い食材を使って調理実習を行い、造血機能を高める具体的な栄養ケアを理解する。鉄の摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習レポート評価	60	指定の様式を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考に必ず記載する。調理実習のポイント、感想、盛付図、振り返りなどを記載する。		糖尿病の献立演習	20	糖尿病の栄養ケアについて講義及び実習で学んだことを生かし、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて1日分の献立を立てる。
授業参加状況	20	受講態度、調理実習中の取り組み。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
初回授業において「臨床栄養学実習予定表」を配布するので、テキストにより予習して授業に臨む。[30分] 定期試験を行わず、レポートにより評価するので、レポートを記載する際は、テキスト以外に図書館にある参考書などを参考に自分の覚書でなく、提出することを意識して作成しましょう。[60分] 献立演習は、2週間後までの課題とするので時間をかけてしっかり取り組むこと。[120分]			レポートは3週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 献立演習は4週間以内に添削をして返却する。狙いの理解がみられるまで再提出と添削・返却を繰り返す。 評価やコメント等に関する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	疾患ごとの病態や食事療法の方法を理解し、個々のニーズに合わせた栄養ケアをしっかりと学んでください。 実習はまず出席し、グループの仲間と計画的・能率的に行うことが大切です。積極的に取り組んでください。 提出物は必ず期限を守ってください。 返却されたレポートは保管してください。			教科書・テキスト	「トレーナーガイド 栄養食事療法の実習 第12版」 本田佳子編 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-70792-0) 「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 日本糖尿病学会編 文光堂 2013年 (ISBN:978-4-8306-6046-7)	
指定図書/参考書等	なし/「第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準」黒川清監修 中尾俊之他編 医歯薬出版 2008年 新しい臨床栄養学 改定第6版 後藤昌義ほか著（南江堂）2014年 日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）2014年			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
病院での管理栄養士経験を生かし、調理現場での衛生管理手洗いの実践を実習に導入している。 糖尿病食の展開について実際の病院での献立作成に使えるよう現場での注意点を伝えるようにしている。 実習では実際の病院での一般食から形態調整・特別食への展開を導入している。						

授業科目名	FG100C 栄養指導論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>健康の保持増進、健康寿命の延伸及びQOLの向上のために、食生活をとのえることは重要な役割を担っています。この授業では、対象者の行動変容とその継続につながる指導をするための基礎知識と方法を学びます。</p>				<p>栄養指導の目的と意義を説明できる。 国民の栄養や食事の現状と課題を列挙できる。 栄養指導に必要な基礎知識を習得できている。 栄養マネジメントの手順や方法を説明できる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養指導の概念（栄養指導の意義と目的及び栄養指導における栄養士・管理栄養士の役割を理解する。）						
2	栄養指導の沿革（栄養指導の歴史について理解する。）						
3	栄養指導の沿革（栄養指導や栄養政策の変遷について理解する。時代に合わせた栄養士・管理栄養士のたらしきと今後の展望について理解する。）						
4	栄養指導と関係法規（栄養士法と栄養士制度を理解する。栄養指導に関係する法律を理解する。）						
5	食生活・栄養に関する諸調査（食事調査の方法と種類、活用場面に応じた適切な方法の選択について理解する。）						
6	食生活・栄養に関する諸調査（国民健康・栄養調査の目的、方法、法的根拠について理解する。現在の日本における健康・栄養に関する動向と現状、課題を理解する。）						
7	栄養指導・教育（相談）の方法と技術（栄養教育プログラムの流れを理解する。）						
8	栄養指導・教育（相談）の方法と技術（栄養教育プログラムにおける目標設定及び評価の方法とあり方を理解する。）						
9	栄養指導の実際（指導方法の種類と選択について理解する。教材・媒体の種類と活用方法について理解する。）						
10	栄養指導の実際（栄養カウンセリングの専門用語、技法を理解する。）						
11	栄養指導の実際（行動科学の理論やモデルに基づいた栄養指導の方法を理解する。）						
12	栄養指導に必要な基礎事項（「日本人の食事摂取基準」の概念と活用を理解する。）						
13	栄養指導に必要な基礎事項（日本食品標準成分表、食品群、食生活指針、食事バランスガイドについて理解する。）						
14	栄養指導と情報の収集・処理（情報を評価・識別する能力を養うことの必要性を理解する。）						
15	栄養指導と情報の収集・処理（情報収集の方法を理解する。）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。			提出物	30	授業内容を理解してまとめているか。
授業参加姿勢	10	テキスト等必要なものを準備し、積極的な参加姿勢がみえるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[30分]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦して下さい。			教科書・テキスト	エスカパージック「栄養指導論」第二版 古畑 公・田中 弘之 編著 同文書院 2018年 ISBN 978-4-8103-1460-1 2020年度版「管理栄養士栄養士必修」公益社団法人 日本栄養士会編 第一出版 2020年 ISBN:978-4-8041-1409-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FG200C 栄養指導論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「栄養指導論」に続く、基礎知識や方法の習得と理解のうち、ライフステージ別、ライフスタイル別、特定給食施設別の栄養指導について学びます。また、世界の健康・栄養問題、食糧問題についても学びます。</p>				<p>ライフステージ別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 特定給食施設別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 世界の健康・栄養問題、食糧問題について、基礎知識を習得する。</p>			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ライフステージ別栄養指導 妊娠期、授乳期（妊娠期、授乳期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
2	ライフステージ別栄養指導 乳児期（乳児期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
3	ライフステージ別栄養指導 幼児期（幼児期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
4	ライフステージ別栄養指導 学童期（学童期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
5	ライフステージ別栄養指導 思春期（思春期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
6	ライフステージ別栄養指導 成人期（成人期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
7	ライフステージ別栄養指導 高齢期（高齢期の特徴及び栄養指導の方法やあり方を理解する。）						
8	ライフスタイル別栄養指導（単独生活者、運動実践者などの食生活の特徴を学び栄養指導に役立てる。）						
9	給食における栄養指導 病院（病院給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）						
10	給食における栄養指導 学校（学校給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）						
11	給食における栄養指導 福祉施設（福祉施設の給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）						
12	給食における栄養指導 事業所（事業所給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）						
13	栄養指導の実践（実践例から栄養指導の実際について学ぶ。）						
14	栄養教育の実践（実践例から栄養教育の実際について学ぶ。）						
15	諸外国の栄養状況（世界の栄養・健康問題、食糧問題について理解する。）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	60	ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。		課題提出	30	授業内容を理解しまとめているか。	
授業参加姿勢	10	テキスト等必要なものを準備し、積極的な参加姿勢がみえるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料、ノートを確認しながら理解を深める。[30分]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦して下さい。			教科書・テキスト	エスカパーシク「栄養指導論」第二版 古畑 公、田中 弘之 編著 同文書院 2018年 ISBN 978-4-8103-1460-1 「2020年度版管理栄養士栄養士必修」（公益社団法人 日本栄養士会編 第一出版 2020年 ISBN:978-4-8041-1409-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FG210C 公衆栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	長井 直子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。集団の健康増進・栄養改善に必要な公衆栄養プログラムを展開するために、公衆栄養マネジメントの概念、プログラム計画策定・実施の手法、栄養疫学・栄養アセスメント手法、プログラム評価のための指標・情報収集の方法を学ぶ。また、わが国の栄養政策、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題等も学習する。</p>				<p>地域等の健康・栄養問題に関心が持てるようになる。公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を理解する。わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題、政策について理解する。栄養関係法規を理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	公衆栄養学と関連の深い『公衆衛生学』を履修済み又は受講していることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	公衆栄養学の概念と公衆栄養活動（公衆栄養学とは何か、公衆栄養活動の変遷について理解する）						
2	公衆栄養マネジメント総論（公衆栄養マネジメントとは何かを理解する）						
3	公衆栄養マネジメント各論（公衆栄養アセスメントとは何か、プログラムの計画・目標設定を理解する）						
4	公衆栄養マネジメント各論（プログラムの実施について理解する）						
5	公衆栄養マネジメント各論（プログラムの評価について理解する）						
6	栄養疫学概論（栄養疫学とは何か、食事摂取量の測定方法、栄養疫学の研究方法を理解する）						
7	わが国の栄養問題の現状（健康状態・食生活・食習慣・食環境の移り変わりについて理解する）						
8	わが国の栄養問題の課題（健康状態・食生活・食習慣・食環境の課題について理解する）						
9	わが国の栄養政策（公衆栄養活動の歴史、栄養関係法規を理解する）						
10	わが国の栄養政策（国民健康・栄養調査について理解する）						
11	わが国の栄養政策（健康づくり対策の流れ、ライフステージ別の栄養政策を理解する）						
12	わが国の栄養政策（食品に関する栄養情報提供について理解する）						
13	食事摂取基準の概要（食事摂取基準とは何かその概要を理解する）						
14	食事摂取基準の活用（その活用上の留意点を理解する）						
15	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題と政策（公衆栄養活動や栄養士養成制度を理解する）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。		授業参加意欲	20	授業中の受講態度・読み取り学習の取り組み姿勢が良好か。	
読み取り学習	20	各回に配布する講義内容に関連した新聞記事や資料についてどれだけ読み取れるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回、教科書により予習をして授業に臨む。[30分]          授業後は、教科書・配布資料をよく読み理解を深める。[30分]          日頃から新聞等に目を通し、健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する様々な情報を収集しておく（新聞記事の切り抜き、写し等）。公衆栄養学は、栄養士から管理栄養士をめざす場合にも重要な教科書であるため、関連のある「公衆衛生学」とあわせて理解を深める。[30分]</p>				読み取り学習の提出物は添削・コメントをして全ての回の評価終了後に返却する。			
受講生に望むこと	日頃から健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する情報に敏感になってほしい。			教科書・テキスト	『公衆栄養学』第6版 古畑・松村・鈴木編著 光生館 2018年発行 ISBN 978-4-332-02105-6		
指定図書/参考書等	なし/『国民健康・栄養の現状』国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修 第一出版			その他・特記事項	必要に応じて資料の配布、視聴覚教材の使用あり。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FG220C 栄養指導論実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「栄養指導論」で学ぶ栄養指導の理論や基礎知識を、個人や集団を対象とした現場で実際に活用するための技術・方法を学びます。</p>				<p>自分を対象に、アセスメントの実習を進めることができる。 アセスメントをもとに個別指導の方法を検討できる。 対象者の特性を考慮し、栄養指導の内容を効果的に伝え、対象者の理解を深める媒体を検討できる。 PDCAサイクルを用いた模擬栄養指導を検討できる。</p>			
教授方法	講義と実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 栄養指導論実習の意義を理解する。 基礎演習 栄養価計算（栄養士業務に必要な栄養価計算の方法を復習し、確実にできるようになる。）						
2	基礎演習 食品群と加重平均成分表、食品構成（食品群、加重平均成分表及び食品構成について復習し、理解を深める。）						
3	基礎演習 食事摂取基準（「日本人の食事摂取基準」について復習し、理解を深める。）						
4	基礎演習 食事摂取基準（「日本人の食事摂取基準」を活用した食事評価について復習し、理解を深める。）						
5	アセスメント（実態の把握） 食物摂取状況・生活時間状況・身体状況を調査する。 身体計測に基づく判定・評価、自覚症状による判定・評価ができるようになる。						
6	アセスメント（実態の把握） 食事調査の栄養価計算をし、食事摂取基準、食品群を用いた評価ができるようになる。						
7	アセスメント（実態の把握） 食事調査の結果を、栄養比率や食事バランスガイド等を用いて評価ができるようになる。						
8	アセスメント（実態の把握） 生活時間調査を整理し、結果から消費エネルギー及び身体活動レベルを算出できるようになる。						
9	PDCAサイクルを用いた栄養指導 アセスメント結果より栄養指導計画案を検討できるようになる。						
10	栄養指導の媒体 栄養教育・栄養指導に用いる媒体について理解する。						
11	栄養指導の媒体 手描き媒体の作成を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
12	栄養指導の媒体 作成した媒体の評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
13	栄養指導の媒体 パソコンソフトを利用した媒体作成と評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
14	PDCAサイクルを用いた栄養指導 ライフスタイル別模擬栄養指導の計画と実施を通して、PDCAサイクルを用いた栄養指導の検討ができるようになる。						
15	PDCAサイクルを用いた栄養指導 ライフスタイル別模擬栄養指導の計画と実施を通して、PDCAサイクルを用いた栄養指導の検討ができるようになる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
課題	50	授業内容を理解しまとめているか。		グループ演習	40	お互いに学びと理解を高め合えるような取り組み姿勢が見えるか。	
授業参加姿勢	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
次回までに調べる必要のあることを調べる、授業時間内に仕上がらなかった課題を完成させるなど、次の段階に進むために必要な学習を確実に行って下さい。[30分]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	授業で学んだことを毎日の生活の中で応用することに挑戦してみてください。			教科書・テキスト	「栄養教育・指導実習」関口紀子 編著 建帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0568-6 「日本食品成分表2020七訂本表編」 医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70750-8 「2020年度版 管理栄養士栄養士必携」日本栄養士会 編 第一出版 2020年 ISBN 978-4-8041-1409-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	FC200C 給食実務論(含計画)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
給食とは、特定の人に対し継続的に提供される食事であり、単なる栄養補給のための食事提供ではなく、実際に食べる量・味・盛り付けも栄養教育の媒体であり栄養管理の一環である。特定給食施設での食事は、喫食者の健康の保持増進や疾病をもつ人の治療を目的としている。病院、学校、事業所、福祉施設等の各特定給食施設の対象者の健康保持・増進、心身の健全な発達・発達、疾病の治療・予防などを目的とした給食の計画・実施、評価までの一連の業務内容を学習し、対象者の栄養改善に寄与できる適切な栄養管理を行うための知識を習得する。更に栄養士、管理栄養士の役割を理解するとともに、給食の運営や関連する業務について、具体的方法を修得する。また関係法令や行政指導等についても学ぶ。			特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割について説明できる。 関連法規について理解できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、給食施設での調理従事者の衛生管理や衛生事故の予防と対策が考えられるようになる。 給食施設ごとの給食の目標や特徴、栄養管理の方法を理解することができる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	給食の定義を理解し、給食の意義や歴史と現状を知り、特定給食施設における給食の位置づけについて学ぶ。						
2	栄養・食事管理の目的を理解し、給与栄養目標量の設定、献立計画及び評価について学ぶ。						
3	給食の安全・衛生管理について、具体例をもとに学ぶ。						
4	給食の調理管理として、食材管理について学ぶ。						
5	給食の調理管理として、調理作業管理について学ぶ。						
6	給食の施設・設備管理として、給食施設内のいろいろな設備について学ぶ。						
7	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、学校給食について理解する。						
8	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、病院給食について理解する。						
9	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、児童福祉施設・保育所給食について理解する。						
10	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、高齢者福祉施設給食について理解する。						
11	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、事業所給食、その他の給食について理解する。						
12	給食の組織と機能におけるPDCAサイクルの理解と連携及び人事・労務管理を学ぶ。						
13	給食の会計・原価管理の目的を知り、原価構成や財務諸表について学ぶ。						
14	給食の情報処理管理として事務管理の実践について学ぶ。						
15	給食の業務委託と配食サービスについて学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
単位認定試験	70	栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	20	課題のねらいを理解して記載されているか。また、期日までに提出することを評価する。		
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習してください。[30分] 関連科目とリンクさせ、主体的に学ぶことが大切です。とくに、課題の取り組みでは、図書館を利用して知識を定着させる努力をしてください。[60分]			授業に関する質問には随時応じます。				
受講生に望むこと	校外実習にも生かせるように、基本的なことはしっかり理解できるように努力してください。		教科書・テキスト	『給食の運営－栄養管理・経営管理－』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典』日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 2020年度版 第一出版 ISBN:978-4-8041-1409-5			
指定図書/参考書等	なし/『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-065-14066-6 『日本人の食事摂取基準 [2015年版]』第一出版 『食事療養のための食品交換表 第7版』日本糖尿病学会編		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FC100C 調理学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとするれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画、食材調達、調理操作、供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、調理の概念、美味論、調理操作論、各食品の調理特性、調理器具について理解をすることができる。			調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 おいしいとはどういうことを科学的に理解する。 調理の課程と其中的調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 調理に必要な機器や設備を理解する。 食品毎の調理性を理解する。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。					
2	調理操作論 - 非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。					
3	調理操作論 - 加熱操作（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。					
4	調理操作論 - 加熱操作（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」「炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。					
5	食べ物のおいしさ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。					
6	食べ物のおいしさ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。					
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化の過程や意義を理解する。					
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。					
9	食品の調理性（芋類、豆類）：じゃがいも、さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。					
10	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。					
11	食品の調理性（野菜類、果実類）、調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。					
12	食品の調理性（獣肉肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。					
13	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。					
14	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。					
15	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率		課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する。 毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 日常生活の中で、調理に関心を持つ。 [毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。			教科書・テキスト	『新 調理学』下村道子・和田淑子編著 光生館 ISBN：978-4-8041-1409-5	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	FC110C 調理学実習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
調理は献立立案から始まり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛りつけし、喫食することまでが対象となる。この授業では、基礎的な調理技術(煮る、焼く、揚げるなどの加熱操作や計量、混合・攪拌などの非加熱操作)の理解と習得を目標に、日本調理様式より、出し・炊飯等よりはじめ、代表的な料理を取り上げて実習を進める。また、基礎的な調理学実験(卵の加熱、ゲル化素材の調理、小麦粉の調理、揚げ物の仕組み等)も組み入れ、理論と実際に起きる現象を確かなものとする。			基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 基本的な切り方などは、一定の水準に達すること(適切な速度で正しい包丁の使い方が出来る)。 日常的に利用する食材の扱い方を習得する。 基礎的な保存食品の調理技術を習得する。 理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	日本調理の概要：日本料理の特徴、歴史等を理解する。調理実習を始めるにあたり調理の基本操作を学ぶ。					新澤
2	炊飯、清汁(混合だし)、浸し：炊飯とその理論、出汁のとり方、緑黄色野菜の茹で方を学ぶ。					新澤
3	味付け飯、煮物、漬物、米粉の調理：味付け飯の調味比率と留意点、煮物の留意点、漬け物の原理、米粉調理のうち、もち米粉の調理を学ぶ。					中村
4	味付け飯、酢の物(二杯酢)、煮物、味噌汁：かやくご飯の副材料の使い方、酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調味比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。					中村
5	煮魚、酢の物(三杯酢)、米粉の調理他：煮魚の方法(煮汁の調味割合など)、三杯酢の調味、うるち米粉の調理を学ぶ。					中村
6	煮魚、酢の物(酢味噌和え)、潮汁：魚の調理(三枚おろし)、魚の酢締めの方法と理論、魚介類の旨味について理解する。					新澤
7	揚げ物調理、漬け物：天ぷらなどの調理をとおして、揚げ物の理論を理解し、調理方法を学ぶ。					中村
8	蒸しもの調理、寄せもの(寒天)：赤飯、茶碗蒸しの調理をとおして、蒸し物の原理と材料による差異を理解する。また、ゲル化材料としての寒天の調理法を理解する。					中村
9	焼き物調理、寄せもの(寒天)、めん類、保存食の調理：魚の姿焼きと鍋焼きにより、焼き物料理の特徴と直接焼き、間接焼きの差異を学ぶ。また、寒天の凝固温度の理解と、麺類の扱い方を学ぶ。保存食として梅干しの調理法を学ぶ。(1)					新澤
10	すし、寄せもの(でんぷん)：すし飯の調理を学び、でんぷんの糊化調理を理解する。					中村
11	エコクッキング、保存食の調理：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。保存食としての梅干しの調理法を学ぶ。(2)					中村
12	調理学実験 1：鶏卵の熱凝固を理解する。寒天の凝固に及ぼす要因を理解する。					新澤
13	調理学実験 2：揚げ物における油の吸収率の計算方法や、ルーの特徴を理解する。					新澤
14	調理学実験 3：小麦粉の膨化を理解する。					新澤
15	調理の基本と切り方：切戻の技術を習得するため、基本切りの実際について理解を深める。					中村
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	基本的な切り方テスト等の試験結果
課題レポート	30	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 常に計量する習慣をつける。(料理に使う材料の重量を把握できるようにする。) 授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	授業前にテキストを読んでくる。 失敗を恐れず授業内容に取り組む。 自分自身の体調管理を行う。 日常的に調理に携わる。			教科書・テキスト	日本調理テキスト	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FC120C 調理学実習B			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、西洋料理、中国料理の中から代表的な料理を取り上げ、日本調理様式と比較しながら、各料理の特性や調理法、食材の扱いなどを学ぶ。また、切碎などの基本的な操作技術が会得できるよう、その技術の理論やコツの習得を目指す。実習は、デモンストレーション、調理、評価、試食、後片付けという流れで行う。				基礎的な調理技術を習得する。 衛生面、安全面を考慮し、食材を適切に扱うことができる。 西洋調理様式、中国調理様式の特徴を理解する。 グループ実習でコミュニケーション能力や積極性を身につける。			
教授方法	講義、実習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義：西洋料理、中国料理の概要、調理の基本操作（計量、調理、調理器具、調味、切り方の基本について理解する。）						依
2	実習：野菜の切り方、マヨネーズ、フーズマルキーズ（基本切り、卵黄の乳化性、生クリームの泡立ての要点について学ぶ。）						依
3	実習：サンドイッチ、ヨーグルトゼリー、紅茶（サンドイッチの要点、ゼラチンの調理性、紅茶の入れ方について学ぶ。）						依
4	実習：鮭のベシャメルソースがけ、マセドアンサラダ、ブラマンジェ（魚の蒸し物、ルーとソースの作り方、でんぷんの糊化について学ぶ。）						依
5	実習：トマトソース、スコッチエッグ、イカのマリネ（基本のソース揚げ物の要点、イカの扱い方について学ぶ。）						依
6	実習：ブラウンソース、ハンバーグ、コーンポタージュ、サラダ（基本のソース、挽肉の調理、ポタージュの要点について学ぶ。）						依
7	実習：ジャム、パン（果実類の加工、パン生地膨化について学ぶ。）						依
8	実習：エビフライ、ミネストロンスープ、パバロア（エビの扱い方、フライの材料と役割、トマトの調理について学ぶ。）						依
9	実習：コンソメスープ、鯖のパピヨット、オムレツ（魚の三枚おろし、コンソメ、オムレツの要点について学ぶ。）						依
10	実習：拌菜、炒菜、溜菜、点心（中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。）						依
11	実習：炒菜、溜菜、烩菜、点心（中国料理の薄く煮料理について学ぶ。）						依
12	実習：炒菜、焼菜、点心（中国料理の煮しめ料理について学ぶ。）						依
13	実習：煎菜、炸菜、炒菜（中国料理の油焼き料理について学ぶ。）						依
14	実習：湯菜、拌菜、点心（中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。）						依
15	実習：ポークソテーハワイアン、マカロニグラタン、ヨーグルトサラダ（ルーを用いた調理について学ぶ。）						依
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況			実技試験	40	加熱調理（炒飯）の試験結果
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] 実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]				実習記録は学期内にコメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 失敗を恐れず、積極的に実習に取り組む。 家庭でできるだけ調理を行う。			教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FC130C 調理学実習C		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、日本調理様式の料理を中心とし基礎的調理より応用的、食文化的視点により展開し、郷土食、行事食、供応食などを中心に、実習を進めていく。郷土食では、石川県の食材や代表的な郷土料理を、行事食としてはおせち料理や祭礼料理を、供応食では会席料理の献立形式にそって実習をすすめ、これらへの関心・理解を深めたい。また、漬物などの加工的調理も実習する。さらに、美味しさに関する実験により、理論的な理解に繋げる。			基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。多様な調理器具の使い方を会得する。日常的に利用する食材に加え、特殊食材の扱い方を習得する。日本料理の献立形式を理解する。郷土料理を知り、その調理法を習得する。日本の食文化を理解する。理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	調理学実験 4：味の評価方法を理解する（官能検査により）。					新澤
2	味付け飯、煮物他：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。					中村
3	味付け飯、田楽他：季節の食材の利用と合理的な調理方法を学ぶ。					中村
4	雑炊、刺身他：雑炊の調理を学び、鯛の様々な調理を学ぶ。					中村
5	刺身、粕汁、和菓子：さしみの基本を学ぶ。小麦粉の 膨化の調理を学ぶ。					中村
6	郷土料理 1：祭礼の献立を学ぶ。押しずし、えびすなど 当地の郷土料理の理解をする。					新澤
7	郷土料理 2：郷土食の内、特に、じぶ煮や鯛のから蒸しなどの供応食の調理を学ぶ。					新澤
8	郷土料理 3：いわしの団子汁、イカめしなど総菜的な郷土食を学ぶ。					新澤
9	青果物の調理の基本：特に地場産の農産物などを取り上げた調理を学ぶ。					新澤
10	正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。					中村
11	日本料理の献立形式と伝統的保存食：我が国の供応食から日常食まで の献立形式を理解する。伝統的な保存食を学ぶ。					新澤
12	鍋料理：鍋料理（寄せ鍋）の特徴と調理法を学ぶ。					中村
13	会席献立 1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
14	会席献立 2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
15	魚の調理の基本：魚の調理技術を習得する。					中村
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	40	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	加熱調理（だし巻き卵）の試験結果
課題レポートまたは筆記試験	40	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。常に計量する習慣をつける。（料理に使う材料の重量を把握できるようにする）授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	授業前にテキストを読んてくる。失敗を恐れず授業内容に取り組む。自分自身の体調管理を行う。日常的に調理に携わる。			教科書・テキスト	日本調理テキスト	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FC140C 調理学実習D		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 万里子・中村 喜代美 (代表教員 依 万里子)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、西洋調理・中国調理様式の料理を中心とし、基礎的調理より行事食・供応食などへ応用的に展開する。行事食ではクリスマス料理などを、また、欧風の供応形式として正餐コースを取り上げる。中国調理では大菜と点心の特徴を学ぶ。さらに魚介類の取扱など多少難易度の高い調理操作なども会得できるよう実習を進める。			基本的な調理技術をもとに、より実践的な技術を習得する。行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得する。			
教授方法	実習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習：クラムチャウダー、ポークピカタ、オレンジドロップクッキー（貝の調理、豚肉の調理、ピカタの要点について学ぶ。）					依
2	実習：エビピラフ、ロールキャベツ、フルーツサラダ（ピラフ、ロールキャベツの調理の要点について学ぶ。）					依
3	実習：ミートソース、フリッター、シェフサラダ（日本の天ぷらとの違いを理解する。）					依
4	実習：豚肉のロベール、グリーンサラダ、アップルパイ（パイ生地の膨化について学ぶ。）					中村
5	実習：シーチキンパゲティ、クレープ、ポーチドエッグサラダ（卵調理の要点について学ぶ。）					中村
6	実習：ビーフカレー、スクランブルエッグ、コンビネーションサラダ（カレーのルーについて学ぶ。）					依
7	実習：ボルシチ、カニのコキール、レアチーズケーキ（ロシア料理を作り、体験する。）					中村
8	実習：若鶏のクリーム煮、ピーマンの肉詰め、シュークリーム（シューの膨化について学ぶ。）					依
9	実習：ビーフシチュー、クリームコロッケ、バナナケーキ（牛肉の部位と調理について学ぶ。）					中村
10	実習：鰻のムニエル、ワルドルフサラダ、トリュフ（鰻の三枚おろし、ムニエルの要点について学ぶ。）					依
11	実習：オードブル、鶏のチーズ焼き（クリスマスメニューを作り、演出を学ぶ。）					中村
12	実習：デコレーションケーキ（スポンジケーキの膨化について学ぶ。各自デコレーションを工夫する。）					中村
13	実習：溜菜、拷菜、拌菜、点心（中国料理の直火焼き料理について学ぶ。）					中村
14	実習：正餐コース前半（正餐のテーブルセットとマナーについて学ぶ。）					依
15	実習：正餐コース後半（ステーキの焼成の要点について学ぶ。）					依
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況		実技試験	40	魚の調理（3枚おろし含む）の試験結果
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] 実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]			レポートは学期内にコメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。段取りよく調理ができるように、作業手順を工夫する。実習で行った料理を家庭でも作り、技術の向上を目指す。		教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FC160C 給食管理実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識の習得を目的とする。特定給食施設について理解し、その栄養管理として、給食栄養目標量、食品構成および献立計画等について演習する。また、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食施設の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことをねらいとし、大量調理の実習を行う。講義で学んだ知識をもとに、給食対象者に満足してもらえぬ食事を提供することを学ぶ。講義・演習以外はクラスをグループに分けて実習を行う。				特定給食施設について説明できる。 食事摂取基準を使って給食栄養目標量を設定することができる。 食品構成をもとに献立を考えることができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理の重要性が理解できる。 実習においてコミュニケーションの必要性が理解できる。 献立管理ソフトを使って献立作成ができる。			
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法、栄養計算ソフト（エクセル栄養君）の操作を学ぶ。						
2	大量調理における切り方の練習、機器の取り扱いについて学ぶ。						
3	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
4	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
5	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
6	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
7	実習献立の栄養出納表を作成・評価し、献立作成の演習をする。						
8	1回目の実習を振り返り、作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP）、諸帳票類（栄養出納表ほか）について再確認する。						
9	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
10	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
11	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
12	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
13	厨房機器（スチームコンベクションの使い方）及び新調理システムを学ぶ。						
14	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。2回目の実習の振り返りをする。						
15	嗜好調査、残量調査について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	60	筆記試験で、到達目標に応じた内容が把握できているかを評価する。			献立作成演習・実習	15	献立作成における栄養評価、実習時における挨拶、身なり、ルールを守るなど基本的な態度を評価する。
課題	15	学んだ内容が実習報告書やレポートに丁寧に記載されているかを評価する。			授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
食材の出回り時期や価格について日頃から関心を持ってください。 食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力してください。〔20分〕 大量調理では、食材を早くはきい切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように練習してください。 〔120分〕 実習前の準備や持ち物の確認をしてください。 実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載してください。〔20分〕				実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却します。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	授業中（実習も含む）の私語は慎んでください。調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。実習時は、持ち物を確認して忘れ物をせずに出席してください。食事や睡眠を意識して体調管理を心がけてください。			教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著（株）みらい ISBN978-4-86015-3434 『給食経営管理用語辞典（第2版）』日本給食経営管理学会監修 第二出版 ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必修 2019年度版』日本栄養士会第一出版 ISBN978-4-8041-1409-5		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準〔2015年版〕 第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	FC210C 給食管理実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
給食管理実習 で学んだ知識をもとに計画(plan)、実施(do)、検討(check)、修正のための実行(action)のPDCAサイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供できるように、自主的に実習する。給食の運営管理の理論を実践し、給食施設の栄養士業務の計画、実施、評価を体得し、給食施設を管理するための技能と栄養士の役割について学習することを目的とする。講義・演習以外は、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。				給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、その実践力を身につけることができる。			
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	献立計画(対象別献立作成)を行う。						
2	調理作業計画: 栄養管理(実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ)を理解する。						
3	調理作業計画: 食材管理(食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理)を理解する。						
4	目標: 食数管理(発注作業など)、栄養指導媒体作成を行う。						
5	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
6	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
7	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
8	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
9	目標: 評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。						
10	食数管理(発注作業など)、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。						
11	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
12	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
13	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
14	計画に基づく大量調理実習(検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
15	振り返り、まとめを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
単位認定試験	60	試験形式で、栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。		献立作成演習・実習	15	献立作成における栄養評価の確認、実習時における挨拶、身なりなどの基本的な態度と積極性を評価する。	
課題	15	学んだ内容が実習報告書やレポートに的確に記載されているかを評価する。		授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。[30分] 媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。[60分] 実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に見やすく書いてください。[30分] 実習前の準備や持ち物の確認をしてください。				実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	グループ作業が多いため役割分担するので、常に協力して行う姿勢で取り組んでください。 実習中の私語は慎んでください。 調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。 食事や睡眠を意識して体調管理をしてください。 実習時は、持ち物を確認して出席してください。			教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著 (株)みらい ISBN978-4-86015-343-4 『給食の運営-栄養管理・経営管理-』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典(第2版)』日本給食経営管理学会監修 第二出版 ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必携 2020年度版』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1409-5		
指定図書/参考書等	なし/『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-065-14066-6 日本人の食事摂取基準[2015年版] 第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							



授業科目名	FC150C 食事計画実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・田中 弘美・依 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養士業務の基本となる食事計画の基礎実践力を養うことを目標とする。この授業は、養成課程入学初期の学科目として授業を進める。まず、献立作成のために、食事摂取基準や食品成分表の基本的理解からはじめ、必要栄養量の設定や栄養価計算の基本技術の会得を目指し、さらに日常食の評価などにより、食事計画の基礎を学ぶ。特に、成人期の日常食を中心に献立作成から、調理へ実習を進めてその評価を行い、これをもとに、ライフステージを拡大しての食事計画へ進めたい。</p>			<p>食事計画の意義と手順を理解できる。 食品成分表を用いて栄養価計算ができる。 必要栄養量を算出できる。 必要栄養量より食品構成を作成できる。 献立作成に必要な調理に必要な食品やその使用目安量を把握できる。 献立作成に必要とする調理に必要な食品やその使用目安量を把握できる。 日常食の評価ができる。 1日分から連続した数日分の献立作成を食品構成に基づいて作成できる。</p>			
教授方法	演習（献立作成等） 実習（調理） 講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食事計画実習の内容と意義：食事計画の意義とその手順を学修する。併せて、計算機の操作法も習得する。					全員
2	食品成分表と使い方：食品成分表について学修し、その活用方法を理解する。					全員
3	食品成分表と使い方：モデル献立の栄養価計算をすることにより、食品成分表の使い方を会得する。					全員
4	食品の目安量：食品の目安量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ。					全員
5	食品成分表の使い方の復習 食事記録の方法を学ぶ。					全員
6	食事の評価：自身の食事内容を記録し、摂取栄養量の算出ができるよう数量化する技術を学ぶ。					全員
7	食事の評価：食事記録より栄養価計算により、栄養量を算出する技術を学ぶ。					全員
8	栄養必要量の算定：性、年齢、活動量などをふまえて個人の必要な栄養量の算定方法を学ぶ。					全員
9	食事の評価：自身の必要栄養量を算出し、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。					全員
10	食事の評価：自身の必要栄養量を算出し、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。					全員
11	献立作成の基本と献立構成：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。					全員
12	献立作成の基本と献立構成：1食分の献立の作成方法を学ぶ。					全員
13	基本献立の作成1：1食分の献立を考える。					全員
14	基本献立の作成2：1食分×16回分の献立を考える。					全員
15	基本献立の作成2：献立の評価をする。（栄養価計算）					全員
16	応用献立作成：1日分の献立を作成する。					全員
17	調理実習献立の作成：献立（1日分）作成を行い、調理実習のための食事を選ぶ。					全員
18	調理実習献立の作成：選んだ献立の栄養価計算と評価をする。					全員
19	調理実習献立の作成：献立より、料理のレシピを作成する。					全員
20	調理実習献立の作成：献立、レシピに沿って、食品の購入計画を立てる技術を学ぶ。					全員
21	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。					全員
22	献立作成から調理実習の反省とまとめを行い、その結果を発表し、意見交換する。					全員
23						
24						
25						
26						
27						
28						

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29					
30					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各テーマにおける課題やレポート	90	授業内容の目的に応じて適切に作成されているか 質的量的に適切である 指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
家庭における食事の際、使用される食品、そこからできる料理に留意する。 様々な場面で提供される食事の内容に関心を持ち、記録する。 毎回の課題の整理。[ 毎回30分 ]			レポートは返却する。		
受講生に望むこと	各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 授業中は説明を良く聞き、課題等にはきちんと取り組む。		教科書・テキスト	『日本食品成分表2020七訂本表編』 医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70750-8 『調理のためのベーシックデータ』第5版 松本伸子監修 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0323-5	
指定図書/参考書等	なし/「栄養教育・指導演習」関口紀子 編著 建帛社 「管理栄養士・栄養士必携」日本栄養士会 第一出版 「日本調理」実習テキスト「西洋調理」実習テキスト「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」山崎清子他著 同文書院		その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	FC220C 校外実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 田中 弘美)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
医療施設・福祉施設・学校などの特定給食施設において、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として必要な知識及び技能を習得することが目的である。特定給食施設の実際を通して、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術・概要について理解するとともに給食の実務等を習得することをねらいとする。			栄養士免許取得のために必要な専門科目の授業・実習で学んだ知識技術を再認識できる。 実際の現場で学んだ貴重な体験から課題を見つけ、今後の学習意欲に結びつけることができる。			
教授方法	講義及び実習					
履修条件	「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習前の指導：実習に向けての心得について確認する。					田中
2	実習先：施設別給食組織の概要と特徴を理解する。					担当栄養士
3	実習先：施設別献立及び給与栄養目標量の算出について理解する。					担当栄養士
4	実習先：オーダーリングシステムを理解する。					担当栄養士
5	実習先：給食の食数管理を理解する。					担当栄養士
6	実習先：食材料管理を理解する。					担当栄養士
7	実習先：大量調理について理解する。					担当栄養士
8	実習先：機械、機具の取り扱いについて理解する。					担当栄養士
9	実習先：衛生管理について理解する。					担当栄養士
10	実習先：給食関係諸報告書等の作成について理解する。					担当栄養士
11	実習先：対象者に対する栄養教育及び栄養相談について理解する。					担当栄養士
12	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計する。					担当栄養士
13	実習先：対象者の栄養アセスメント・ケアプランを理解する。					担当栄養士
14	反省とまとめ					全員
15	実習報告会					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
実習先からの評価	65	担当栄養士による評価となる。	報告会の準備・発表	15	報告会の準備を積極的に行ったか、実習における反省を活かし、今後の課題を見つけ、社会に貢献しようとしているか。	
事前レポート及び準備	10	取り組み姿勢(事前訪問も含む)。	報告書の提出	10	実習後の整理がきちんとできているか(実習先へのお礼状を含む)。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
1年次に履修済みの栄養士免許取得に必要な科目の復習を十分行ってください。[120分] 図書館などを利用して疑問点を解決できるように努力してください。[60分]			課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後再提出、返却を繰り返します。 校外実習に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生としての立場を忘れず意欲的に取り組んでください。</li> <li>・事前訪問で指示されたことはきちんと守ってください。</li> <li>・包丁がうまく使えるように努力してください。</li> </ul>		教科書・テキスト	<small>『臨地・校外実習のてびき』木戸詔子・福井富穂編 ISBN978-4-7598-1195-7  『給食の運営-栄養管理・経営管理-』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0611-9  『給食経営管理用語辞典』日本経営管理学会 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0  『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1409-5</small>		
指定図書/参考書等	『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-06-14066-6 /日本人の食事摂取基準[2010年版] 第一出版 食事療養のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編		その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等に問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されません。実習先の栄養士による評価が「不可」の場合は、単位認定されません。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	FS200C 食品の消費と流通			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
食は人間の生命維持に不可欠であり、食料の安定供給は、我々の日常生活においては重要な課題である。今日、様々な技術の進歩により、食料の生産から消費者に至るまでの流通過程は拡大し、一方で、社会環境、生活環境の変化に伴い、消費者の食生活は大きく変容している。現在の我が国における食品の流通構造を理解し、そこからもたらされる様々な課題を考える。				今日の食市場を理解する。 食品の生産から消費者に至る流通過程を理解する。 外食・中食産業を理解する。 フードマーケティングの考え方を理解する。 食料消費に関わる問題を理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食市場の変化1：現代の食生活を支える食市場の概況を理解する。						
2	食市場の変化2：食品消費の変化と食生活の多様化を検証する。						
3	卸売流通の役割とそのシステム、さらに中央卸売市場の仕組みを理解する						
4	様々な小売り流通の形態を理解する						
5	外食・中食産業のマーチャングデザインを理解する						
6	商品の分類における食品の位置づけを理解する						
7	個々の主要食品（米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類、食肉）の流通を理解する						
8	個々の主要食品（鶏卵、乳・乳製品、大豆加工品、漬物、佃煮）の流通を理解する						
9	個々の主要食品（食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒー、清涼飲料水、酒類）の流通を理解する						
10	フードビジネスとフードマーケティングを理解する						
11	食料消費における環境問題を理解する						
12	食品流通の安全確保の仕組みを理解する						
13	食料の需給と農業・農業の特質や世界の食糧事情、地球環境と農業の仕組みを理解する						
14	食料自給率を含め、我が国の食品流通の課題を考える						
15	これからの食品の消費・流通の在り方考える						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	記述式として記載内容の適切度を評価する			授業参加	30	毎授業への取組姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストにより、事前に学習内容の把握をする 授業内容をまとめる [各30分]				毎回の小テストは次の授業で返却・解答			
受講生に望むこと	資格試験科目の授業として、テキストの内容を確実に理解し、修得すること 様々な統計資料などに関心を持つこと			教科書・テキスト	『三訂食品の流通と消費』日本フードスペシャリスト協会 建帛社 ISDN：978-4-7679-0538-9 C3077		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FS210C フードコーディネート論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の「食」の営みの環境は流動的に変化しており、それに対応するためにもフードビジネスの担い手となるフードスペシャリストが期待される。フードコーディネート論では、食文化、調理文化、礼儀作法を始め、食に関連したコーディネートの基本知識を学び、消費者の視点に立った快適な食全般を提供できることをねらいとする。				授業を通して、食に関するコーディネートに必要な知識の習得と実践力を身につけることができるようになる。 食生活の諸問題を広い視野に立って考え、問題解決に向けて活動できるようになる。			
教授方法	テキスト及び配布資料による講義。DVD 視聴もある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	五感によってとらえられる生理的なおいしさ、その他、おいしさに及ぼす影響、おいしさの本質を理解し、ホスピタリティやアメニティについて学び、フードコーディネートの基本理念であるもてなしの心について理解する。						
2	食事とは何かを概観したうえで、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶことを通して、人間の食事は単に生命維持のためばかりではなく、文化的社会的に大きな役割を担うものであることを理解する。						
3	世界の国々の食事の特徴や進行しつつある食のフュージョン（融合）やスローフード運動などのついて考え、日本人の食事がどのように変化しながら現代に至ったかを理解する。						
4	日本料理、中国料理、西洋料理について、各料理様式の基本的な食器・食具などのテーブルウェアと食卓のコーディネート（テーブルコーディネート）を理解する。						
5	食卓のコーディネートでは、6W3H にふさわしい食事・料理形式に適した食卓のスタイルを構成することを理解する。また、食器・食具の配置（テーブルセッティング）については、国によってそれぞれの決まりごとがあるので、それらの基本知識を身につける。						
6	食卓におけるホスピタリティの精神の重要性及びサービスとマナーについての基本理念と学び、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
7	第 6 回に引き続き、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
8	ディナーとブッフェ形式およびワインについてやパーティの種類とパーティプランニングの基本事項を理解する。						
9	献立と献立を構成する料理内容の企画立案であるメニュープランニングの目的を学び、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
10	第 9 回に引き続き、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
11	食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネートを理解する。						
12	食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネートを理解する。						
13	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本についての概要を理解したうえで、フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、コンセプトの作成について理解する。						
14	フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐売上高の算出などを事例を通して理解する。						
15	実践現場における食企画の基本的な流れと企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	70	試験形式で、フードスペシャリストに必要な知識が理解できているかを評価する。			レポート課題	20	テキストの内容に応じた課題に対する取り組みを評価する。
授業参加態度	10	授業の態度や姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分] フードサービスが身近に感じるデパートなどの食品売場を題材にしてレポート課題に取り組むときは、自分の目で見たり聞いたり調べたりしてください。[30分] 図書館を利用し、教養を身につけ視野を広げる努力をしてください。[60分]				授業に関する確認問題を行い、次回に返却します。 質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	毎日の生活に活かすことのできる内容ですから、自分の生活に取り入れてください。 興味を持ったことを図書館を利用して積極的に調べるなど、知識を広げていく努力をしてください。			教科書・テキスト	『三訂 フードコーディネート論』（社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2012年 ISBN978-4-7679-0440-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	FS100C フードスペシャリスト論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>フードスペシャリスト論では、フードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用について理解する。また、他の科目の殆ど扱われてはいない項目でも、フードスペシャリストとして備えるべき知識をとして身につけてもらいたい。本講では、食文化とその変遷、食品産業、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護制度などについて社会的、歴史的な背景も含めて幅広く理解を深め、同時に学んだ知識を使いこなす能力を養う。</p>				<p>本講では、フードスペシャリストが学ぶべき専門科目の概要についての理解とフードスペシャリストが持つべき基礎知識や考え方を身につけることを目標とする。</p>			
教授方法	テキスト及び配布資料を使った講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フードスペシャリストの概念、業務、活躍分野などについて理解し、フードスペシャリスト資格を活かした仕事に対する自覚と責任を理解する。						
2	フードスペシャリストの養成と資格に関する制度を理解する。健全な食産業への貢献を実践するための知識や考え方を習得する。						
3	フードスペシャリストが食育を実践するために必要な知識や考え方を習得する。						
4	健康と快適な食生活、食育、健全な食産業ならびに地球環境改善に貢献するためにフードスペシャリストが果たす役割について学習する。						
5	人類の食物史、食品加工保存技術に関するこれまでの歴史を理解する。						
6	フードスペシャリストとして、グローバル化の現代にも対応できるように世界の食事情について、世界各地の食作法、宗教による食にまつわる禁忌、よく食べられる食材や重要な食糧について学習する。						
7	日本人の食生活の変遷や「新しい食」の起源を理解する。また、気候や風土によって食文化は大きく異なることや、伝統食、伝統野菜、独特の調味料など、それらの特色を学習する。						
8	戦後から現在における食生活の変化や現在の日本における食生活の特徴や消費生活、食糧自給、環境と食との関わりなどを理解し、現代や将来の日本に適した食生活について考える。						
9	外食産業、食品流通、食品製造業などの食品に関わる産業の社会的役割を理解する。						
10	食品の品質規格や表示に関わる制度、JAS（日本農林規格）の規格、表示について理解する。						
11	食品衛生法による規格とそれに基づく表示について理解する。健康増進法の制度や規格・表示について理解する。また、Codex 規格について、日本における食品の規格や表示制度などとの関連を中心に理解する。						
12	食品の安全について、食品添加物の安全基準、表示、添加物に使用される物質の特徴について理解する。消費者保護制度について理解する。						
13	食品情報の管理、食情報の有効利用について考える。また、食情報の氾濫による危険性を理解する。						
14	フードスペシャリスト資格認定試験に関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の内容について理解を確実にする(1)。						
15	フードスペシャリスト資格認定試験関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の理解を深めていく(2)。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	80	レポートは授業内容項目より、出題し理解度により評価する。		受講態度	20	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業後はテキストを読み、内容の確認と理解をする。[30分]また、授業内容と関連する認定試験過去問題を行うことで知識の定着や理解が確実になる。食文化や食に関する問題や事件に関する新聞記事や食産業の業界紙、雑誌などに触れることも授業内容の理解を深めることに役立つ。[30分]</p>				<p>特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。</p>			
受講生に望むこと	本科目の理解が他の科目の理解の助けになります。またその逆もありませんので、他の科目の内容との関連についても考えながら授業に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	『四訂 フードスペシャリスト論 [第3版]』（公社）日本フードスペシャリスト協会 編 健帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0573-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	FS220C 官能評価・鑑別論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	三田 陽子					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>食品評価の方法には理化学的測定（化学的・物理的）によるものと官能評価がある。現代の食環境は多種多様な食品が流通しており、食品を適切に評価するための知識や技能も多岐にわたっている。この授業では、食の専門家として適切な食品選択が出来るように、食品の評価の中でも官能評価、化学的評価、物理的評価を学ぶ。さらに各食品ごとの鑑別法について理解を深める。</p>			<p>官能評価の特徴と方法について理解している。 食品を評価するための基準や指標がわかる。 食生活の様々な場面において、適切な評価の方法をあてはめて考えることができる。 消費者の食品選択において、適切な助言をするための基礎知識を習得している。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品の品質とは：食品の特性と品質について理解する。					
2	官能評価とは：官能評価の意義と問題点について理解する。					
3	官能評価の実施法：官能評価を実施する際の、パネル構成、試験の管理、手法の選択などを理解する。					
4	官能評価の手法（演習）：2点比較法（クッキー、紅茶）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
5	官能評価の手法（演習）：3点比較法（りんごジュース）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
6	官能評価の手法（演習）-1：評点法（チョコレート）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
7	官能評価の手法（演習）-2：実験結果から平均値と標準偏差を求め、評点法の解析方法について理解を深める。					
8	官能評価の手法（演習）-3：分散分析を行い、評点法の解析方法について理解を深める。					
9	化学的評価：食品の品質としての水分と色を学び、食品成分と品質との関係について理解する。					
10	化学的評価：食品の精度及び酸度や魚の鮮度、油脂の変敗度を学び、食品の品質を化学的に評価する方法を理解する。また、近年登場した新しい評価法を学ぶ。					
11	物理的評価：食品の物理的な状態について理解する。					
12	物理的評価：食品のレオロジー、テクスチャーについて理解する。					
13	まとめ：官能評価を総合的に理解する。					
14	まとめ：化学的評価、物理的評価を総合的に理解する。					
15	個別食品の鑑別法（米）：米の品質評価について理解する。					
16	個別食品の鑑別法（麦）：麦類の品質評価について理解する。					
17	個別食品の鑑別法（トウモロコシ、雑穀、イモ類）：トウモロコシ、雑穀、イモ類の品質評価について理解する。					
18	個別食品の鑑別法（豆類、種実類）：豆類、種実類の品質評価について理解する。					
19	個別食品の鑑別法（野菜類、キノコ類）：野菜類、キノコ類の品質評価について理解する。					
20	個別食品の鑑別法（果実類、海藻類）：果実類、海藻類の品質評価について理解する。					
21	個別食品の鑑別法（魚介類）：魚介類の品質評価について理解する。					
22	個別食品の鑑別法（肉類、卵とその加工品）：肉類、卵とその加工品の品質評価について理解する。					
23	個別食品の鑑別法（乳と乳製品）：乳と乳製品の品質評価について理解する。					
24	個別食品の鑑別法（油脂類、菓子類）：油脂類、菓子類の品質評価について理解する。					
25	個別食品の鑑別法（酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料）：酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料の品質評価について理解する。					
26	個別食品の鑑別法（醸造食品、調味料、香辛料）：醸造食品、調味料、香辛料の品質評価について理解する。					
27	個別食品の鑑別法（その他食品）：インスタント食品、機能性食品などの品質評価を理解する。					
28	まとめ 個別食品の鑑別について総合的に理解する。					

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	まとめ フードスペシャリスト業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
30	まとめ 栄養士業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	40	官能評価、化学的評価、物理的評価、食品の鑑別についての理解度	実験レポート	20	実験の内容を理解しまとめているか
課題	30	授業の内容を理解しまとめているか	授業参加態度	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
予習：教科書を読み、重要語句を整理する。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[20分]			提出されたレポートや課題は確認作業が終わり次第返却する。課題によっては返却しないものもある。		
受講生に望むこと	日常生活の中で、食品の品質に関心を持ち、授業で学んだことを応用することに挑戦して下さい。		教科書・テキスト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2018年 ISBN：978-4-7679-0506-8	
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					



授業科目名	FT150C 日本国憲法		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	土屋 仁美					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習します。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につけることを目的とします。</p>			<p>憲法の役割と機能を理解する。 憲法の基本的な知識や論点を理解する。 個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。</p>			
教授方法	レジュメ、資料等を配布し、パワーポイントを用いて講義形式で行います。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。(授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道德の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。)					
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。(日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。)					
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。(前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。)					
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。(基本的人権総論として、人権の種類、享有主体、適用範囲について理解する。)					
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。(個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。)					
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。(医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。)					
7	すぐそばにある差別：法の下での平等、不合理な差別について学びます。(性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下での平等について理解する。)					
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考える。(第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。)					
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。(日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。)					
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。(信教の自由、政教分離の原則について理解する。)					
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。(表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。)					
12	規制緩和の表と裏：職業選択の自由について学びます。(経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。)					
13	どうする？ 子どもの貧困：生存権について学びます。(社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。)					
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。(教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。)					
15	基本的人権をまもるために：権力分立と立法、行政、司法の役割について学びます。(権力分立の目的と現代的変容、立法、行政、司法の役割について学びます。)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	25	授業内容の理解度について評価します。	小レポート	5	基礎的な知識に基づいて、具体的な問題に対する考察力について評価します。	
期末試験	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。試験の詳細については、授業内で指示します。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。 [20分]教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。 事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。 [30分]</p>			<p>小テストの答え合わせは、講義中に行います。学習意欲の促進と理解度の向上を図ります。</p>			
受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。		教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿——憲法の世界へ』、第6版、棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著、有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-28147-9		
指定図書/参考書等	『図録 日本国憲法』、斎藤久・堀口悟郎編、弘文堂、2018年、ISBN 978-4-335-35761-9		その他・特記事項	授業の際には、第1回目の授業時に配布する日本国憲法の条文を持参してください。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	FT200C 学校栄養教育論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美・宮丸 慶子・堀 栄子 (代表教員 田中 弘美)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>栄養士と教員の資格を併せもつ栄養教諭の役割と職務について学ぶ。栄養教諭が食に関する授業を行うにあたって必要な理論や知識を学ぶ。それには、学校給食の歴史・変遷や給食を「生きた教材」とするために日本の食文化の理解も必要である。加えて、児童・生徒の発達や健康状態の把握と実態に合わせた効果的な授業の工夫が必要であり、学校組織としての取り組みを考える全体計画、また家庭や地域との連携・調整も必要であることを学ぶ。</p>			<p>栄養教諭制度および食育基本法など関連法規を学び、栄養教諭の役割が理解できるようになる。          栄養教諭の職務内容である「学校給食の管理」と「食に関する指導」が理解できるようになる。          「学校給食の管理」では、栄養管理、衛生管理、物品管理が理解できる。          「食に関する指導」では各教科や道徳・特別活動、総合的な学習の時間、給食の時間と食に関する指導内容との関わりが理解できる。          食に関する全体計画作成とその展開を学び、「生きた教材」としての給食の意義が理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義及び演習						
履修条件	学科指定の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養教諭誕生の背景と意義(食に係わる法令、諸制度、国民栄養の現状について)を理解する。					宮丸	
2	児童・生徒の食に関する指導の現状と課題を学ぶ。					宮丸	
3	日本と世界の食文化とその歴史(学校給食の歴史と意義を含む)を学ぶ。					宮丸	
4	栄養教諭の職務内容、使命、役割について理解する。					堀	
5	学校給食等施設における栄養管理、衛生管理、物品管理について理解する。					田中	
6	給食の時間における食に関する指導について学び、理解する。					田中	
7	家庭科における食に関する指導について学び、理解する。					田中	
8	保健体育科における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
9	道徳・特別活動における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
10	総合的な学習の時間における食に関する指導について学び、理解する。					堀	
11	学校・家庭あるいは学校・地域が連携した食に関する指導(アレルギー、肥満傾向等の個別指導の在り方を含む)について学び、理解する。					堀	
12	食に関する指導とその方法	演習	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	全員	
13	食に関する指導とその方法	演習	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	食に関する指導案・教材作成(指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う)	全員	
14	食に関する指導とその方法	演習	食に関する指導案の発表と相互評価を行う。	食に関する指導案の発表と相互評価を行う。	食に関する指導案の発表と相互評価を行う。	全員	
15	食に関する指導とその方法	演習	食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。	食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。	食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。	全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。		演習	30	発表の意欲・内容と相互評価への参加態度を評価する。	
レポート課題	20	学び取った内容が自分の言葉で表現されているかを評価する。		授業参加意欲	20	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分]          集中講義の開講前に指定図書のリポートを提出してください。[120分]          指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[120分]</p>			<p>指導案作成や教材作成のサポートをします。          授業に関する質問には随時応じます。</p>				
受講生に望むこと	1年次に履修した「教育者論」、「教育方法論」を復習し、教育実習生として授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。		教科書・テキスト	<p>「三訂栄養教諭論 理論と実際」 金田雅代編著 建帛社 ISBN978-4-76792104-4、「小学校学習指導要領」文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-487-28695-9、「中学校学習指導要領」文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-8278-1461-3</p>			
指定図書/参考書等	「学校見聞録 学びの共同体の実践」 佐藤学 小学館 / 「食に関する指導の手引」文部科学省 / 「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」 文部科学省		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
堀：学校現場での実践を提示し、参考となるようにしている。							

授業科目名	FT110C 教育原理		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要			授業の到達目標				
授業の前半では、教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解できるようにする。そして後半では、教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育理念との関わりや近代教育制度について理解できるようにする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。</li> <li>・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係について考えることができる。</li> <li>・家庭と社会による教育の歴史を理解している。</li> <li>・近代教育制度の成立と展開を理解している。</li> </ul>				
教授方法	講義						
履修条件	栄養教諭二種免許状取得を希望する者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育の基本的概念 : 教育とは何か (教育とは何かという問いの答えを人間とは何かという問いの中に探す。)						
2	教育の基本的概念 : 教育と教化と形成 (教育は教化や形成とどう違うのか知る。)						
3	教育の基本的概念 : 学校の登場 (学校がなぜ生まれ、どのように発展し、近代学校が準備されたかについて知る。)						
4	教育の基本的概念 : 学校とは何か (なぜ、すべての子供が学校に通うことになったのか考える。)						
5	教育の基本的概念 : 学力とは何か (学校教育の中心的な目標は何かを知る。)						
6	教育に関する歴史 : 道徳性の発達と教育 (社会的な規範のひとつとしての道徳性はどのように発達するかを知る。)						
7	教育に関する歴史 : 学習することの意味 (学ぶ喜びを味わうような学習活動を創り上げるためにはどのような工夫が必要なのかを知る。)						
8	前半 : 授業のふり返りとまとめ、後半 : 定期試験 (40分試験を行う。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準		
定期試験	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を正しく理解している。</li> <li>・教育原理について自分の考え方を持っている。</li> </ul>	中間レポート	15	学校が登場することになった理由について時代背景をもとにしながら書いている。		
小テスト	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな基本的知識を記憶している。</li> <li>・教育原理について理解している。</li> </ul>	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。		
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業では適宜ワークシートを配付するので、授業後、“ミニッツコメント”にコメントする。[30分] 教育の基本概念、歴史、思想など、教育に関しパソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]			小テストを採点して返却する。 中間レポートを採点して返却する。 第8回の授業の後半に定期試験を行う。				
受講生に望むこと	・どんな観点でもよいので、教育または教育の原理に興味・関心をもって授業に臨んでください。		教科書・テキスト	『やさしい教育原理』、田嶋一・中野新之祐・福田須寿美子・狩野浩二著、有斐閣アルマ、1997年出版、ISBN978-4-641-12426-4			
指定図書 / 参考書等	なし / なし		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解したりディスカッションしたりしている。							

授業科目名	FT100C 教育者論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教職に関わる基礎基本の知識技術を幅広く理解して、以後の各論への学習意欲を高めるとともに、教職に対する自己の適性を判断する材料を得る。具体的には、学校現場における様々な事例を用いて課題を提示し、児童生徒に対する見方や保護者とのかかわり、学校全体の指導体制の在り方等を考え、議論し、各学生が自分なりの意見をもち表出できるようにする。</p>			<p>教職の意義、教員の役割・職務内容、学校組織の在り方、公教育制度、地域連携と学校安全など、教育上必須の基本事項を題材とし、それぞれの課題に対する自分なりの考えをきちんと持つことができる。そのためには、課題を共有し、資料を収集し、根拠を明らかにし、他者の意見等も取り入れ、最終的には解決への自分なりの道筋を立てて小論文を作成できるようにする。</p>			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成等					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学校教育の目的と目標 教育法規に基づく学校教育の各校種の目的および目標を理解する。					
2	教職の意義と特性 教職（栄養教諭）の意義や栄養教諭になるまでのプロセスを理解する。					
3	教員に求められる役割と課題 教員に求められる役割の概要と直面する課題を理解する。					
4	教員に求められる資質能力と大学での学び 採用後の職務遂行上、必要な資質等を理解する。					
5	教員としての職務の全体像 校務分掌上の職務の全容と、各人が分担する分掌を理解する。					
6	研修の必要性と教員研修制度 研修の意義や重要性等を、法規定を通して理解する。					
7	教員の義務と身分保障 服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。					
8	チーム学校の組織と指導体制 共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。					
9	公教育の理念と学習指導要領 公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。					
10	教育制度関係法規の理解 教育諸法規の記載を通して、わが国の教育制度を理解する。					
11	教育委員会制度の理解 教育制度を支える教育委員会のしくみを、法的側面から理解する。					
12	わが国の教育制度と課題 現行教育制度が抱える課題を知り、その改善方策を理解する。					
13	地域連携と特色ある学校づくり 地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。					
14	学校の危機管理と安全教育 安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。					
15	保護者との連携 各家庭での支援と協力体制が学校教育を支える基盤であることを具体例から理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	学校教育の中の主要テーマについて課題化し、その解決に向けて客観的な根拠をもとに、筋の通った論を展開しているか		小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）+グループ活動等における積極的な役割分担+予習状況				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] 提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]				提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。		
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が増えるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。			教科書・テキスト	教師教育講座第1巻『教職概論』曾余田浩史編著 協同出版 2014 ISBN：978-4-319-106707	
指定図書/参考書等	なし/中学校学習指導要領（文部科学省）、小学校学習指導要領（文部科学省）			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校担任・管理職の経験から事例を紹介し、教師としての在り方に関する課題や解決策についてディスカッションさせている。グループでの課題解決には、ケーススタディやブレインストーミングの手法を導入している。						

授業科目名	FT121C 発達心理学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	上農 肇						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
人間の発達に関する理論を学び、発達段階におけるさまざまな発達の特徴について学習する。学習を支える理論やメカニズムについて学習する。幼稚園・小学校への授業参観を行ない、幼児期や児童期の特徴を実践的に学習する。				幼児、児童及び生徒の心身の発達について理解する。学習に関する基礎的知識を身につけ、学習を支える指導について理解する。人間の発達や学習について、基礎的用語を具体的な例を挙げて説明することができる。			
教授方法	講義を中心とするが、LITEやエクササイズを取り入れる。近隣の幼稚園・小学校への参観を予定している。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	発達の理論と知覚の発達：乳児から青年までの発達課題を概観するとともに、乳幼児の知覚の発達について理解する。						
2	身体・感情の発達：運動能力と身体発達のメカニズム、乳幼児の感情表出とその特徴、感情の成り立ちについて理解する。						
3	認知機能の発達：ピアジェによる思考の発達段階における特徴を概観し、園児・児童の観察から視点取得能力について実践的理解を深める。						
4	愛着と友人関係の発達：親子関係を愛着と養育態度からとらえるとともに、児童期から青年期にかけての友人関係の変化について理解する。						
5	知能と言語能力の発達：知能の捉え方と知能の測定について理解する。また、コミュニケーションの発達過程について理解する。						
6	動機づけと人格の発達：動機づけの理論について学習する。また、性格の類型論とエリクソンの漸成発達に示された自我の発達について理解する。						
7	性役割と性行動・道徳性と向社会的行動の発達：子どもの性役割とその取り込みについて理解する。また、コールバーグの認知発達段階論から道徳性の発達をとらえるとともに向社会性の育成について考える。						
8	発達のつまずき：発達障害についてその特徴を概観し、障害を持つ児童生徒の支援のあり方について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	60	日常生活における発達心理学としての総合的な理解を評価する。		授業時課題	30	各実施回における振り返りシートの提出と内容について評価する。	
授業参加態度	10	授業中のエクササイズやワークへの積極的参加度と取り組み方を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
新聞やTVなどの報道に日々触れること。〔20分/日〕 授業中取り上げたキーワードについてのまとめと整理〔60分〕				振り返りシートは次回の冒頭にコメントをつけてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	栄養教諭2種免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心と学習意欲をしっかりと持ち参加してもらいたい。			教科書・テキスト	図で読む心理学「発達」川島一夫 福村出版2012 ISBN 978-4-571-23041-7		
指定図書/参考書等	なし/授業中に随時紹介する			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
教育上の課題について、公立学校教員・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した幼児期・児童期・青年期の事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深める。							



授業科目名	FT141C 道徳・特別活動論(教育課程を含む)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
教育者論での総論的学習に続く、各論の学習開始に位置づく科目の一つである。教育課程編成の意義やねらいの学習に続いて、教育課程の必須の内容である道徳及び特別活動について、特に栄養教諭による食育との関わりにおいて、その内容を学習する。道徳の内容では食育の指導目標の一つである感謝の心、社会性の育成につながる指導を、また、特別活動にあっては、学習指導要領上で給食が位置づけられている学級活動に重点を置いて学ぶ。			教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できるようになる。			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程編成のねらいと意義 オリエンテーションに続いて、教育課程の構成や内容等を、指導要領の規定をとおして学ぶ。					
2	特別活動の位置づけ 特別活動の学習指導要領及び教育課程上の位置づけと、何を目的とする活動であるかを理解する。					
3	特別活動の種類と目標 特別活動がいくつかの種類で構成され、それらがどのような目標の下に展開されるかを理解する。					
4	特別活動の教育的意義と食育との関わり 特別活動がもつ教育的意義を学ぶとともに、食育とどのように関わるかを理解する。					
5	学級活動(ホームルーム活動)の内容と特性 毎週実施される学級活動の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					
6	道徳教育はなぜ必要か なぜ道徳を教科にする必要があるのか、その目的は何かを考え理解する。					
7	道徳教育の歴史と現状 道徳教育が日本の学校教育においてどのように行われてきたのか、その歴史経緯を学び、道徳教育の目的や方法の変遷を理解する。					
8	学習指導要領と教材の検討 現行学習指導要領が定める道徳教育の目標と、それを基にして開発された教材の特徴について理解を深める。					
9	道徳教育方法論の検討 道徳教育の方法も様々に開発が進んでいる。複数の道徳教育方法論を学ぶことで、現代社会における道徳教育の在り方について検討する。					
10	クラブ活動、児童(生徒)会活動の内容と特性 クラブ及び児童(生徒)会活動の内容と特性を、校種別に対比して理解する。					
11	学校行事の内容と特性 必要に応じて実施される学校行事の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					
12	学級活動「食育」模擬授業 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					
13	学級活動「食育」模擬授業 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					
14	「食育」模擬授業と評価 給食指導の模擬授業実施後にルーブリック評価を行ない、評価についても実践的に理解を深める。					
15	まとめ 目標「教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できる」について、達成度合いを確認する					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポートおよび演習成果	60	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、模擬授業等の演習における成果		小レポート	20	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的参加、グループ活動への積極性、予習状況				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] 提出を求める課題レポート等は、期限を守る。[60分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が増えるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。		教科書・テキスト	随時、資料を提供する。		
指定図書/参考書等	なし/『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』文部科学省 東洋館出版社 ISBN 978-4-491-03469-0C3037 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 廣済堂あかつき ISBN 978-4-908255-35-9C3037		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校担任・管理職の経験から、道徳教育や特別活動に関する事例を紹介し、課題や解決策についてディスカッションさせている。グループでの課題解決には、ケーススタディやブレインストーミングの手法を導入している。						

授業科目名	FT131C 教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、実際の授業展開に必要な教育方法・技術を学ぶ科目である。具体的には、授業づくりの基礎理論、総合的な学習の時間、学力をめぐる現状と課題などを学ぶ。また、レポート作成、グループワーク等を併用して、学んだ内容を実際の授業や指導に活かせるよう知識・技術の定着を図る。			児童・生徒の積極的な学びを引出す基本的な指導法を理解する。総合的な学習の時間についてその概要を知る。学力をめぐる教育の現状と今日的課題を適切に把握する。			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 到達目標、評価方法、レポート提出の方法等を知り、前期の教職科目における学びを後期で深める。					
2	教育方法の基礎理論と実践について理解する。					
3	学習指導の原理と形態 問題解決学習と系統学習、一斉学習とグループ学習等を対比しながら、それらの特性を理解する。					
4	授業デザイン カリキュラムをデザインする基礎知識について理解する。					
5	授業デザイン カリキュラムをデザインし指導法を高めるためのP D C Aサイクル法を知る。					
6	総合的な学習における学習方法を体験する 課題解決学習について理解する。講義					
7	総合的な学習における学習方法を体験する 課題解決学習について理解する。演習					
8	総合的な学習における学習方法を体験する アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。講義					
9	総合的な学習における学習方法を体験する アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。演習					
10	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。講義					
11	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。演習					
12	集団を動かす指導法について、基本的な技能を身に付ける。講義					
13	集団を動かす指導法について、基本的な技能を身に付ける。演習					
14	学力の現状と課題 児童・生徒に身に付けさせたい学力と、実現に向けての課題を理解する。					
15	教育方法について、これまでに修得した内容を整理し、成果と課題をまとめる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポートおよび演習成果	50	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、グループ協議等における成果		小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）+グループ活動等における積極的な役割分担+予習状況				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] 提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。		教科書・テキスト	『新版 教育課程・方法論』松尾知明著 学文社 2018 ISBN 978-4-7620-2765-9 C3037		
指定図書/参考書等	なし / 『教育方法の理論と実践』小川哲生・菱山覚一郎著 明星大学出版部 2011 ISBN 978-4-89549-154-9		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		
実務経験を活かした授業の概要						
「生きる力」の育成を目標とした各種教育方法について、小学校現場における実際の経験から事例を取り出し、「対話」させ、議論させ、授業に生かしている。「課題解決型学習」を実体験させながら各自の解決策を小論文にまとめさせている。						





授業科目名	FT230C 栄養教育実習指導		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・田中 弘美・堀 栄子 (代表教員 茶谷 信一)					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振り返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。			教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 学習指導案作成、教材・教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。			
教授方法	講義、演習、グループワーク、レポート作成					
履修条件	科目「栄養教育実習」の並行履修					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置 科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。					田中・茶谷
2	教育実習の目的・意義 教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組む。					田中・茶谷
3	教育実習の形態 校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。					田中・茶谷
4	教育実習の事前準備 教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。					田中・茶谷
5	教育実習のあらまし 校種別・教科別の教育実習及び栄養教育実習の期間や内容等について、それらの概要を理解する。					田中・茶谷
6	教育実習生の一週間 教育実習生の毎日の日課と1週間で実習する内容を具体的に理解する。					田中・茶谷
7	教育実習生の心構え 教師に求められる資質や能力、心構えなど、教育実習で知っておくべき基本的な事項を理解する。					全員
8	研究授業と整理会の進め方 教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。					全員
9	学習指導案の基本 一時間の授業で使用する学習指導案の構成(形式)や記載内容について、必要な事項を確認する。					全員
10	学習指導案の基本 学習指導案の記載項目への理解を深めるとともに、簡易な構成である給食指導案の書式をマスターする。					全員
11	授業研究 現役の栄養教諭による授業DVDの視聴を通して、研究授業準備の重要性を理解する。					全員
12	授業研究 優れた授業のDVD視聴を通して、導入、発問、まとめなどの指導の工夫や授業の流れを理解する。					全員
13	栄養教育実習の実務 栄養教諭の教育実習に特有な業務について、その実態や意義等を学ぶ。					全員
14	栄養教育実習の実務 栄養教諭としての教育実習の実務を中心に、その具体的な内容を理解する。					全員
15	食に関する指導の実際 授業や給食時間中の食育指導で用いる学習指導案づくりの実務を学ぶ。					全員
16	食に関する指導の実際 給食時間中における食に関する指導案づくりや、アナウンスによる指導の基本を学ぶ。					全員
17	食に関する指導の実際 授業や給食指導で用いる教材・教具の作り方や使い方の基本を学ぶ。					全員
18	食に関する指導の実際 示範授業の参観を通して、臨床的場面における食に関する指導法を実践的に学ぶ。					全員
19	先輩の実習に学ぶ 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。					田中・茶谷
20	先輩の実習に学ぶ 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。					田中・茶谷
21	給食指導学習指導案づくり 給食指導における学習指導案を作成する。講義					田中・茶谷
22	給食指導学習指導案づくり 給食指導における学習指導案を作成する。演習					田中・茶谷
23	給食指導模擬授業 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。講義					田中・茶谷
24	給食指導模擬授業 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。演習					田中・茶谷
25	学習指導案づくり 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教員の指導を受けて検討を進める。					田中・茶谷
26	学習指導案づくり 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教員の指導を受けて進化させる。					田中・茶谷
27	学習指導案づくり 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。					田中・茶谷
28	学習指導案づくり 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。					田中・茶谷

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
30	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
31	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
32	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
33	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
34	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
35	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
36	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員
37	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員
38	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員
39	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員
40	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員
41	教育実習報告会準備	成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。			田中・茶谷
42	教育実習報告会準備	成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。			田中・茶谷
43	教育実習報告会準備	準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。			田中・茶谷
44	教育実習報告会	資料を提供し実習成果を発表し合う。			全員
45	教育実習報告会	資料を提供し実習成果を発表し合う。			全員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度	実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取組状況や発表技能
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加(発言・応答)+グループ活動等における積極的な役割分担+実習準備			
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を守ること。[90分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する		
受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。		教科書・テキスト	特に指定せず、適宜資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/教育実習の常識～事例にもとづく必須66項～ 教育実習を考える会編 倉丘出版 2008 ISBN 978-4-915442-11-7 栄養教諭養成における実習の手引(第二版) 市場ほか 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1444-6 『栄養教諭養成のための栄養教育実習マニュアル』赤松利恵 他著 現代図書 2009 ISBN 978-4-86299-015-0		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
実務経験を活かした授業の概要					
茶谷：学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。 模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、S G E やケーススタディを導入したりしている。 堀：学校現場での実践を提示し、意見を発表させている。					

授業科目名	FT240C 栄養教育実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・田中 弘美 (代表教員 茶谷 信一)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校(中学校)における1週間の校外実習(栄養士資格取得)と1週間の栄養教育実習から成る。			大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。			
教授方法	栄養教育実習(研究授業、給食指導、授業参観など)、給食管理実習					
履修条件	科目「栄養教育実習指導」の並行履修					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営 服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。					全員
2	学校の概要と校務分掌 児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。					全員
3	教育活動の参観・補助 学級活動や給食の時間(配膳指導や後片付け指導)等での、食に関する指導の参観、補助を行う。					全員
4	教育活動の参観・補助 朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。					全員
5	給食管理作業の参観・補助 厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。					全員
6	学習指導案づくり 教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。					全員
7	学習指導案づくり 研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。					全員
8	教材・教具等の作成 学習指導案に基く板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。					全員
9	学習指導案づくり 研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。					全員
10	学習指導案づくり 指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。					全員
11	教材・教具等の作成 当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。					全員
12	研究授業の準備 準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのりハーサルを行う。					全員
13	研究授業の実施 学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。					全員
14	研究授業反省会 授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。					全員
15	実習記録簿等の整理 研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取り組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。		実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
期間中における翌日の実習のための事前準備[60~120分] 実習中及び実習後の提出課題の作成[30分]				実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。		
受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/食に関する指導の手引き(文部科学省) 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1492-7			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	FT250C 教職実践演習（栄養教諭）		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・堀 栄子（代表教員 茶谷 信一）					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、2年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づくグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。			学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができるようになる。			
教授方法	演習（グループディスカッション、模擬授業等）、レポート作成等					
履修条件	1年次からの全教職科目の履修					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 科目の到達目標、評価方法、授業方法を理解する。					全員
2	栄養教諭の意義・役割、職務内容 学校における栄養教諭の実務や役割の重要性等について具体的に理解する。					堀
3	食に関する指導の意義と内容 学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。					堀
4	食に関する指導の実際 給食指導（準備、食事、後片付け）の実際的な方法を学ぶ。					堀
5	食に関する指導の実際 栄養指導の実際的な方法を学ぶ。					堀
6	食に関する指導の実際 ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。					堀
7	学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。					茶谷
8	学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。					茶谷
9	特別支援教育 特別な配慮を要する児童への支援について学び、栄養教諭としての関わり方を考える。					茶谷
10	優れた授業から学ぶ 優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。					堀
11	優れた授業から学ぶ 優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。					堀
12	給食指導案と評価表の作成 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。					茶谷
13	給食指導案と評価表の作成 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。					茶谷
14	給食指導模擬授業 最も自信が持てるテーマによる5分間の模擬指導を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。					茶谷
15	まとめと振り返り 子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。					茶谷
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果		レポート	40	課題レポートの提出状況（期限、量、質）
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）+グループ活動等における積極的な役割分担+演習準備				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
課題レポートや模擬指導準備等は、期限を守ること。[90分]				原則として、提出をうけた課題は、コメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。また、演習や発表等を行った場合は、その場で指導講評を行う。		
受講生に望むこと	授業では演習に対する積極性や粘り強さ、事前準備の良否等を重視する。このため、これまでに学んだ知識・技術を意図的に演習の中に取込むことが大切である。また、これまでの学びや調べたことを基にして、自分流の方法を工夫することによって、知識や技術、指導力の一層の深化・総合化を図る。			教科書・テキスト	なし(必要に応じて資料を準備する)	
指定図書/参考書等	なし / 『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編 教育出版 2017 ISBN 978-4-316-80450-7			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
茶谷：小学校時代の経験から、給食時間の中での様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。グループでの課題解決には、S G E やケーススタディ、ブレーンストーミング等の手法を導入している。堀：学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議発表させる。ロールプレイを導入している。						